

○獨立セル人ノ他ノ憐ミヲ乞フ程愚ナルハナシ。故ナクシテ人ヲ賤シムヨリ下品ナルナシ。

○獨立セル人ハ孤立シテ天下ヲ行ク。他ノ侮蔑ヲ受クレバ他ヲ侮蔑スルノミ。陰陽剝復ハ天下ノ理ナリ。我ヲ侮ドル者ハ天子ト雖モ侮ツテ可ナリ。

人先ヅ他ヲ侮ツテシカル後侮ラル。天下ヲ侮ドルハ天下ノ故ナキニ我ヲ侮ドルガ爲メ也。

○馬ノ言葉がわかつたらよからう

○あの書生は出てくれよばよい。始終見て居る顔がはれる

死ンデキ Dauphin. All this that you tell me is very sad, monsieur l'abbé; but one thing consoles me, and that is that up yonder, in the paradise of the stars, I shall still be the Dauphin. I know that the good Lord is my cousin, and that He can not fail to treat me according to my rank.

断片

——明治三十九年——

手帳の左より右へ

○ On craint Dieu sans craindre les hommes.

Massillon. Petit Carême, Premier Dimanche, La Purification.

神を恐るゝ癖に人を恐れず。

今の世の豪商とか金満家と云ふものは常に恐れつゝある。何を恐れつゝあるかと云へば金を失ふ事と権力を失ふ事を恐れつゝある。

金は何の爲めに失ふか。権力は何の爲めに失ふか。彼等をして金と権力を失はしむるものは何であるか。——人である。金や力を失ふのを恐れて人を恐れぬのは、濡れる事を恐れて、雨を恐れぬ盲人である。

神の聲。世に神の聲があれば、人間の聲となつてあらはれる許りぢや。

Judge Fitz-Gerald's sentence upon a convicted criminal: "Your plot was perfect but for One above."

手帳の右より左へ

日置長枝娘子歌 (萬葉八 四十一)

あきづけば、をばながうへに、おくつゆの、けぬべくもわは、おもほゆるかも

見菟負處女墓歌一首并短歌 (萬葉九ノ四十九丁ヨリ同三十五ヨリ)

古への、ますらをとこの、あひきそひ、つまどひしけん、あしのやの、うなひをとめの、おくつきを、わがたち見れば、ながきよの、かたりにしつゝ、のちびとの、しぬびにせんと、たまほこの、みちのべちかく、はは構へ、つくれるつかを、あまぐもの、そきへのかぎり、このみちを、ゆくひとごとに、ゆきよりて、いたちなげかひ、侘人は、ねにもなきつゝ、かたりつき、しぬびつきこし、をとめらが、をくつきどころ、われさへに、みればかなしも、いにしへおもへば、

反歌

いにしへのさゝだをとこの、つまとひし、うなひをとめの、おくつきぞこれ。

かたりつぐ、からにもこゝだ、こひしきを、たゞめにみけん、いにしへをとこ、

田邊福麻呂之歌集出

○甲學校ニ不平アリ、同級生を煽動して休業ス。診察料ヲ出シテ診斷書ヲ出ス。父之ヲ聞キテ肯ンゼズ校醫ノ診斷ヲ經ザレバ休校ヲユルサズト云フ。甲閉口ス。幸ニ其晩カラ熱ガ出ル

○甲浪人シテ負債山ノ如シ。アル紳商其才ヲ惜ンデ某會社ノ社長ニ推ス。社長タル爲ニハ其社ノ株ヲ持タザルベカラズ。紳商因ツテ自分ノ株ヲ甲ノ名義ニ書キカヘテ甲ヲシテ社長タルノ資格ヲ具ヘシメ次回ノ重役會議ニ於テ甲ヲ社長ニ推サントス

期未ダ至ラズシテ甲急病ニテ死ス。嗣子某ナル者アリ家督ヲ相續スレバ父ノ負債ヲ負ハザルベカラズ。負ヘバ生涯浮ム瀬ナシ。限定相續ヲスレバ紳商ノ株ヲワガ父ノ名義ニ書キ替ヘタル者ヲ父ノ財産トシテ債權者ニ按分比例デ分タザルベカラズ。紳商ハ大ナル損ヲ招ク。

是ヨリ先キ嗣子家ニ寄食スル女某ト通ジテ二子ヲ生ム。父死シテ葬儀ヲ營ム能ハザルノミカ、固ヨリ妻子ヲ養フノ力ナシ。母一人、妹三人、弟一人と自己ト自己ノ妻子トヲ擧ゲテ悉ク人ノ助ケニヨリテ生活セザル可ラズ。而モ存外平氣ニテ恐レ入ツタル容子モナシ。

嗣子ノ妹、嗣子ノ妻ト合ハズ。妹ハ此妻ヲ目シテ不義ノ女ナリト云フ。此妹、父ノ存生中結婚ノ約アリ。父母ニ強ヒラレタルニモアラズ、望ンダルニモアラズ。父母ヨリ意向ヲ聞カレタラバ斷ハル積リナリシト云フ。此結婚ノ約アリシ男國へ歸ツテ出テ來ズ。殆ンド黙々ノ破約ノ觀ナリ。

父死シテヨリ相應ノ所へ嫁ニ行クノガ困難ニナル。年ハ段々トル
片斷
嗣子ノ姉二人、AトBトニ嫁グ。AトBトノ關係。Aト此家族トノ關係。Bト此家族トノ關係。

○アル物ヲアラハス時。アル物トアラハス技術ガ必要デアル。從ツテアル物ト之ヲアラハス技術ハ別物デアル。然シアル物ハ即チ技術ノ遂行デ、技術ノ發現ハ即チアル物ニ過ギンノダカラ。ツマリハ一ツ物デアル。一ツ物ト云フノハ同物ト云フノデハナク。一個ノ作品ノウチニアアル物ト技術ガ結びツイテ居ル。此二ツガ含マレテ居ル。タトヘバ一物ノウチニ色ト形ガ含マレテ居ルト同様デアル。アル意味カラ云フト色モ形モ一ツ物デアル只同物デナイノデアル。

ダカラ事實上カラ云フト形ヲハナレテ色ナク、色ヲ離レテ形ナキガ如クアル物ヲ離レテ技巧ナク技巧ヲ離レテアル物ナキ譯デアル。但之ヲ放スノハ理解上便宜デアルカラデアル。人間ノ頭腦ノ發達デコノ一ツノ物ヲ離レ離レニ考ヘルコトガ出來得ルノデアル。ダカラ詩ノハジメ文ノハジメニハ質ト形ノ區別ハナカツタラウ。

シバラク之ヲ二個ト區別シテ見ルト。(一)アル物トハ何ゾ(二)アル物ノ種類(三)アル物ノ高下杯ノ問題ガ出ル。又技術ニ就テモ同様ノ問題ガ出ル。

而シテ技術ハ此アル物ヲベスト、アドヴンテージニ發現スル手際デアル。ト假定スルト技術ハ手段デアル物ハ目的デアル。必竟ズルニ技巧ハ目的ヲ達スル道具デアル。

本來カクアルベキ筈デアル。カラシテ作品ノ價值ハ技巧ヨリモ技巧ニヨリテウマク發現セラレタル目的デ定マル。

所ガ人間ガ段々複雑ニナツテ(デフエレンシエート)スルト目的ト技巧ヲ截然區別シテ見ルコトガ出來ル様ニナル。一步進ムト技巧丈シカ目ニツケナイ人ガ出來テクル。目的ノ如何ヲ問ハズ只技

巧其者丈ヲ賞翫シテ満足シ得ル様ナ(スベシフハイ)サレタ鑑賞力ヲモツテ生レテクル人ガ出來テクル。Art for art's sakeハ此人ガ出來タ時ニ出現スルノデアル。アート、フォア、アート主義ハ人間ノ頭腦ノ發達分歧シテ細緻ナル觀察力ガ出來ル様ニナツタキ必然ノ勢トシテ起ルベキ者デアル。

他ノ例ヲ擧ゲテ云ヘバ。寒暑ヲ防グ爲メノ目的ヲ有スル衣服ガ目的以外ノ裝飾ニ意ヲ用キ。金其物ガ愉快ニナリ。其他色々アリ。Transference of emotion

衣服や金ノ場合ハ目的意外ニ裝飾又ハ無意味ノ愉快ヲ生ズルノダカラシテ。之ガ爲メニ目的其物ハヨリヨク達セラレルト云フ譯ニ行カズ。

然シ工學士ガ橋ヲカケル技巧杯ハ技巧ガウマケレバウマイ程目的ガ餘計ニ達セラレル。此場合ニ在ツテハ技巧ハ益目的ヲ達スル爲メノ道具デアル
文學ノ技巧ハ如何

○需用供給。ヨキ作品ヲ出シタル人ガ、ヨキ地位ト報酬ヲ得ベキガ正當デアル。

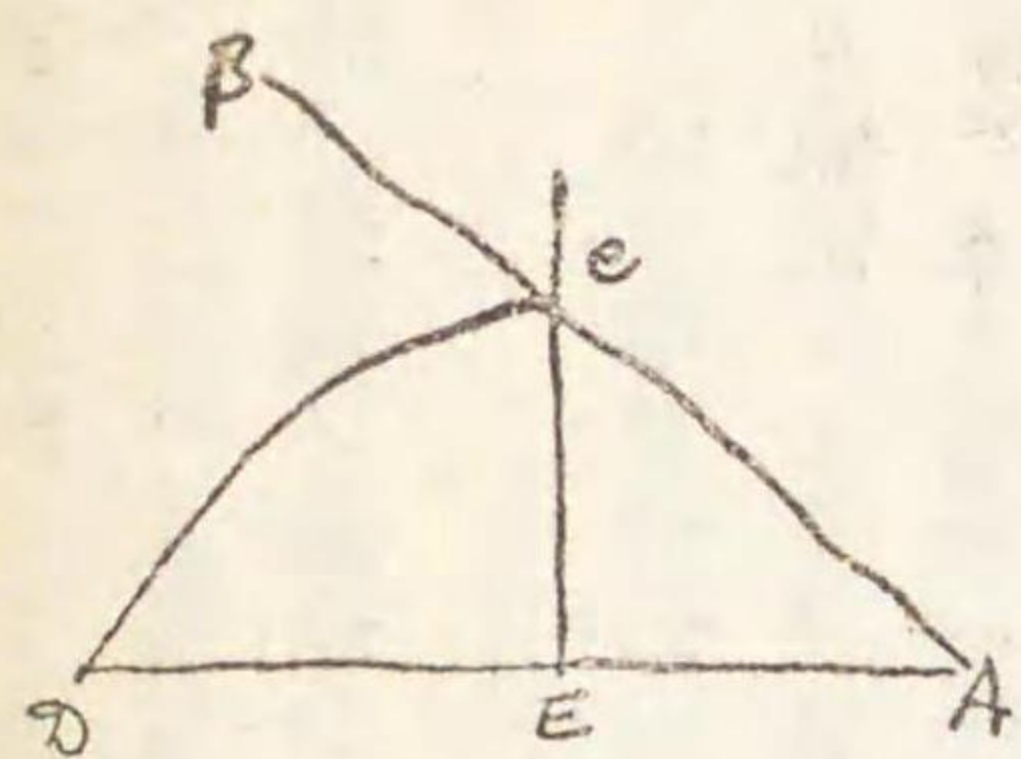
然ルニ大多數ノ讀者ハ趣味ガ低イ。從ツテ趣味ノ低イ者ガヨク賣レル。從ツテ趣味ノ低イ者ヲ本屋ガ歡迎スル。從ツテ高級ナ作品ヲ出ス者ハ餓死スル譯ニナル。作品ノ價值ト報酬ガ反比例スルト云フ妙ナ現象ニナル。

之ヲ正ス器械的ナ方法。高尚ナ作品ヲ喜ブ讀者ハ少數デアル。然モ作者ハ大多數ノ讀者ヲ有スル低級藝術家ヨリモ多クノ報酬ヲ得ねバナラン。從ツテ自己ノ作品ハ作品固有ノ價值ヲ付サネ

バナラン。即チ普通ノ著書ガ一圓ナラ五六圓デウルノガ至當デアアル。然シイクラ自分丈ガ高クシテモ買手ガナケレバ仕方ガナイ。コ、ニ於テ「アルタ子ーチーヴ」ガ起ル。少數ノ趣味のある人が普通ヨリ數倍高イ本ヲ買フ餘力ガアルカ又ハ是等ノ人ガ金ヲ得ルニ便宜ナ地位ニ立タネバナラス。換言スレバ金持ちガ趣味ノアル人デアアルカ又ハ趣味ノアル人ガ金ヲ得ナケレバナラス。

(一)金持ちガ趣味ガナイ。(二)金持ちガ趣味ガアルト假定シテモ畫や彫刻ト違ツテ本ハ數デコナス者デアアル。金持ノ専有スル者デナイ。畫や彫刻ハタゞ一ツシカナイ。ダカラ金持ちガ専有スルコトガ出來ル。然シ本ハサウ云フ者デナイ。金持ガ保護シテモ只一部シカ買ハナイ。ダカラ著書ハ左程難有味ヲ感ゼヌ。

之ヲ逆ニ云ヘバ金ヲ得ル方ノ人ハ勞力ノ高下深淺ニ比例シテ所得アルニアラズ。從ツテ金持ちハ立派ナ勞力ヲシタト云フ譯ニアラズ。即チ金持ハ金ヲ得ベカラザルニ得タトカモ知レナイコトナル



ABハ頭腦ト勞力ノ高サナリ
 ACDハ此頭腦ト勞力ニ對スル報酬ヲ示ス線ナリ。
 AC迄ハ頭腦ノ高サニ比例シテ金ノ報酬ガ増スナリ。
 Cヲ越スト頭腦ガノBノ方ニ高クナルニ從ツテ報酬ハDノ方ヘ下落シテ行クナリ。
 尤モ成功シテ尤モ公平ナル取扱ヲ社會ヨリ受クル人ハ頭腦ガ(C)ノ所ニアル人ナリ。

○美其物ヲ愛シテ其他ヲ顧ミザル状態ハ

- (一)世間ガ何處ヲ向イテモ醜惡デ然モ之ヲ改良スル餘地ノナイ片、此絶望ヲ苦ニセヌ爲メ、ワザト美ノ一面ニノミ眼ヲツケテ「マギリカス」。悲酸ナモノナリ。借金ヲ返却スル路ナキ故ニ壹杯ノ酒ニシバラク其心配ヲ忘ル、ガ如シ
- (二)天下太平ニシテ衣食ニ齷齪スル心配ナク。心ニ餘裕アリ。贅澤ヲスル時ト了簡アリ故ニ美ノ方面ニ着眼シテ充分ニ之ヲ味ヒ得。之ハ安樂ナリ

○二ト二ヲ加ヘレバ四ニナル。二ト二ヲ乗ケレバ四ニナル

- 一人曰ク。何デモフタツの者ヲ加ヘタ者ト乗ケタ者トハ同結果デアアル
- 一人曰ク。否同數ナレバ。之ヲ二ツヨセルモ、カケルモ同ジコニナルノデアアル
- 一人曰ク。二ダカラ之ヲ重子テ加ヘルノモ、カケルノモ同ジニナルノダ。

○ウマイ者を食はせる人。うまいものを食ふ人。

- ×ウマイカラ食ハセル。眞ノ技術家デアアル。(毒デモ構ハナイ)
- ×滋養ニナルカラ食ハセル。眞ニ藝術家ニアラズ。
- ×滋養物ヲ食ハセタイガ(ウマク)シテ食ハセナイト。人ガ食ハナイカラ。ウマクシテ出ス。是滋養ガ目的ニシテ技術ハ方便ナリ。

×滋養物モ食ハセタイ。同時ニウマクモ食ハセタイ。此ニツ目的ヲ有シテ居ル。食フ方

×但ウマイカラ食フ。毒デモ藥デモ構ハナイ。滋養ニナツテモ不消化デモヨイ

×滋養ニナルカラ食フ。ウマイ、マズイハ措イテ問ハン

×滋養物ハ目的デアアルガ(ウマイ)滋養物デナクテハ食フ氣ニナラン。

×滋養物も目的デアアル。ウマイ者モ目的デアアル。双方カネタ者ガ食イタイ。

Purely artistic ナ點カラ云ヘバ(ウマイ)者ヲ食ハセル人モ食フ人モ(此ウマイ者)ガ體中ニ入ツテドノ位ナ滋養ニナルカハ些トモ考ヘテゐナイ。全ク無意識カモ知レヌ。只食ツテ仕舞ツタアトデ(一)醫者ガ其男ノ身體ヲ解剖シテその爲此文滋養ガツイテ居ルト指摘スルノデアアル(批評家ノ)。是ハ偶然ノ結果デ純粹ナル藝術家ノ目的デナイカモ知レナイ。然ルニモカ、ハラズ。批評家ノ評論ヲ見ルト大概ハ滋養ノアルナシヲ議論シテ居ルラシイ。シカモ author 自身ガ滋養ノモ意識シテ(ウマイ)者ヲ製造シタカノ如クニ假定シテゐるラシイ。事實上滋養ニナレバソレデイ、ガ author 自身ガソレヲ自覺シテ爲シタダカ、ドウダカハ疑問デアアル。コトニ西洋ノ批評家ニハ此弊ガアルト思フ。甚シキハ author ニ此觀念ガナケレバ筆ヲトル可カラザルカノ如クニ云フ。(二)食ツタ當人ハ其時ハ別段ノ考モナク只ウマイカラ食ツタ所ガ二三週間スルト身體ガ肥えて來タノデ是ハ全クアノ御蔭ダナト氣ガツク。食フ時ハソシナ事ハ分カラナイデモ差支ハナイノデアアル。アトカラ考ヘテ見テ成程アノ中ニハ是丈ノ滋養分ガアツタナト始メテ合點スル。ダカラ、此斷定ハ後ニナツテ reflection カ「ラ」得來ル者デアアル。食フ時ニ豫期スル必要モナケレバ、スダ

判斷スル必要モナイ。モシウマイ者ノウチニ滋養分ガアレバ、アトニ行ツテ歷然ト出テクルノダカラシテ。矢張りウマイ者ハ單ニウマイ者トシテ食ツテ置ケバイ、。

△森ノナカニ妖怪ガ出ル。皆恐レテ歸ル。只一人ガ平氣デ往來スル。毫モ異狀ナシ

△多人衆ガ列席ノ上デ一人ノ罪人ヲ責ム。罪人ヲ責メル役トシテ衝ニ當タラセラレタ者ハ共謀者デアアル

△教育なき者はコンナ事を人生ト思つて居る。女ハコン「ナ」ヲを人生と思つてゐる。老人はコンナヲを人生と思つてゐる。小供ハコンナヲ人生ト思つてゐる。

種々ナル人ノ人生ヲ一篇毎ニカク。最後ノ一章ニ之ヲ説明スル。

奇麗ナ着物ヲキテ得意ニアルイテ居ル者ガアル。奇麗ナ着物ヲ奪ヘバ忽チ厭世家トナル。

美クシイ顔ヲシテ揚々トシテアルイテゐる者ガアル。美クシイ顔ヲ傷ケレバスグ厭世ニナル

キタナイ着物ヲキテ、醜イ顔ヲシテサウシテ得意ニアルイテゐるモノハドウシタラ厭世家ニナルダラウ

過去ヲ顧ミルハ(一)前途ニ望ナキ故ナリ(二)下り坂ナルガ故ナリ(三)過去ニ理想アルガ故ナリ(四)エラ

イ先例ガアル故ナリ

明治ノ三十九年ニハ過去ナシ。單ニ過去ナキノミナラズ又現在ナシ、只未來アルノミ。青年ハ之ヲ知ラザル可カラズ

子規。樗牛。伊藤博文。井上哲二郎^原。三井。岩崎。

詩ヲヨンデモ文ヲ讀ンデモ其興味ハ



ナル curve デ示スヲ得。換言スレバ興味ノ最頂點ニ達スルハ瞬時ノ間デアル。作其物ノ善惡ニカ、ハラズ。カクノ如キ者ナリ。果敢ナキ者ナリ

此 curve ト作其者ノ curve ヲ一致セシムル利害如何。此 curve ノ長サト作其者ノ長サノ curve ヲ一致セシムル利害如何

現代ノ青年ニ理想ナシ。過去ニ理想ナク、現在ニ理想ナシ。家庭ニアツテハ父母ヲ理想トスル能ハズ。學校に在ツテハ教師ヲ理想トスル能ハズ。社會ニアツテハ紳士ヲ理想トスル能ハズ。事實上彼等ハ理想ナキナリ。父母ヲ輕蔑シ、教師ヲ輕蔑シ先輩ヲ輕蔑シ、紳士ヲ輕蔑ス。此等ヲ輕

蔑シ得ルハ立派ナコナリ。但シ輕蔑シ得ル者ニハ自己ニ自己ノ理想ナカルベカラズ。自己ニ何等ノ理想ナクシテ是等ヲ輕蔑スルハ、墮落ナリ。現代ノ青年ハ滔々トシテ日ニ墮落シツ、アルナリ。英國風ヲ鼓吹スル者ナリ^原。氣ノ毒ナコナリ。己レニ何等ノ理想ナキヲ示スナリ。英國人ハ如何ナル點ニ於テ模範トスベキや。愚モ茲ニ至ツテ極マル。

毎日鏡ヲ見ル者ハ昨日ノ吾ト今日ノ吾ト同ジト思ヘリ。今日の吾と明日の吾トモ同ジ者と思ヘリ。かくして十年立つて始メテ十年前の吾の大ニ異ナルヲ悟ル。明治ノ世ニ住ム者モ斯ノ如シ。今年ハ明年の如く又昨年ニ似タリト思ヘリ。明治四十年ニナツテ明治元年ヲ回顧シタルキ始メテ其變化ノ大ナルニ驚ロク。

俗人ハ之ヲ知ラズ昨日ヲ以テ今日ヲ律シ、今日ヲ以テ明日ヲ律セントス。日月の留マ「ラザ」ルコトヲ知ラズ、思想ノ刻々ニ推移スルヲ覺ラズ。

昨日迄ハ大臣ガドンナ我儘迄^原デモ出來タ世ノ中ナリ。故ニ今日モ大臣ナレバ何デモ出來ル世ト思ヘリ。昨日迄ハ岩崎ノ勢ナラバ何デモ意ノ如クナリタルガ故ニ今日モ岩崎ノ勢ナラバ出來ヌコトハアルマジト思ヘリ。彼等大臣タリ岩崎タル者モ亦シカ思ヘリ。彼等は自己ノ顔ヲ毎日鏡ニ照ラシテ知ラヌ間に容色ノ衰フルヲ自覺セヌ愚人ト同ジク。先例ヲ以テ未來ヲ計ラントス愚モ亦甚シ。カノ元勳ナル者ハ自己ヲ以テ後世ニ示スニ足ル先例ト思フベシ。明治ノ歴史ニ於テ大ナル光彩ヲ放ツ人物ト思フベシ。大久保利通ガ死ンデ以來如何ニ小サクナリタルカヲ思ハズ。木戸孝允ガ今日ニ至ツテ忘レラレタルヲ思ハズ。氣ノ毒ナ者ナリ

明治四十年ヲウチニ住ミ古ルシタル輩ハ四十年ハ長イ者ト心得テ其長イ間ニ名譽アル我等ハ明

治ノ功臣トシテ後世ニ傳ハルベシトノ已惚ヲ有ス。
遠クヨリ此四十年ヲ見レバ一彈指ノ間ノミ。所謂元勳ナル者ハノミノ如ク小ナル者ト變化スルヲ知ラズや。明治ノ事業ハ是カラ緒ニ就クナリ。今迄ハ僥倖ノ世ナリ。準備ノ時ナリ。モシ眞ニ偉人アツテ明治ノ英雄ト云ハルベキ者アラバ是カラ出ヅベキナリ。之ヲ知ラズシテ四十年ヲ維新ノ業ヲ大成シタル時日ト考ヘテ吾コソ功臣ナリ模範ナリ杯云ハマ馬鹿ト自惚ト狂氣トヲカネタル病人ナリ。四十年ノ今日迄ニ模範トナルベキ者ハ一人モナシ。吾人ハ汝等ヲ模範トスル様ナケチナ人間ニアラズ

書契ナキ以前ハ口カラ口ヘ傳ヘテ長キ詩や、トラヂシヨシヨシが傳はつたものである。シテ見ルト昔ノ人ハ書物ガナクテ、書物ト同様ノ用ヲ口デ辨ジテ居タ。從ツテ昔ノ人ハ今人ヨリモ記憶ガヨカツタト云フ意味ニナル。換言スレバ人間ハ書物ト云フ依頼スル者ガ出來テ記憶ト云フ道具ノ刃ガ鈍ツテ來タノデアル。即チ人間ハ書物ヲ發明シテ夫丈記憶ノ發達ヲ害サレタノデアル。今デモ本ノ讀メナイ人ハ記憶ガイ、金持ガ馬鹿ニナルノモ此理由デアル

エライ人ヲ馬鹿ニスル程馬鹿ナトハナイ。後世ノ人ハドウシテソシナ愚ナトヲシタカト怪シム。然シ同時代ニ住ム者ハ矢張り自分ト同程度ナ人間位ニ考ヘテ居ルカラシテ馬鹿ニシテモ差シ支ヘナイト思フ。

時ガ經過シテ他ノ平凡ナ人ハ皆忘レラレテ此エライ人ガ其時代ノ代表者トシテ殘ルルキニ成程エ

ライ人デアツタンダト氣ガ付クノデアル。後世ノ人ハ初カラ茲ニ氣ガツク。同時代ノ人ハ死ヌ迄氣ガ付カナイトガアル。

一時代ノ代表者ト云フニ足ル程ノ人ヲ壓迫スルノハ自分デ自分ノ腕ヲ切ツタリ、足ヲ挫ク様ナ者デアル。後世ノ人カラ見レバ、ソレダカラ馬鹿々々シイノデアル。同時代ノ人ハソレガ當然ト心得テ居ルノデアル。

後世ニ殘ル人ハ金持チノ名前デハナイ、華族ノ名前デハナイ。今ノ世ニ赫々タル人カラ尊敬セラレル人デハナイ。コンナ者ハイカニ生前ニ威張ルトガ出來テモ死ネバスグ滅シテ仕舞フ。

同時代ノ人ハ生前ニエライクテモスグ忘レラレル人ト、生前ニハ別ニ權威門地ガナクテモ死後ニ生命ヲ有スル眞ノエライ人トノ區別ガ出來ナイ。出來ナイノミナラズ之ヲ逆サマニ考ヘテ居ル。歴史ハ古來カラ口ヲスクシテ此事實ヲ繰リ返シテ居ルニモ關ハラズ、衆人ハ決シテ悟ルトハナイ。

エライ人ガ同時代ノ人カラ馬鹿ニサレテ怒ルノハ愚デアル。エライ人ハ決シテ同時代ノ人カラ尊敬サレル様ナツマライ人間デハナイノデアル。

同時代ノ人カラ尊敬サレルノハ容易ナトデアル

- (一) 族ニ生レ、バヨイ
- (二) 華族ニ生レ、バヨイ
- (三) 金持ニ生レ、バヨイ
- (四) 權勢家ニ生レ、バヨイ

是等ニナレバスグ尊敬サレルノデアル。然シ百年ノ後ニハ誰モ之ヲ尊敬スル者ハナイ。是等ト同等ニ尊敬サレル様デハ到底後世ニ尊敬サレル譯ガナイ。

エライ人ハ小供ニモ車夫ニモ否自己ノ妻子ニモ馬鹿ニサレルコトガアル。彼等ハ同時代ノ人間デ決シテ大、小、厚薄、深淺、等ノ區別ヲ有スル者デナイカラ、エライ人モ自分ト同等位ナ者ダト思フノハ無理ノナイコトデアル。ダカラ、エライ人ガ他カラ馬鹿ニサレル、或ハ己レノ眞價ヲ認メラレヌノヲ怒ツテ居タラバ、エライ人程不幸ナ人ハナイ。ドウセ世間ハ相手ニナラント思ツテ居レバ幸福デモ不幸デモナイ。ナマジイ、故意ニエライ事ヲ注意シテ知ラシメ様トスルト大變ナ苦痛デアル。ト云フ者ハ適當ナ時機ガコナケレバ其眞價ハ到底認メラレル者デハナイ、自分ガイクラ世間ニ向ツテ吹聴シタツテ耳ヲ傾ケルモノハ決シテナイ。却ツテ輕蔑サレル許リデアル。馬鹿々々シクツテモ、黙ツテ居ル方ガ吞氣デイ、。

後世ニナレバ到底同程度ノ人デナイ者ヲ同程度位ノ考デ併べ稱シテ居ル様ナ場合ハ本人カラ云フト可笑シイ位ナコトガアルカモ知レヌガ、ソレヲ辨解^原シタツテ却ツテ世間ニハ誤解ヲ引キ起スノミデアル。濟マシテ居ルウチニ、自分ト同程度ダト見做サレタ連中ハポツリト消えて行クノデアル。エライ人ハ、ソコガ分ツテ居ルカラシテ失望ヲシタリ、不平ヲ言ツタリ、苦痛ヲ求メタリスル必要ハナイ。——車屋カラ馬鹿ニサレテモ、小供カラ馬鹿ニサレテモ、妻子カラ馬鹿ニサレテモ、矢張りエライ人デ満足シテ居ルガヨイ。

△社會ハ存外公平ナモノデアル (一章)

△社會ハ存外不公平ナモノデアル (二章)

△社會ニ吾ハナイモノデアル (三章)

△社會ハ己レデアル (四章)

△神、告ゲ、幽靈、等ヲ皆 suggestion / personification トシテ使用スル方法

己レヲ大ニスル方法。己レノ住ンデ居ル世界ヲ遠クカラ眺メル法。遠クカラ見ルト自己ノ世界ノ高低、深淺、高下及ビ自己ト周圍トノ關係ガ歴然トワカル。

普通ノ眼力デ遠クカラ眺メルノト、燃岸ノ眼識ヲ以テ其ウチニ居テ眺メルノトハ同様デアル。

夫ダカラ現代ヲ評スルニ當ツテ後世ノ凡人ト現代ノ巨人トハ同程度デアル。

町内ノモノヲ己レト同程度ニ譯ノワカツタ人間ダト假定スルガ故ニ彼等ガ自己ノ見識以下ノコトヲスルキニ其非ヲ責メタクナルノデアル。シカシ町内ノ者ガソナニ見識家デナイト云フコトハ己レヲ遠クニ置イテ眺メラバスグ合點ノ行クコトデアル。己レト同様ノ程度ノ生活ヲシテ、己レト同程度ニ社會上ノ地位ヲ有シテ、其他色々ノ點ニ於テ自己ト同程度デアルト思フ序ニ彼等ノ教育モ同程度ダト知ラヌ間ニ假定スルノデアル。成程教育ハ同程度ノモノガアルカモ知レヌ。然シ形式丈同ジ教育ヲ受ケタト云フ意味ト教育ノ内容ガ同ジト云フ意味トハ大變ナ違デアル。同ジ大學ヲ卒業シタカラト云ツテ、同ジ見識ヲ有シテ居ルト速斷スルト大變ナ誤謬ニナル。吾人ハ町内ノ人ガ同程度ノ生活ヲシテ同程度ノ服装ヲシテ同程度ニシヤベツテ同程度ニ形式上ノ教育ヲ受ケタ

片斷

ト云フ點ヲ見テスグ其見識や人生觀迄ガ已レト同程度ダラウト超ユ可カラザル論理ノ畛域ヲ跨イ
 デ仕舞フカラシテ彼等ノ行爲動作ガ已レノ豫期スル所ニ及バザルキニ不平デアル。其非ヲ責メタ
 クナル。失敬ダト思フノデアル。此結論ハ正シイカモ知レヌガ其假定ハ大間違デアル。夫程理窟
 ノ分ツタ人ガ世ノ中ニ澤山居ルナラバ自分ハ矢張り凡人デアル。町内中ニゴロ／＼シテ居ル様ナ
 者ノ一人デアル以上ハ筆ヲ執ツテ文章ヲカク必要モナイ。自己ノ所説ヲ天下ニ紹介スル必要モナ
 イ。又天下後世ニ譏ハレル必要モナイ。苟モ自己ハ後世迄生キル資格ガアルト自信スル以上ハ、
 苟モ自己ヲ後世迄殘サウト決心スルカラニハ、町内ノ誰彼トハ別途ノ人間デアアルコトヲ暗々裏ニ認
 識シタノデアル。認識スル以上ハ彼等ノ行爲言動ガ遙カニ自己ノ豫期以下ニ愚劣デアツテモ野卑
 デアツテモ淺薄デアツテモ驚ロクモ怪シムコトモ不平ナコトモナイ譯デアアル。彼等ガ愚劣野卑デ
 淺薄デアレバコソ自己ハ天下後世ニ殘ル資格ガアルノデアル。一方デハ自己ガエライト云フコトヲ
 認メナガラ一方デハ往來デ逢フ誰彼ノ淺薄野卑庸劣ナコトヲ憤フルハ大ナル矛盾デアアル。

先方カラ云ツテモ同様デアアル。先方ト同ジ位ナ形式的ナ教育ヲ受ケテ、同ジ位ナ社會上ノ地位
 ヲシメテ、同ジ位ナ身ナリヲシテ居ルカラ心ノ底モ多分ハ自分位ナ者ダト假定ヲシテカ、ル。コ
 ノ假定ニハズレタキハ程度ガ違フトハ心付カヌ。程度ハ同ジダガ性質ガ違フト思フ。程度ハ高イ
 ノデハナイ、變ツテ居ルノデアル。變物デアアル。變人デアアル丈ダカラシテ、自己ノ見識や料簡デ
 充分料リ得ル人間デアアルト思フ。

ダレダツテ自分ノ壽命ヲ知ツテ居ル者ハナイ。他人ニハ猶知レツコトナイ。醫ヲ業トスル專問家
 ダツテ人間ノ生命ヲ勘定スル譯ニハ行カナイ。自分ガイクツ迄生キルカハ、生キタアトテ始メテ、

言フ可キコトダ。八十迄生キタト云フノハ八十迄生キテ事實ガ證據立テナクテハ云ヘヌコトダ。假定
 八十迄生キル自信ガアツテ其自信通りニナルニシテモ八十迄生キタト云フ事實ガナイ以上ハ誰モ
 信ズル者デハナイ。人間ヲ知ルノモ此レト同様デアアル。自己ニドノ位ナ忍耐力ガアルカ、才氣ガ
 アルカ、記憶力ガアルカ、慈善心ガアルカ、ヤリ通シタ上デナクテハ分ルモノデハナイ。過去ガ
 カウダカラ未來モ其位ナ程度ダラウト豫想スルノハ、今迄生キタカラ、是カラ先キモ生キルダラ
 ウト云フ様ナモノデアアル。今迄ハ外界ノ境遇ガ自己ノ生活ヲ保存スル様ニウマク出來テ居タカラ
 生キタノデアル。是カラサキ周圍ノ狀況ハドノ位變化スルカラワカナイ。下ノ位ノ變化ニ堪ヘ得
 ル程ノ體質デ、下ノ位以上ノ變化ニ逢ヘバ死ヌカハ過去デハ判斷ガ出來ナイ。只其場合ニ臨ンデ
 事實ガ證據ダテルノヲ待ツヨリ致シ方ガナイ。

自己ガ世間ト戰爭ヲスルノデモ戰爭ヲシツクシテ後ヲ顧ミルキデナクテハ自己ノ戰鬥力ハ知レ
 様ガナイ、世間モ亦其人ガドノ位強イ人デアアルカハ其人ガ死ヌ迄ノ事實ヲアトカラ纏メタ上デナ
 ケレバ一言モ云ヘル譯ノ者デハナイ。最後ニアンナ人ナラ、ヨセバヨカツタト云フ結果ニナルノ
 ハワカリ切ツテ居ツテモ事實ガソレヲ證明シナイ以上ハ到底覺レルモノデハナイ。

ダカラシテ吾人ガ世間ト戰爭ヲスル、又ハアル者ト戰爭ヲスル場合ニハ戰爭ヲヤメロ、戰爭ヲ
 シテモ貴様ハ勝テツコナイト教ヘテヤツテモ到底承知スルモノデハナイ。矢張り仕舞迄ヤツテ見
 テ、ア、詰マラナイ、トウ／＼駄目デアツタト落膽サセテ自覺スル迄ヤラセルヨリ外ニ道ハナイ
 ノデアアル。見ス／＼先ガ見エ隙イテ居ルカラ忠告シテヤルノハ親切心デアアルケレド、ソレガ合點
 出來ル様ナ人間ナラバ、コツチト同程度ナ者デアアル。コツチト同程度ナ者ナラバ、コツチ程エラ

クテ、コツチ程天下後世ニ殘ル資格ガアル者デアル。ソナ者ナラバ始メカラコンナ愚ナヲハセ
ン筈デアル。之ヲヤリ出ス様ナ淺幕ナ者ナラバ、コチラノ見識ガ吞ミ込メテ、コチラノ云フヲガ
分カル者デハナイ。ヤル丈ヤツテ自覺サセルヨリ仕方ガナイ。コンナ馬鹿デモ後世ニ生レルカ、
利害ノ關係ノナイ社會カラ見レバ自分ノヤツテルヲ愚ナヲニハスグ氣ガツクノデアルガ因果ノ
波ニ足ヲサラハレテ、アツプノシテ居ルウチハ人ノ云フヲガワカル者デハナイ。仕方ガナイ。

西洋ハドウデモイケナイで今日迄發達したる國なり

日本はドウデモヨイで今日迄押し通したる國なり

日本ガ西洋ト接觸シ出シタ今日カラハ、ドウデモヨキモノが漸々ドウデモヨクナクナル時機ナ
リ。夫故ニ今ノ日本デ先例ニノツトラントスル者ハ時勢ニ通ゼザル者ナリ

文士保護ヲ説ク。文士保護ハ獨立シ難キ文士ノ云フ言ナリ。獨立スルノ法ハ自己ノ作者^原ヲヨク
賣レル様ニスルヲナリ。世間ノ趣味ヲ開拓スルニアリ。保護ハ舊幕時代、貴族的時代ニ云フベキ
ヲナリ。個人平等ノ世ニ保護ヲロニスルハ耻辱ノ極ナリ。退イテ保護ヲ受クルヨリ進ンデ自己ニ
適當ナル租稅ヲ拂ハシムベシ。

理想ハ自己ノ内部ヨリ躍如トシテ發動シ來ラザル可ラズ。奴隸ノ頭腦ニ何等ノ雄大ナル理想ノ
宿リ得ル理ナシ。西洋ノ理想ニ壓倒セラレテ目ガ眩ム日本人ハアル程度ニ於テ皆奴隸ナリ。奴隸

ヲ以テ甘ンズルノミナラズ、好ンデ奴隸タラントスル者ニ如何ナル理想ノ腦裏ニ醗酵シ得ベキゾ。
既ニ理想ノ凝ツテ華ヲ結ブ者ナクンバ藝術ハ死屍ナリ

自己ハ過去ト未來ノ一連鎖ナリ。過去ヲ未來ニ送り込ム者ヲ舊派ト云ヒ未來ヲ過去ヨリ救フ者
ヲ新派ト云フ。自己ノウチニ過去ナシト云フハ吾ニ父母ナシト云フガ如シ。吾ニ未來ナシト云フ
者ハ吾ハ子ヲ生ム能力ナシト云フニ等シ

ワガ立脚地ハコ、ニ於テ明瞭ナリ。(1)ワレハ親ノ爲ニ生存スルカ(2)ワレハ自己ヲ樹立センガ爲
メニ生存スルカ(3)ワレハ子ノ爲メニ生存スルカ。(一)ト(三)ニアタギズムヲ加ヘ得ルガ故ニ吾人ノ立
脚地ハ五トナルヲ得

(a)文藝復興ハ大ナル意味ニ於テ親ノ爲メニ生存セル意義ノ大活動ナリ(但シアタギスチツク)

(b)スコットハ中世紀ナル先祖ノ爲メニ生存セル人ナリ(アタギスチツク)、ラファエル前派モ亦
同ジ。マクフアーンソンモ同ジ。チャタートンモ同ジ

(c)イブセンは自己ノ爲メニ生存セル人ナリ。ニイチエモ同ジ。ブラウニングモ同ジ、キプリ
ン^原グも同ジ。

(c)子ノ爲ニ生存シタル者

人間ハ朝カラ晩迄假面ヲ被ツテ居ル。只飯ヲ食フ時丈ハ假面ヲトル。敢テトリタイカラデハナ
イ。トラネバ飯ガ食ヘンカラデアル。飯ヲ食フコトハ假面ヨリモ大切デアル。

假面ヲトランデモ飯ガ食ヘル者ハ始終ツケテ居ル。華族ダノ金持ハ是デアアル。ダカラ華族や金持ハ假面ダカ本當ノ顔ダカラナイ顔ヲシテ居ル。

教育ノナイ者ハ日ニ何遍モ假面ヲトラナクテハナラヌ。貧乏人モ日ニ幾度トナク假面ヲトル。白銅一ツヤルトスグトツテ見セル。

假面ガ薄クテ下カラ本當ノ顔ガ見エ透クノガ大分居ル。之ハ塵ヨケノ氣デ面ヲ被ツテ居ルノダラウ

假面ト云フ名ノ下セナイ、マヅイ面ヲツケテ得意ナノガアル。探偵ノツケテ居ル面ハ之デアアル

自分ニハ大變利口ナ面ニ見エテ他人カラハ馬鹿氣テ見エル假面ガアル。占者ノ假面デアアル

大人ノ様デ頗ル若イ面ガアル。中學生ノ假面デアアル

自分ニモ人ニモ愚ニ見エル假面ガアル。教師ノ假面デアアル

小便デ假面ヲ洗ツテ居ル者ガアル。何年立ツテモ臭イ假面ダツタサウダ

一生懸命ニ假面ノ鼻ヲ削ツテゐる者ガアル。持主ハ何年立ツテモ痛クナカツタサウダ

假面ノ上ニ御白粉ヲツケルノガ居ル。イクラツケテモ本當ノ顔ハキタナカツタサウダ

エラサウデ話ラナイ假面ガアル。學士ノ假面デアアル

戀ハ剥ゲ易イ假面デアアル。

忠君愛國ハ都合ノイ、假面デアアル。

耶穌ノ假面ハ惡魔ノ被ルモノデアアル。英國人ハコレデアアル

孔子ノ假面ハ盜跖ガ盗ンデ行ツタ。支那人ハコレデアアル。

虚榮ハ戀ノ假面ヲ被ル。戀ヲタ、キ壤ハスト、スグ知レル。

博士ノ假面ハ死ヌト消エテナクナルサウダ。

占者ノ假面ヲ信仰シテ居ル者ガアル。裏側ノ方ヘ舌ガ出テ居ルノガ難有イノダサウダ。

▲一人曰く圓なり。一人曰く方なり。固く執つて下らず。第三者ニ行ツテ之ヲ質ス。第三者曰くどうでもよい。二人呆然タリ。一人ハ圓ノミヲ知ル。一人ハ方ノミヲ知ル。故ニ己レヲ是トシテ他ヲ非トス。第三者ハ圓ヲ知り又方ヲ知ル。故ニドウデモヨイト云フ。而シテ二人ハ第三者ヲ以テ愚トナス

▲道義上醜ナル者、怪ナル者、卑ナル者、ヲ容レテ平然タル者ヲ廣イト云フ。之ヲ容レヌ者ヲ狭イト云フ。世間デハ容レルト云フヲ贊辭ニ用キ、容レヌ者ヲ貶辭ニ用キル。而シテ何ガ故ニ廣イ人ガヨクテ、狭イ人ガ悪イノカヲ考ヘヌ。廣イノハ只廣イノデ、狭イノハ只狭イノデアル。上下ノ區別ハナイ筈デアル。

清濁併呑ムト云フコトハ(一)清濁ノ區別ノ出來ヌ人(二)感覺ノ鈍イ人(三)是非ニ關セズ、アル事ヲ成就セントスル人。コノ三種ノ人ハドツチカラ云ツテモ、ホメラレル可キ人ニアラズ

悪ヲ容レヌト云フ人ハ(一)善惡ノ區別ノ出來ル人(二)感覺ノ鋭敏ナル人(三)是非其モノガ目的デ、是非以外ニ目的ヲ有シテ、悪人ヲ悪人ト知リナガラ、之ヲ利用スルガ如キ下等デナキ人

右ニヨツテ見レバ人ヲ容レルト云フ人ヨリモ人ヲ容レヌ人ノ方ガ健全デアル。高尚デアル。純潔デアル。

然シ容ラレル人、容ラレヌ人ノ側ヨリ云ヘバ此評價ハアベコベニナル。下等ナ者デモ己レヲ容レテ呉レルカラ褒メルノデアル。

上等ナ者デモ己レヲ容レテ呉レヌカラクサスノデアル。

褒メルノモ、クサスノモ皆人ノワレニ對スル利己主義カラ來ルノデアル。ソレニ心ヅカズシテ、廣イ人ト云ハレ、バ喜ビ、狭イ人ト云ハレ、バ不平ナノハ無暗ニ人ノ煽動ニ乗ルト同様ナモノデアル。

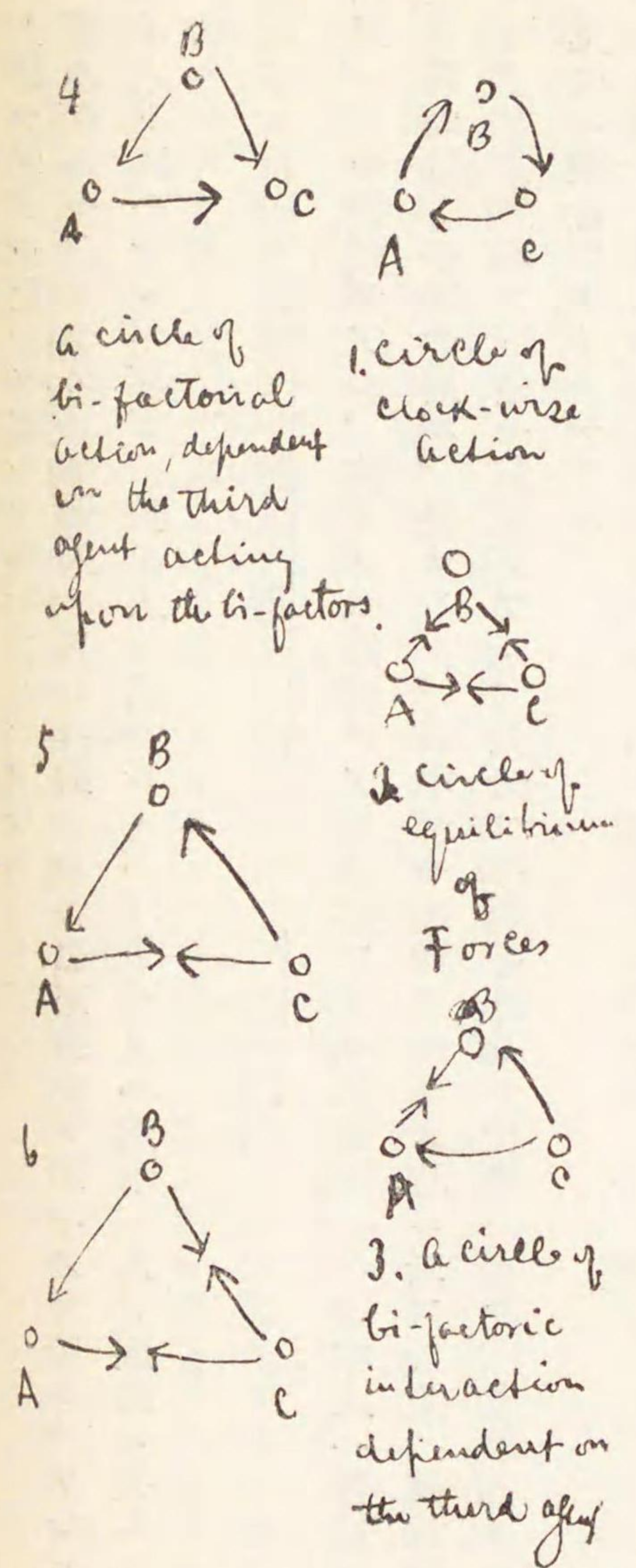
△怒ルノモ假面デアル、泣クノモ假面デアル。笑フノモ假面デアル。本人ハ假面ヲ被リナガラ、之ヲ眞面目ト心得テ居ル。愚ナコトダ。日本デモ西洋デモ死ヌ時ニ云フコトハ眞面目ナ者ダトシテアル。本當ヲ云フト是モ假面デアル。只云フや否や死ンデ仕舞フカラ、其假面タルコトヲ證據立テ、見セル機會ガナイノデアル。

尤モ可笑シイノハ女ノ涙デアル。女ノ泣クノハ、ソラ涙ガ多イ。タマニハ本當ノ涙ヲ出シタ積デ本人丈ハ泣イテ居ル。所ガソノ涙ガ大々のソラ涙デアル。男ニモヨクコンナ事ガアル。

世ノ中ニ笑フ可キコトハ甚ダ多イ。泣クベキコトハ殆ンドナイ。皆假面デアルカラデアル。笑フ可シト云フノハ假面ヲ被ツテ眞面目ナ氣デ居ルカラデアル。假面其物ハ笑フベキコトモ何トモナイ

尤モ淺薄ナ假面ノ例ニハ貴婦人杯ノ慈善事業ガ一番イ、本人ハ眞ニ慈善ノ氣デ居ル。實際ハ虚榮ノホカニ何ノ意味モナイ。女ハコンナ淺薄ナ假面サヘ剝イデ自分ヲ研究スル能力ノナイワカ

ラズ屋デアル。單ニワカラン丈デハナイ、ソナナ勇氣ガナイノデアル。
 單ニ勇氣ガナイノデハナイ、シカク已惚ガ強イノデアル。
 身分ノイ、上品ノ様ナ女ニハ猶々コンナ已惚ガ強イ。ダカラ彼等ハ地獄ヘ落ちテ然ル可キ罪ヲ
 持チナガラ、死ヌ迄神ノソバヘ行カレルト思ツテ居ル。世ニ女^原杯幸福ナモノハナイ
 面白イ世ノ中ダト云フ者ハ小供カ馬鹿デアル。苦シイ世ノ中ダト云フノハ世ノ中ヲ買ヒ被ツタ
 者ノ云フコトデアル。世ノ中ハ自殺ヲシテ御免蒙ル程ノ價値ノアルモノニアラズ



三ノ人物ヲ取ツテ相互ノ關係ヲ寫ストキ此六個ノ分岐ヲ生ズ。之ヲ交錯シテ互ニ用ゐる片無限ノ波瀾ヲ生ズ

△悲劇ト喜劇ハ同ジ物ナルコト

△神經衰弱デアル

遊離的の文素(色々種類ヲ學グベシ) 戀愛ハ serious ナル要素ノ如クニシテ又一面ニハ此遊離的ノ素質ヲ帶ブ。之ガ爲メニ戀愛専門ノ文學ハ滑稽文學、飄逸文學、解脱文學ト同様ナル趣ヲアル點ニ於テ認ム。現今ノ戀愛文學ガ何ダカ飽キ足ラヌト云ハル、一原因ニハ如何ナル理由アルカト考ヘレバ、極端ノ戀愛文學ヲ想像シテ見レバ分ル。極端ノ戀愛文學ハ一種ノ遊離文學デアル。而モ戀愛ナル者ハシリアスナル人生ノ要素トシテ著者ニヨリテ描カレ、又讀者ニ因ツテ期待セラル。カクノ如クニシテ其結果ハ遂ニ一種ノ遊離文學ニ終ル故ニ讀者ハ何トナク不滿ナノデアル。ダカラ此遊離的ノ量ヲ減ジテ實際ノ生活問題ニ觸レタ者ヲ加味スレバ戀愛モ大ニ眞面目ナモノニナル。而シテ讀者ガ首肯スルコト受合ナリ

片斷
 禮義^原ハ文法ノ如シ。文法ガ文章ヲ作り能ハザル如ク、禮義ハ人格ヲ作ルコト能ハズ、今ノ世ノ紳

士ノ資格ト云フノハ禮義ト云フ意味ナリ(尤モヨク解釋シタ所デ) 是猶文法ニ合セル文章ヲ見テ
名文ナリト騒ギ立テルガ如シ

服装杯ニ好ミノアル人ガ反ツテ「ハイカラ」に見えずシテ、其方ニアマリ趣味ナキ人ガ却ツテ
ハイカラニ見える事あり。是はこんな譯である。前者はいかに凝ツタナリをしてもそれをよく着
こなして居る。後者ハ左程に品物ヲ撰ばざるにも關はらず、己れが着けたものをこなして居らん。
だから一方は自然ニ見えて、一方は不自然に陥る。言ヲ換えて云へば前者は嚴密なる嗜好ノ試験
ニ及第セルモノ、ミヲ、アツメテ身につけて居るにも拘はらず其選擇ノ際ノ苦心や、愉快や、自
慢に拘泥シテ居ラン。恰モ裸體デ居ルト一般ノ心持チデ居ル。然ルニ他ハ左程ニヤカマシク衣装
道具ヲ詮議立てをせぬ癖にどこへ行つても、いつ迄も己れの服装に拘泥して居る。百姓が大禮服
ヲつけた様なものである。

して見るとハイカラと云ふ語は一考考へると服装丈で極る様デアルガ一步進ンデ考へると是ハ
當人ノ氣ノ持ち様。心の態度である。

そこで文章もその通りである。一字一句を吟味して苟もせぬからして、何だか不自然で窮窟に
見える。又ハ厭味が多いと言ふ(換言すれば作つた文章はいかぬ。行雲流水ノ様に天真爛熳原に飾
らない所がいゝ)と云ふのは一應尤もの様だが、句を撰み、字ヲ練る事が必ず不自然になるとは
云へない。嚴密にエリ好ミをして、飽く迄スキ嫌をして。そして其句其字を平氣で、自然に、何
の苦もなく。拘泥センデ使ヒコナシテ居レバヨイノデアル。イクラ字句ヲ關ハズニ書イテモ、書

イタ所ヲ見テ何トナク拘泥シテ居ル、始終氣ニシテ居ル、自分で自分ヲ、始終批評シナガラ進行
シテ行く様デハ讀者ハ反ツテ「キザ」な文章家だと思ふ。なぜコンナ結果ガ起ルカ心理的ニ説明
スルト面白い。説明略ス

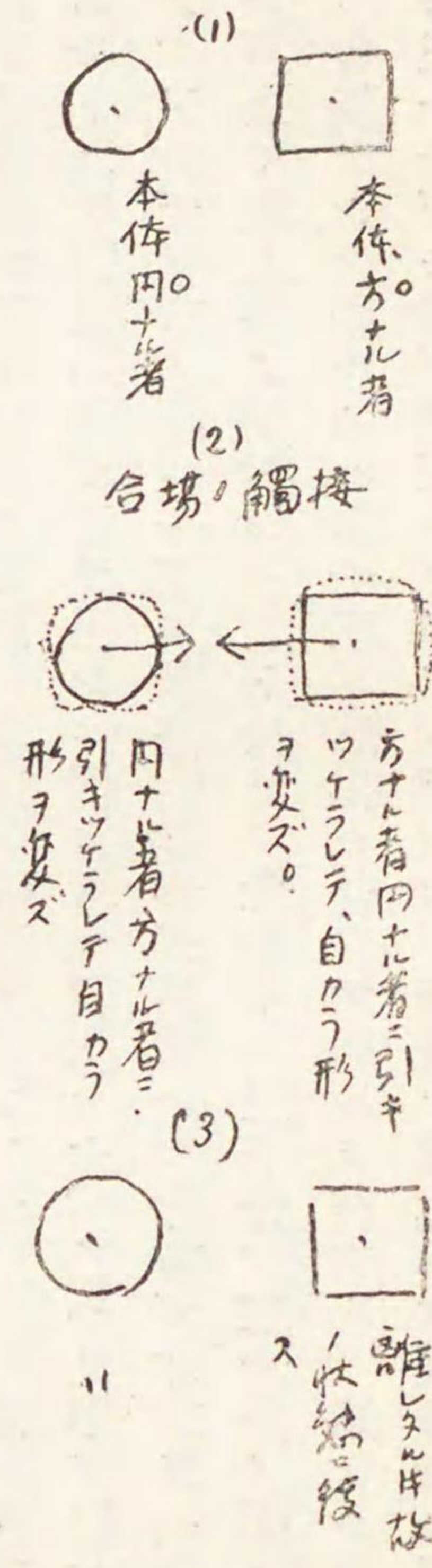
△空想。 庭前の景色カ何カヲ見テ過去ヲ考ヘテ居ル。茫然トシテ居ル所へ。「アナタ御飯デス」
ト妻君ガ出テ來ル

△若イ男ト女ノ會話ヲカク。戀ニ似テ戀デナイ様ナ。ツヤガアツテ厭味ノナイ者

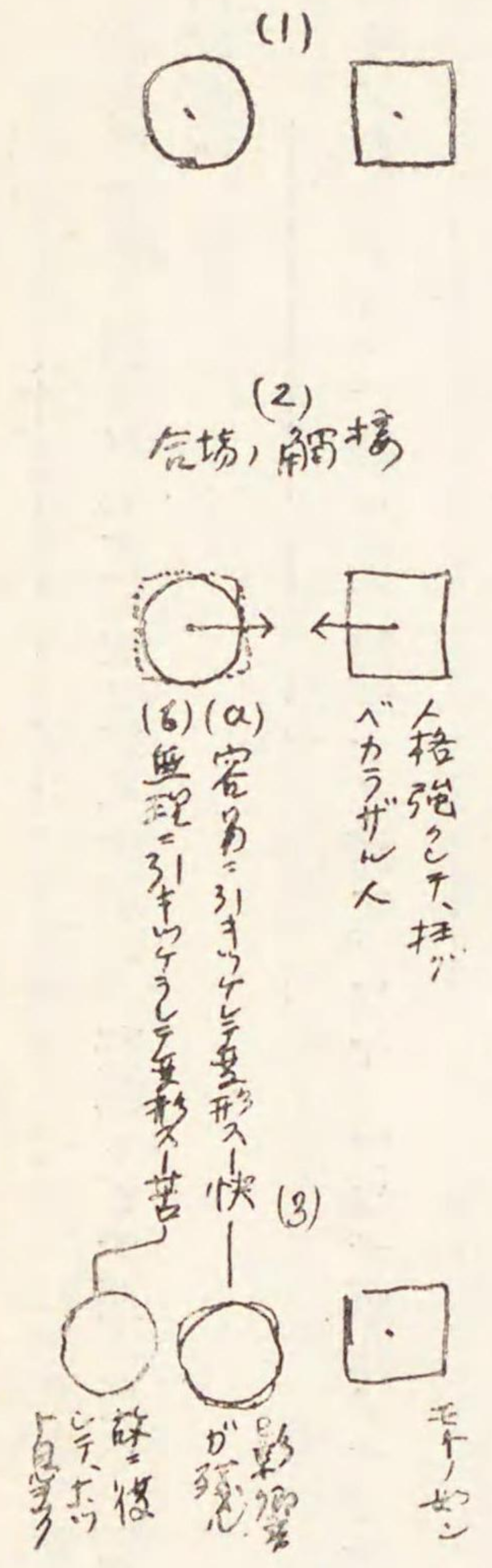
片斷

人ノ感化ヲ受ケルト云フコトハ偉大ナ人ニ接シタ場合ニヨクアルコトデ、常ノ場合ニハ起ラナイト
考ヘルノハ間違デアル。感化ハ微細ナ程度ニ於テ常人ガ接觸ノ際ニ始終起ツテ居ル。感化ト云フ
ト一種ノ特別ノ意味ガアル様ダガ實際ハ双方ノ呼吸ガ合フコトデアル。或ハ双方ノ近似スルコトデア
ル。近似スルト云フ意味ハ甲ガ乙ヲ己レニ似タ者ニ變化サセ、乙ハ又甲ヲ己レニ似タ者ニ變化サ
セ様トシテ、ソレデ双方ノ間ニ一種ノ調停的變形ガ出來ル。片方ガ片方ヲ「モデファイ」スル程
度ガ強ケレバ強イ程人格ノ判然シタ人ト云フ。此働キハ二十分、三十分ノ間ニモ起ル。二十分三
十分ノ間ニ會談ヲシテ居ルノハ即チ互ニ感化シ合ツテ居ルノデアル。感化シ合ツテ居ル證據ニハ
二十分デモ三十分デモ話ガ出來ルノデアル。シカシ斯様ナ感化ハ本人自身ハ意識セズに濟ンデ仕
舞フ。

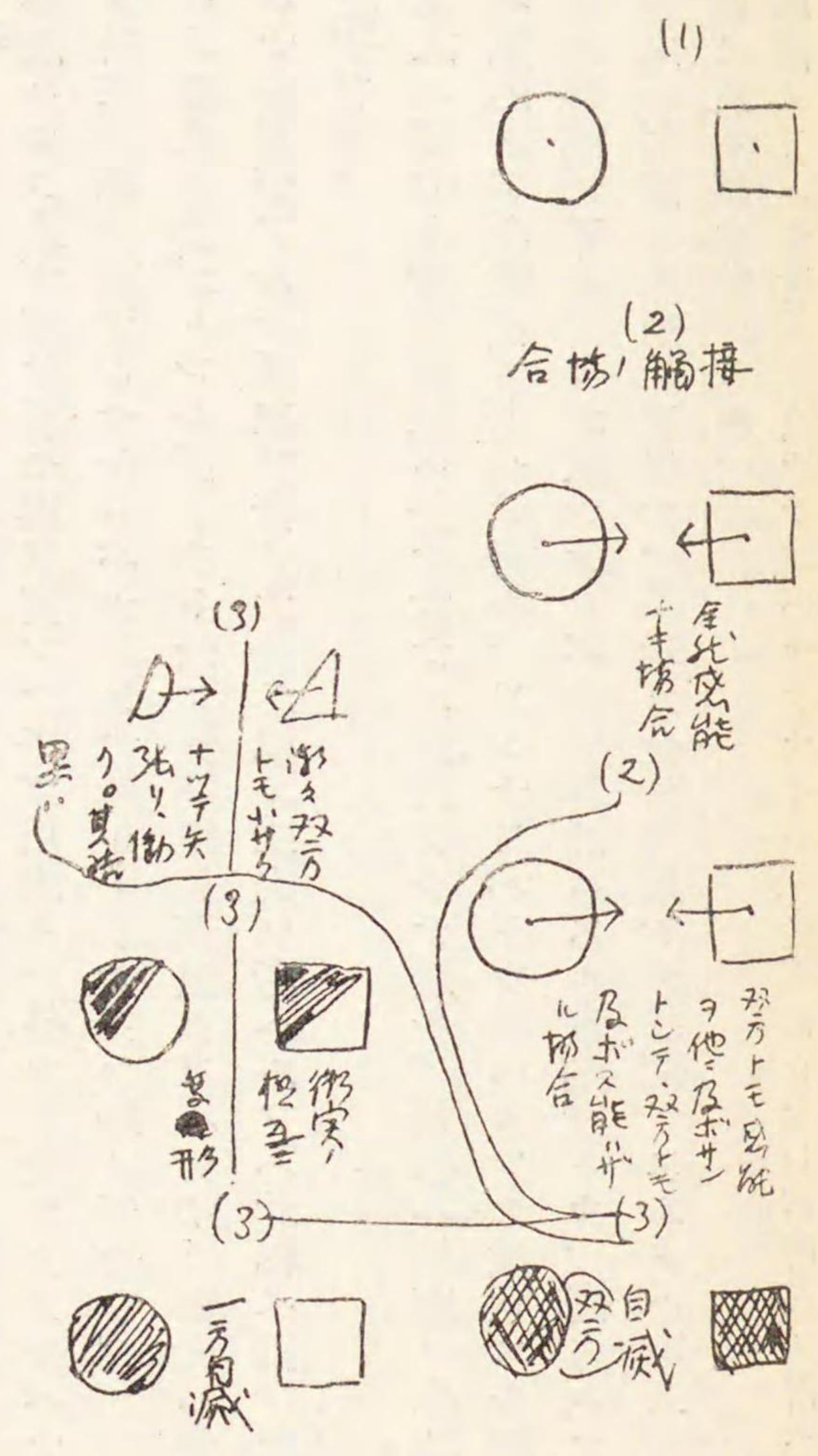
壹第



貳第



参第



第一ハ普通ノ場合ナリ。第二ハ左程多カラズ。小供ガ先生ノ前ニ出タリ。青年ガ長者ニ接シタル場合ニ起ル。第三の(2)ノ一ノ場合ハ車夫ト碩學ト對シタル場合ノ如シ。双方度外視セザルヲ得ヌ故ニ斯ノ如シ。坊主ト金満家モ然リ。第三の(2)ノアトノ場合ハ非常ニ多シ。世ノ中ハ是ヲ以テ充滿ス。而シテ其場合ノアル者ハ全く自滅ニ了ル。傍カラ見レバ氣ノ毒デアル。然シソレガ其物ノ性質ダカラ仕方ガナイ。人間ノ心ノ根底ニ働ク大原動力ハカウデアアル。——他人ヲ悉ク己レノ様ナ者ニシタイ。——其又奥ニヒソム原動力ニ曰ク、世間ガ己レト同ジ様ナ者ニナツタ片自己ハ

心丈夫デアル。——ダカラ自分ヲ心丈夫ニスル爲メニ人ハヨク自滅スルノデアル 換言スレバ自己ノ目的ト反對ノ結果ヲ來ス。此結果ヲ豫期シテアル所デ我慢スル者ヲ智慧ノアル者ト云フ。反對ノ結果ガ出テ始メテ悔ユル者ヲ馬鹿ト云フ。反對ノ結果ガ出テモ氣ガツカズニ死ヌ者ヲ本能性ノ人間ト云フ。而シテ女ハ多ク此本能性ニ屬ス。或ハ馬鹿ノ部ニ屬ス。智慧者ニ屬スル女ハ頗ル少ナイ。女ノ智慧ハ一日ノ智慧デアツテ、根本的ニハ本能性デアル。ダカラ女ノ智慧ヲ猿智慧ト云フ。

國史ヲ專問^原ニシタ人ガ來テ私モ妻ヲ貰ツテ子ガ出來タ。是カラ金ヲタメ子バナラヌ。是非共子供ガ修業ノ出來ル程貯蓄ヲシナケレバナラヌ。然シドウシタラ好イデセウ。

ドウシタラ國史デ金ガトレルドラウト云フ質問程馬鹿氣タ^トハナイ。國史ハ金ニナル者デハナイ。學者ニナル者デアル。國史ヲ修メテ金ヲ取ル工夫ヲ考ヘルノハ北極へ行ツテ虎狩ヲ工夫シテ居ル様ナ者デアル。

一般ノ世人ハ勞力ト金ノ關係ニ於テ大ナル誤謬ヲシテ居ル。彼等ハ相應ノ學問ヲスレバ相應ノ金ガ取レル見込ノアル者ダト考ヘテ居ル。ソナ^トハドウ考ヘタツテ成立スル譯ガナイ。學問ハ金ニ遠ザカル器械デアル。金ガ欲シケレバ金ヲ目的ニスル實業家トカ、商人ニナルガイ、學者ト町人トハ丸デ別途ノ人間デアツテ、學者ガ金ヲ豫期シテ學問ヲスルノハ町人ガ學問ヲ目的ニシテ丁稚ニ住ミ込ム様ナ者デアル。

ダカラ學問ノ^トハ學者ニキカナケレバナラナイシ、金ガ欲シケレバ町人ノ所ヘ持つテ行ケヨリ

外ニ致シ方ハナイ。學問即チ物ノ理ガワカルト云フ^トト生活ノ自由即チ金ガアルト云フ^トハ獨立シテ關係ノナイノミナラズ反ツテ反對ノモノデアル。學者ダカラ金ガナイノデアル。金ガアルカラ學者ニナレナイノデアル。學者ハ金ガナイ代リニ物ノ理ガワカルノデ、町人ハ理窟ガワカラナイカラ其代リニ金ヲ持つテ居ルノデアル。

ソレヲ知ラナイデ金ガアル所ニハ理窟モアルト考ヘルノハ愚ノ極デアル。而シテ世人一般ハサウ考ヘテ居ル。アノ人ハ金持チデ世間ガ尊敬シテ居ルカラシテ、理窟モワカツテ居ルニ違ヒナイ。カルチュアーモアルニ極ツテ居ル。其實ハカルチュアーガナイカラシテ金ヲ抱イテ居ルノデアル。自然ハ公平ナ者デ一人ノ男ニ金モ與ヘカルチュアーモ與ヘル程眞^ニハセンノデアル。此見易キ道理も辨ゼズシテカノ金持チ共ハ已惚レテ自分達ハ社會ノ上流ニ位シテ一般カラ尊敬サレテ居ル。ダカラシテ世ノ中ニ自分達程理窟ニ通ジタ者ハナイ、ダカラ學者ダラウガ何ダラウガ己ニ頭ヲ下ゲネバナラント思フノハ惘然ナ次第デ、コンナ考ヲ起スノモソレ自身ニカルチュアーガ缺ケテ居ルト云フ^トヲ證明シテ居ル。

譯ノワカラヌ彼等ガ已惚レルノハ到底濟度スベカラザル^トト致シテ他人カラモ其已惚ヲ尤モダト認メルニ至ツテハ愛想ノ盡キル程ヲ見識デアル。ヨク云フ^トダガ、アノ男モアノ位ナ社會上ノ地位ニアツテ相應ノ財産モアルカラ、マンザラ、ソナ、譯ノワカラナイ^トモ無カラウト、豈計ランヤアル場合ニハ、ソナ社會上ノ地位ヲ得テ相應ノ財産ヲ有シテ居レバコソ譯ガワカラナイノデアル。社會上ノ地位ハ何デキマルト云ヘバ、(1)カルチュアーデ極マル場合モアル(2)門閥デキマル場合モアル(3)藝デキマル場合モアル(4)金デキマル場合モアル、而シテコレハ尤モ多イ。コン

片斷

ナニ色々ノ標準ガアルノヲ混同シテ金デ相場ガキマツタ男ヲ學問デ相場ガキマツタ男ト相互ニ通
用スル様ニ考ヘテ居ル。殆ンド盲者モ同様デア
ル。金デ相場ノキマツタ男ハ金以外ニ融通ハキカナイノデア
ル。彼ハ此貴重ナ者ヲ擁シテ居ルカラ世人カラ尊敬サレル、是モ誰モ異存ハナイ。然シ金以外ノ
領分ニ於テ彼ハ幅ヲ利カシ得ル人間デハナイ、金以外ノ標準ヲ以テ社會上ノ地位ヲ得ル人ノ仲間
入りハ出來ナイ。モシソレガ出來ルト云ヘバ學者モ金持チノ領分ヘ乘リ込
ンデ、金錢本位ノ領分
内デ威張ツテモイ、譯ニナル。彼等ハサウハサセナイ。然シ自分丈ハ自分ノ領分内ニ大人シクシ
テ居ルヲ忘レテ他ノ領分迄ノサバリダサウトスル。ソレガ必竟ズルニ物ノワカラ「ナ」イ人々ダ
ト云フヲ事實上證據立テ、居ル。

金ハ勞力ノ報酬デア
ル。ダカラ勞力ヲ餘計ニシタモノハ餘計ニ金ガトレル。コ、迄ハ世間モ公
平デア
ル。(否是スラモ不公平ナ
リガアル、相場師杯ハ勞力ヲセンデ金ヲトツテ居ル)。然シ一歩
進メテ高等ナ勞力ニ高等ナ報酬ガ伴フカヨク考ヘテ見ルガイ、。報酬ト云フ者ハ眼前ノ利害ニ最
モ影響ノ多イ事情丈デキマルノデア
ル。極メテ實際的ノモノデア
ル。眼前以上ノ遠イ
コ、高イ
コニ勞力ヲ費ヤス者ハイカニ將來ノ爲メニ國家ノ利益ニナラウトモ報酬ハ減ズルノデア
ル。ダカラ
今ノ世デモ教師ノ報酬ハ小商人ノ報酬ヨリモ少ナイ。ダカラシテ勞力ノ高下デ金ノ分配ハ定マ
ラ
ナイ。従ツテ金ノアル者ガ高尙ナ勞力ヲシタトハ限ラナイ。換言スレバ金ガアルカラ人間ガ高尙
ダトハ云ヘナイ。金ヲ目安ニシテ人ノエライ、エラクナイヲキメル譯ニハ行カナイ。ソレヲ無茶
苦茶ニ金ガアルカラエライ、ト騒グノハ何ノ事ダ。金持モ金ガアルカラ自分ガエライ何デモワ

カツテ居ル。學者ト喧嘩スル資格ガアル。學問ノアル高尙ナ者ヲモツテ居ル、氣品ノアル人々
ノ頭ヲ下ゲサセル
コガ出來ルト自信シテ居ルノハ驚ロイタ者ダ。一寸考ヘテ見ロ。自分ガ病氣ヲ
スレバ醫者ニ頭ヲ下ゲナクテハナルマイ。イクラ金ガアツタツテ自分デ藥ハ盛レマイ。醫者ハ其
代リニ貴様ノ金ニ頭ヲサゲル。サウシテ相應ノ報酬ヲトルノデア
ル。病氣ヲシタキニハ醫者ニ頭
ヲ下ゲル
コヲ知リナガラ、趣味トカ、嗜好トカ、氣品トカ人品ト云フ
コニ關シテハ學問ノアル高
尙ナ理窟ノワカツタ人ニ頭ヲ下ゲル
コヲ知ラン、ノミナラズ却ツテ金ノ力デソレ等ノ頭ヲ下ゲサ
セ様トスル。之ヲ盲蛇ニ怖ヂズと云ふのである。學問ノアル人、ワケノ分ツタ人は貴様等ガ金ノ
力デ世ノ中ニ利益ヲ與フルト同様ノ意味ニ於テ、其學問ヲ以テ其ワケノ分ツタ頭ヲ以テ世ノ中ニ
利益ヲ與フルノデア
ル。ダカラシテ立場コソ違エ、對等ニシテ毫モ冒スベカラザル地位ニ立つて
ゐるのである。學者がもし金ノ
コになつたらば、自己ノ本領ヲ棄テ、貴様等の領分に入るのだ
から貴様等ニ頭ヲ下げるのが順當だらう。同時に金以上の趣味トカ文學トカ人生トカ社會とか云
ふ問題に關しては貴様等の方が學者ニ頭ヲ下げねばならぬのである。今貴様等と學者の間ニ葛藤
ガ起つたとする。其問題がもし單ニ金の問題なら學者は初手から無能力である。然しそれが人生
問題である道德問題である。社會問題である以上は貴様等は最初からして口を開く權能はないも
のと覺悟をして絶對的ニ學者の前ニ服從せんければならん。岩崎は別莊を立て連ねる事に於て天
下の學者を壓倒してゐるかも知らんが社會、人生、の問題ニ關しては小兒の様なものである。三
歳の兒童と一般である。十萬坪の別莊を八ツ山に建てたから天下の學者を凹ましたと思ふのは凌
雲閣を作つたから仙人を恐れ入らしたと考へる様なものだ。

商人が金ヲ儲ケル爲メニ金ヲ使フノハ專問上ノコト誰モ容喙ガ出來ヌ。然シ商買上ニ使ハズシテ人事上ニ使フトキハ、ワケノ分ツタ人ニ聞カヌバナラス。サウシナケレバ社會ノ惡ヲ自ラ醸造シテ平氣デ居ルコトガアル。今ノ金持チノ金ノアル部分ハ常ニ此惡ヲ醸造スル爲ニ用キラレテ居ル。夫ト云フ者ハ彼等自身ガ金以外ニハ取柄ノナイ者ダカラデアアル。學者ヲ尊敬スルコトヲ知ランカラデアアル。教ヘテヤツテモ分ランカラデアアル。災ハ必ズ己レニ歸ル。彼等ハ是非共學者文學者ノ云フコトニ耳ヲ傾ケネバナラス時期ガクルモシ耳ヲ傾ケネバ社會上ノ地位ヲ保テヌ時期ガクル。

△

- (1) 學問ノアル高尚ナル學者
- (2) 悲酸ナル家庭ニ生レテ漸ク卒業シタル人
- (3) 狡猾ニシテ假面ヲ被ル男
- (4) 華族ノ馬鹿ト驕悍ナル夫人
- (5) 只美的ナコト許リヲ好ム人
- (6) 淺ハカニシテ、意志モ、感情モ、足ラヌ妻君

カラダの局部ガドコゾ惡イト、ソコガ氣ニカ、ル。何ヲシテモソレガ、コダワル者デアアル。極メテ健全ナル狀態ニアル人ハ自己ノ身體ヲ忘レテ居ル。一點ノ局部ダニワガ注意ヲ集注ス「ル」箇所ガナイカラ、樂々ト豊カナルノデアアル。アル人ガ瘖セテ蒼イ顔ヲシテ居タカラ、君ハ胃ガ惡イ

ダラウト尋ネテ見タ。スルト其人ガ答ヘテ胃ハ少シモワルクナイ、其證據ニハ僕ハ此年ニナツテモ未ダニ胃ガドコニアルカ知ラナイト云ツタ。其時ハ頗ル可笑シイト思ツタガ、ヨク考ヘテ見ルト大ニ悟ツタ言葉デアアル。此人ハ胃ガ健康ダカラ胃ニ拘泥スル必要ガナイ、ソコデドコニ胃ガアツテモ構ハナイノダラウ。自由ニ飲食ヲシテ毫モ苦痛ヲ感ゼズニ安々トシテ居ル。是ハ胃ニ於テ悟ツタ者デアアル。胃ヲ擴張シテカラダ全體ニ就テモ同様ノコトガ云ハレル。カラダヲ擴張シテ精神狀態ニ於テモ同様ノコトガ云ハレル。一德ニ秀デタ者ハ兎角其德ニ拘泥シタガル。一藝ニ秀デタ者モ亦稍トモスルト其藝ニ束縛セラレ勝ナ者デアアル。然シ自己ノヨイ所ハ考ヘ方デスグ忘レルコトガ出來ル。然シ自己ノ缺點や、過失や、惡事ニ至ルト中々拘泥シテ容易ニ解脱スルコトガ出來ヌ。百圓モ二百圓モスル帶ヲシメテ女ガ音樂會ヘ行クト此帶ガ妙ニ氣ニナツテ音樂ガ耳ニ入ラスコトガアル。是ハ帶ニ拘泥スルカラデアアル。帶ガ祟ツテ居ルノデアアル。然シ人ニ自慢ニナル方ハ忘レルコトモ容易デアアル。立派ナ服装ヲシテ冷飯草履ヲハイテ、アル席ヘ臨ムト此草履ガ氣ニナル。昔シ去ル所デ一人ノ客ニ紹介サレタキニ御辭義ヲシテ下ヲ向イタラ其男ノ靴足袋の片々ガ破レテ親指ガアラハレテ居タ。余ガ下ヲ向クト殆ンド同時位ニ此男ハ満足ナ方ノ足ヲ片方ノ足ノ上ヘ乗セテ靴足袋ノ穴ヲ塞イダ。此男ハ靴足袋ノ穴ニ拘泥シテ居タノデアアル。

シテ見ルトアル局部丈ガ見立ツノハ(善カレ惡カレ)ソレガ束縛ニナル拘泥ノ種ニナル。自分ガ拘泥スルト云フノハ他人ガ其注意ヲ集注スルト思フカラデ、ツマリハ他人ガ拘泥スルカラデアアル。從ツテ之ヲ解脱スルニハ二ノ方法ガアル。(一)ハ他人ガイクラ拘泥シテモ自分ハ拘泥セヌコトデアアル。人ガ目ヲ峙テ、モ、耳ヲ聳ヤカシテモ、冷評シテモ罵詈雑言シテモ、自分丈ハ拘泥セズニ勝手ニ振舞

フノデアル。大久保彦左衛門ガ盥デ登城シタ様ナモノデアル。或ハ無頓着ニ立派ナ衣服ヲツケテ、イクラ人ガデロ〜見テモ平氣デ居ルノデアル。(華族サン杯ハ習慣カラシテ此解脱ノ域ニ達シテ居ルノガ大分アル、ト云フ者ハイクラ、人カラ立派ナ着物ニ見エテモ自分丈ニハ當然デアル、人ノ目ヲ惹クニ足ル者デナイ、ヨシ人ノ目ヲ惹イテモ自分ニハ自然デアルト思ツテ居ルカラデア^ル)。或ハイクラ冷飯草履ヲハイテモ、トンチンカンな服装ヲシテモ毫モソレニ苦シメラレテ居ラ^ンノデアル、何ノ(コダワリ)モナクトンチンカンノ服装ヲツケテ居ル。物質界ニ重キヲ置カヌ人、耶蘇トカ釋迦トカ云フ人ハコレデ濟ムノデアル。(二)ノ解脱法ハ少々違ツテ居ル。之ハ拘泥ヲ脱スルノデハナイ。拘泥スル必要ノナイ様ニスルノデアル。言ヲ換えて云へば妄リニ人ノ注意ヲ惹イテ其反射デ自分迄苦ニナル様ナ態度トカ服装トカヲ避ケルノデアル。タトヘバ(1)服装ノ一部部ガ外ト著ルシク目立ツ様ナヲ避ケル。——即チ全體ノ調和カラシテ人ノ眼ニモツカズ、自分ガ見テモ目障リノ箇所ガナイ様ニスル(2)言語動作デモ其一部ガ無暗ニ高ク飛び出ス様ナ突飛ヲ避ケル。始終同ジ様ナ態度ヲ保ツコトヲカメル(3)服装全體ニ就テ云へバ、自己ノ服装ガ他ノ服装トアマリ懸ケ離レテキラビヤカデアルトカ恰好ガ違フトカ云フ懸隔ヲサケル。(4)言語、思想、全體カラ云へバ自分ト人トノ間ニ無暗ナ調子ハヅレガナイ様ニシテ行ク。——カクノ如ク他ヲ眼中ニ於テ、始終氣ヲクバル結果、他ヲ眼中ニ置ク必要ノナイ程度迄ニ己レヲ自由ニスル。然シドコ迄モ差別觀カラ出立スルノデア^ルカラシテ、他ト自己トヲ全然同一ニハセス、同ジ様デドカ力違フ然シドコガ違フガ一寸見テハ分カラナイ様ニスル。然シ其道ノ黒人ガ見ルトスグワカル様ニスル。——結城紬ヲキテ手織木棉ト見セテ居ル様ナ者デアル。

右ノ解脱方ノウチ(一)ハ自己ガ本位デアル。非常ニ自己ガエライ人、若クハ他ヲ念頭ニ置ク必要ノナイ程ナ權力アル人(學者デモ、宗教家デモ、或ハ外部ノ權威者ナポレオン、豊太閤デモヨイ)ガヤル解脱法デアル。ニイチエ、イブセンノ主唱スル理想ハコ、デア^ル。

(二)ハ普通ノ俗人ノ解脱法デアル。此解脱法ヲ得タル人ヲ列擧スレバ

(1) 昔シ風ノ江戸ノ町人及ビ其妻女ノ趣味

2) 藝妓、粹人、等ノ解脱

(3) 西洋ノ一般ノジエントルマン

其他色々アリ

(二)ノ人ヨリ(一)ヲ見ルト氣違ニチカイ。決シテヨク見エル譯ガナイ。又決シテ自分ガヤリタイト思ハナイ

(一)カラ(二)ヲ見ルト、依然トシテ拘泥シテ居ル。拘泥ノウチニ拘泥ヲ脱シテ得意デアル。ソレデ世ノ中ヲ知リヌイタ、コレガ御手本ダト高慢ブツテ居ル。ソコガ頗ル可笑シイ。ダカラ西洋ノゼントルマンハ一方カラ見ルト悉ク可笑シイノデアル。然ルニ彼等ハ他ヲ笑ツテ野暮ダ開化ノ禮ヲ知ラスト云フ。水ニ住ンデ居ルカラ、陸ノ様子ガ不案内ナノデアル。

カクノ如クニシテ學者趣味、精神趣味、俳諧趣味、坊主趣^味ト町人趣味、粹人趣味、藝者趣味、ゼルトルマン趣味トハ根本ニ於テ一致シ難キモノデアル。双方ヲ見ル眼ノアル人ガ双方トモワカルノデアル。双方トモ知ル人カラ一方ニカタマツテ是非其デナクテハイカスト云フ連中ヲ見ルト可笑シイノデアル。貴様モ是非カウシロトセマル時ニハ馬鹿野郎ト云ハネバナランノデアル。

モースコシ修業シテコイト云ヒタクナルノデア。ダカラ廣クワカリ、大キク考ヘテ居ル人ハカ、ル偏狹ニシテ固陋ナルフヒリスタイン即チ英國ノ紳士流ノヤリ口ヲ攻撃シテモ一少シ一般ノ人ノ眼ヲアケテヤラネバナランノデア。東洋ノ一部ニハ夫ヨリモ偉大ナル解脫法ガアルヲ教ヘネバナランノデア。今ノ世ニ英國ノ紳士ヲ模セヨ模セヨト云フノハ日本橋邊ノ町人ノ様ナ氣風ニナレト云フ様ナ者ダ。ダカラ普通ノ英國趣味ヲ鼓吹スル杯ト號スル者ハ皆一知半解ノ俗物デ、我等ガ大ニ是カラ攻撃セネバナラン愚輩デア。文章ニモ此論法ガアテハマル。拘泥セヌノハ結構デア。然シ拘泥中ニ拘泥センノト、超然トシテ拘泥センノトハ丸デ趣ガ違フ。

拘泥スル種ニナル様ナトハ一切カ、ンカラ、拘泥シテ居ナイト見エルノモアル。拘泥スベキトヲイクラデモ書イテ然モ拘泥センノガアル。是等ヲ見分ケルノヲ趣味ノ修業ト云フ。趣味ノ修業ハサウ一朝ニ出來ルモノデハナイ。三味線ヲヒクノデモ五六年ハカ、ル。三味線ヲキ、分ケルノデモ一年ヤ二年ハ入ル。趣味(文學)ダツテ三味線ヨリヤサシイトハナイ。現代ノ弊ハ書物ヲヨンデ字ガワカリサヘスレバ文學趣味ハ出來タ者ト心得ルコトニアル。ソレデ何モワカラン人ガ趣味ノ修養ヲ積ンダ人ノ行爲動作ヲ無趣味ナ眼識デ批評シタリ。其著作ヲワカラン癖ニヅノシク論斷シテシカモ自分ハ立派ニ權能ガアルト心得テ居ル。

茶ノ湯ヲ稽古スル片ニハ萬事茶ノ湯ノ先生ノ云フコトヲ聞カネバナナルマイ。文學書ヲヨムノダツテ茶ノ湯ニ於テ我ヲ折ル様ニ同程度ノ謙讓ノ態度ヲ教ヘテ貫ハナクツテハドコガドウシテ居ルノカワカル譯ガナイ。ソレヲ心得ズニ其方ノ教育ノカケテ居ル者ガ、ダレカレノ構モナク文學書文

ハ立派ニ口ガ出セルト思フ。又文學者ノ言論ヤ行爲ハ自分等ノ尺度デハカルコトガ出來ルト思フ。少シモ考ヘノナイ小供カ何カデナクテハコンナ無茶ナコトガ敢テ出來ル者デハナイ。

德望ノアル坊サンニ大臣ヤラ金持ヤラガ法ヲキク如ク、イクラ門閥家デモ金持デモ趣味ノコトハ文學者ノ所ヘ來テ頭ヲサゲネバ悟レ様ガナイ。

趣味ハ人間ニ大事ナ者デア。樂器ヲ破ル者ハ人間カラ音樂ヲ奪フ點ニ於テ罪人デア。書物ヲ燒ク者ハ人間カラ學問ヲ奪フ點ニ於テ罪人デア。如ク、趣味ヲ崩ス人ハ矢張り罪人デア。否法律ヲ犯ス人ヨリモ甚シキ罪人デア。ト云フ者ハ音樂や美術ハ人間ノ交渉ニハマヅ關係ハナイガ、趣味ノ蔽フ所ハ非常ニ大ナル者デ人間ノ交際區別ノ全體ニワタル者デア。ルカラシテ、モシ之ヲ破ル者アラバ懲役以上ノ罪ヲ犯シタ者デア。

コ、ニ一人ノ男ガアル。其男ガ自分ノ云フコトヲ聞カナイト云フノデ、朝ニ晩ニ其人ヲツ、ツキ、コヅキシテ幾年ノ間ニ其男ノ人格ヲ墮落セシメテ、實ニ趣味ノ低イ者ニシタラ、カ、ルコトヲナシタ者ハ人殺シヨリモ重イ罪ヲ犯シテ居ル。人ヲ殺セバ、殺サレタ人ハ世ノ中カラシテ消えテナクナルカラシテ、世間ニ害ハナイ。然シ趣味ノ墮落シタ人ヲ一人デモ世ノ中ニ製造スレバ、其男ハ世ノ中ノ空氣ヲ夫丈不愉快ニスル。世ノ中ニ其丈不幸ヲ與ヘル。シカモ十中八九ハ當人ノ罪デハナイ。皆積極的ニ働ラキカケル者ガアルカラシモ、コンナ現象ヲ生ズル。一人ノ男ノ趣味ヲ打テ壞ハスノハ其男ヲ不具ニスル様ナ者デ間接ニハ世ノ中全體ニ其空氣ヲハビコラセル。ソナ悪事ヲ働イテ平氣デ居ルノハ人殺シヲシテ罰セラレント同ジデア。又コンナ者ハ多ク身分ノアル者ニ多イ。門閥ノアル者ニ多イ。金ノアル者、權威ノアル者ニ多イ。是等ハ皆積極的ニ個

人ニ働ラキカケルコトノ出來ル能力ヲ有シテ居ル。而シテ是等ガ毫モ人ニ働ラキカケル道ヲワキマヘズシテ下劣ナ趣味デ働ラキカケレバ、働ラキカケラレタ人モ下劣ナ趣味デ正當防禦ヲ講ジナケレバナラナクナル。多少考ノアル人、ワカツタ人ト雖方便ノ具トシテ反省ヲ促ガス爲メ、モシクハ罪人ヲ罰スルノ意ヲ以テ彼等ニ應ゼネバナラヌ。カウナツタキニ世ノ中ノ趣味ハ毎日ノ留メ度モナク墮落スル。

金ノアル者、身分ノアル者、等ガ「カルチュア」(ノ)ナイノハ前ニ述ベタ通りデアツテ、其金ヲ使ヒ身分ヲ利用シテ人ニ働キカケルキニハ、働キカケル能力ガアツテモ、働ラキカケル權利ハナイト云ハネバナラヌ。ダカラシテ彼等ガコンナコトニ首ヲ出ス場合ニハ譯ノワカツタ人ニ平身低頭シテ聞カネバナラヌ。文學者ハカウ云フコトヲ彼等ニ教ヘル爲メニ世ノ中ニ生レテ來タノデアル。彼等ニ教ヘル筈ノ文學者ヲ捕ヘテ、彼等ガ無暗ニ働ラキカケルノハ顛倒シタ者デアアル。ソナ文學者ガアレバソレハ自己ノ天職ヲ自覺セザル文學者デアアル。腰拔ノ文學者デアアル。ソナ金持や華族ニ教ヘルコトノ出來ヌ程ノ、否ソナ馬鹿ニ頭ヲ下ゲネバナラヌ文學者ナラバ文學者ニナラヌガヨイ

△Life is literature。他ノ學問ハ學問を障害スル者ガ敵デアアル。貧、多忙。壓迫。不幸。悲酸。不和。喧嘩等。夫ダカラ他ノ學問ヲヤルモノハ可成之ヲ避ケテ、時ト心ノ餘裕ヲ得ヤウトスル。文學者モ今迄ハサウ云フ了見デ居タ。サウ云フ了見ドコロデハナイ。凡テノ學問ヲヤルウチデ文學者ガ一番ノンキナ閑日月ガナクテハナラント思ハレテ居タ。當人モ其氣デ居ルラシイ。——然

シ夫ハ間違デテ文學ハ其者デアアル。苦痛、悲酸、人生ノ行路ニアタル者ハ即チ文學デアアル、他ノ學問ガ出來得ル限り之ヲ避ケントスルニ反シテ文學ハ進ンデ此中ニ飛ビ込ムノデアアル

△糸ノキレ (參)

△若い女ノ想像、空想、山茶花、ノ落片。布團ノ模様。芭蕉未だ破れず。梧桐未ダ落ちず。十月二十五六日。菊既ニ開ク。

二人

美ナル者。美ナル人。美ナル……

△○○ハ遂ニ細君ノ云フ通りニシタ。然シ夫カラハ細君ヲ愛セヌ様ニナツタ。女房ト雖ヤハリ女デアルト云フコトヲ自覺シタ。

△演奏會

△汽車留別、送別、女、男、女云フ行キタクナイガ行ク。男云フ行カセタクナイガ行カセル

△Tall-ball

△Sister without culture Giny

リズム論 自然。個性的

△天長節、

主客論。 主客は一なり。但便宜の爲めに之を分つ。物に於て色ト形ヲ分ツガ如ク。文ニ於テ想ト形トヲ分ツガ如ク。物ト心ヲ分ツガ如シ。

物ト心トハ本來分ツベキ物ニアラズ。何人モ之ヲ分チ得ルナシ。天地山川日月星辰悉ク是自己なり。但コノ自己ノ存在ヲ明瞭ナラシムル爲メ、又自己ノ存在ヲ容易ナラシメン爲メニ之ヲ主客ノ二ニ分ツニ過ギズ。分カチタル後ハ自己ヲ離レテ萬物存在スルニ至ル。

天地ノ事ハ皆夢幻ノ如シ只一事ノ炳乎トシテ争フベカラザル者アリ、自己ノ存在是ナリ。萬物ハ影ノ如シ、影ノ消エル時、影ノ死スル片猶儼然トシテ實在スル者ハ自己ナリ。自己程慥カナル者ナシ。故ニ自己程貴キ者ナシ。

△ Dialectic。

人ヲ取扱フアル人ノ方法



△ Necklace (diamond)

△ 桐の葉ヲ見る。風が吹いて落ちんとする。中々落ちぬ。落ちる迄の事。

△ 御寺の赤門。毎日通る。月に二三度宛は張札がある。靈巖島中川。
白丁を着たものが秋の雨中を濡れて行く。弔の歸り

△ 香一炷

△ 臨終

△ Kindness or cruelty?

Simplicity—The Bible, Chaucer, Boccacio, Malory

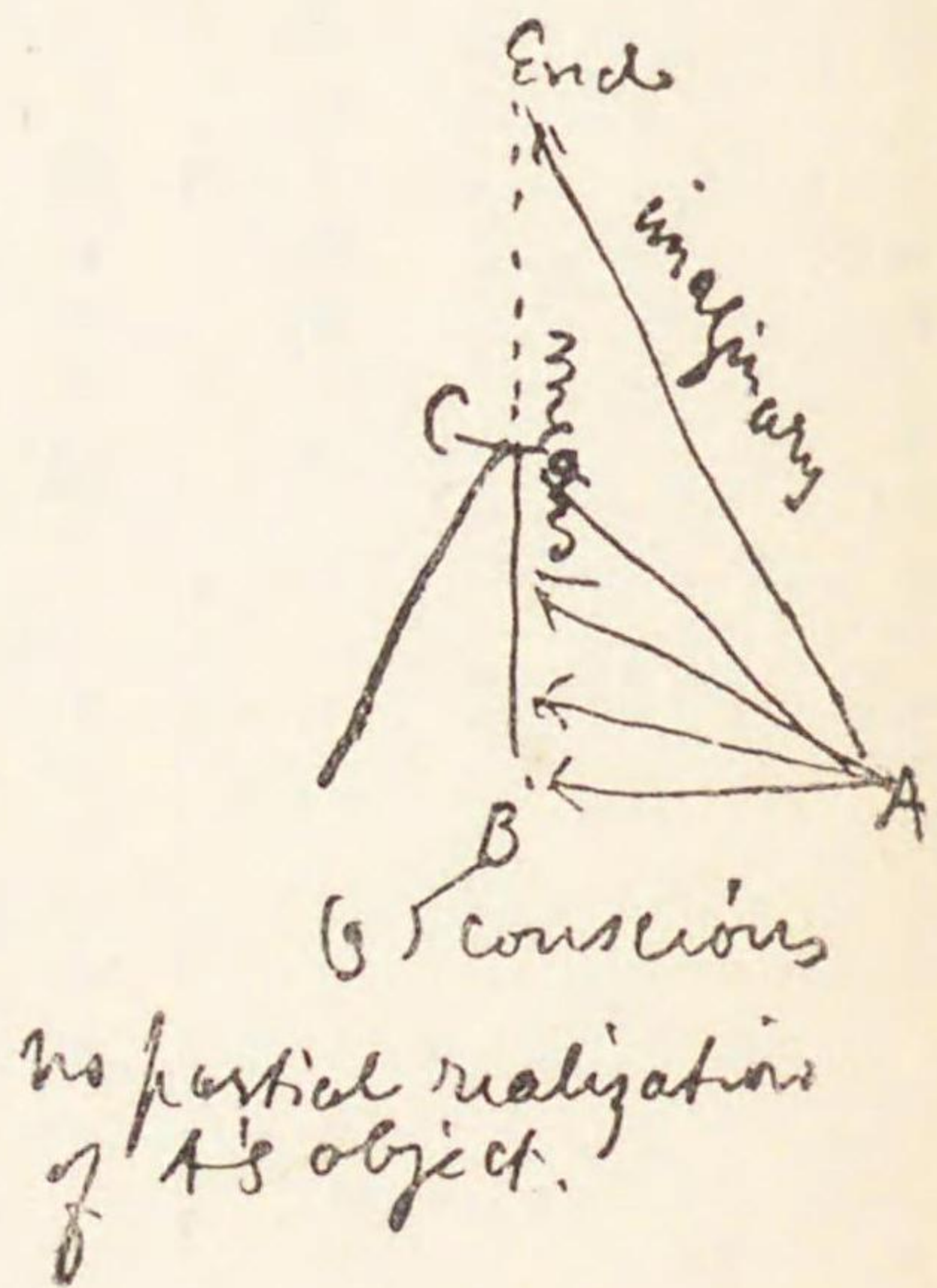
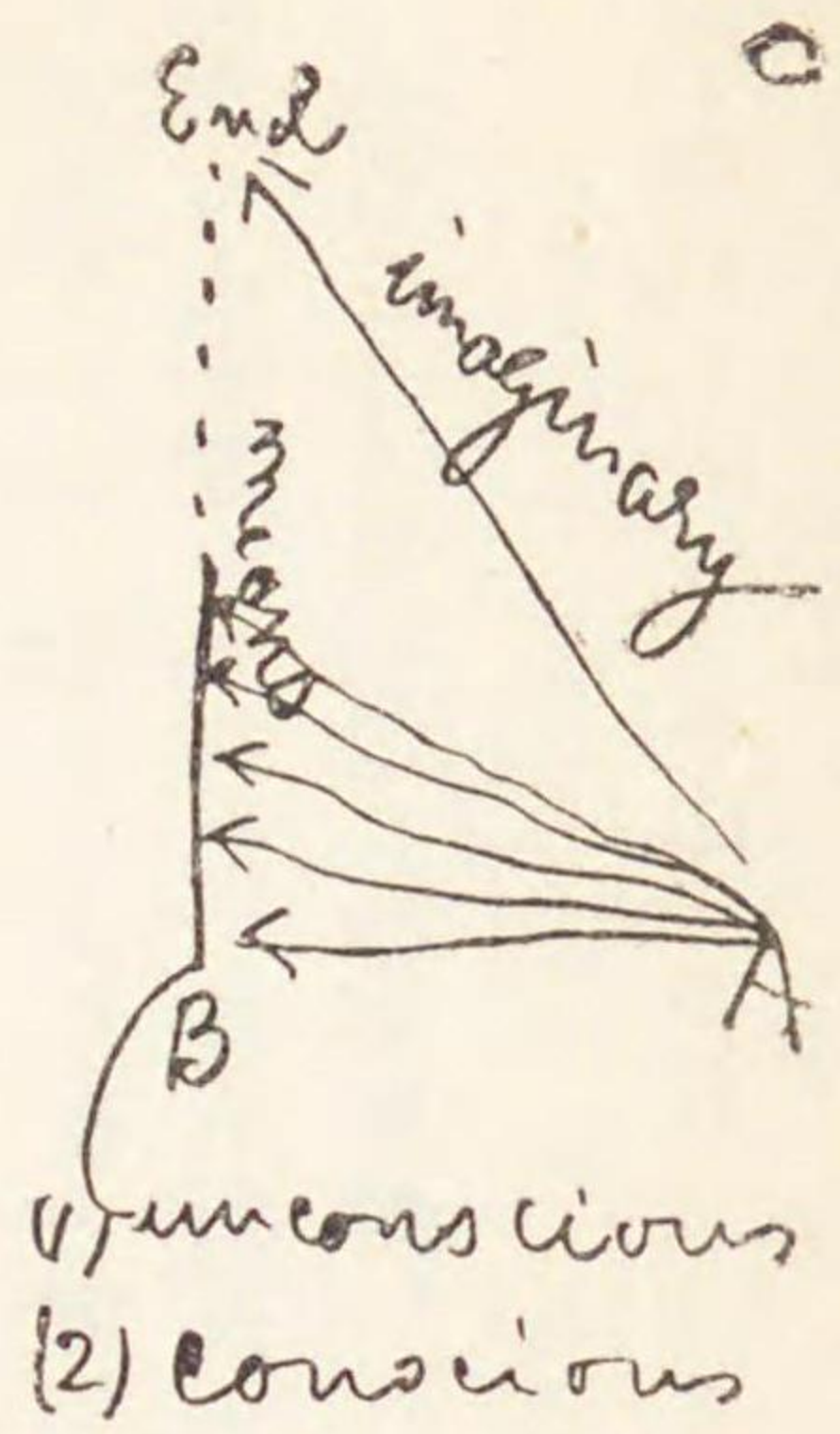
— They cannot be elaborate. Their Simplicity is not a condensed form of expression, in the way of filtering complex thoughts. Their very thoughts were simple. Simple therefore grasping—sometimes vigorous and life-like. By their simplicity, we can take in at a single glance the whole phases of……

Analysis — Meredith, Pater—James The Ambassador—

(One of the Conqueror. chap I.)
Their Value.

1. Symbolization	Starts from the crude imitation of nature	1. practical purpose
2. Aesthetic enjoyment for decorative beauty	1. objective Imitation	2. aesthetic enjoyment for realism
3. Conventional nature	2. subjective Imitation	3.

- Great interest \ critical moment 一面
 { 平穩無事ノ一面
 兩者ノ接觸點
- Great stake of life and fortune
- 甲郷關を去る。乙之ヲ留む及ばず追つて……ニ至ル。



日記

——明治四十年三月二十八日より四月十日まで——

三月二十八日〔木〕八時東京發。

○丸い山ガ重ナリ合フ。色は薄茶で薄黄。濃淡ニ角度ナシ

○角度アル山ニ雪ガアル。雪ノ筋。雪ノ光リ。

○梅ガヒラメク。梅ガ亂レル。梅ガ雲ヲ呼ブ。梅ガ夢ヲ破ラントシツ、アル

○松林ヲ遠クニ見ル。幹ト幹ノ間ガ明カニ幹ハ黒イ。明カナ上ハ葉デ暗イ。明カニ透いた向ハ海

○海道の松。廣重。

○山ノ上の松



コンナノガ一本立ツテ居ル

○夜七條ニツク車デ下加茂ニ行ク。京都ノ first impression 寒イ

○湯ニ飛ビ込ム

○糺ノ森ノ中ニ宿ス。

春寒く社頭に鶴ヲ夢ミケリ

○曉ニ鳥ガ鳴ク。への字ニ鳴きくの字ニ鳴く

○夜中に時計ガチンと鳴る。

記日

三月二十九日〔金〕

○大學ニ行く。桑木、狩野直喜、伊津野氏に逢ふ。

○圖書館拜見。尊攘堂の遺物ヲ見ル。象山の軸。明珍の兜。色々あり。記念の扇ヲ見ル。

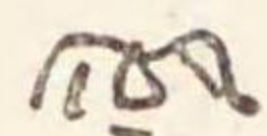
○二條の橋のたもとに西洋料理を食ふ

○^原祇園に行く。公園は俗地なり。平野屋、中村樓杯云ふ料理屋あり。村井兄弟の西洋館建築中。八陀彌ホテルの焼残り頗ル見苦し。

○大谷の納骨所を通りから見ると石道がくの字に爪上りなる左右から。細かな松の葉が生ひかぶやつて見事なる Perspective を作る。上ると左程デモナン

○智恩院。鐘樓臺より下ヲ見ル。大ナ葎の銀鱗ヲ寂然と曇れる春のうちに据ゆ。松に包まれて天

○本堂の下より梁を見上げると數百の桝の端の四角なるが縮まつて遠くに見える端に青銅の風鈴が見える

○欄間の上は  の如きか「た」ちのものが層々と連なつて小さく見ゆる。衆會堂へ通ずる橋の

下を通る。春雨蕭々と至る

○經堂の柱を三十六本。廻る。

○山門ニ下る下より仰ぎ見る。(華頂山)

○清水へ行く。途中で陶器ヲ買フ。

俗地ナリ

○上加茂 舞殿、細殿、橋殿、神樂殿、御手洗池、糺森、松が崎 妙法

三十日〔土〕

布晒す積わたるや春の風

丈山の閑居

三月三十日午前一乗寺村詩仙堂

○瓦硯裏銘

寸餘小池風飈浪

一毫染來字々生

參陽石川丈山銘并書

○六勿銘

勿妄丙王 ^原 忽忘棍賊

勿戮晨興 勿嫌糲食

勿變僮勤 勿惰拂拭

○生垣四尺。左右竹林 石階ヲ登る急ニ翠色の濕ひを浴す

○突當りの石垣に口ナシの黄バみたる滴々の苔ヲ見る

○松一樹。苔むす。白川砂

○木犀ニ苔蒸す一根ヨリ五六本。寄生木

○玄關の沓脱は菱形の黒瓦。扉

○額「蜂要」。

○尼

○佛壇。玄關の右。一尺下る。瓦で敷きつめる。圓座ヲ敷く。

禪林課誦。卷頭の畫

(中央釋迦、大衆合掌)

南無楞嚴會上佛菩薩

○額「摩尼」隱元。六角ノボンボリ。燭ともす

○木魚。香爐。角。

○諷經錦囊。觀音普門品經

○戸帳。額。黒。「紫金聚」

海雲七十五翁百拙

○聯。

青山白石飛鳴鶯鶴鳳皇^原
月竹風松諷直佛法僧寶

○六曲屏 應舉

雪中 松、竹、鶴

○大雅堂二枚折屏風

○兜。(丈山の)

○探幽三十六詩仙。丈山贊

岑參の額ノ中ガ途切レテ居ル。

柳宗元の額ガ白クボケテ居ル

白居易の鼻ガ大デアル

盧徹の坊主頭ガ凹凸デアル

邵雍ノ頰カラ顎ガフクレテ齒痛

李高隱ハ後ろ向き冠の尾ガ黒ク耳の下を筋違ニ横切つてゐる

○天井の龍。黒クシミテ何ヤラ分ラズボロ／＼ナリ。自筆の由

○持佛堂ノ本尊 バロフの觀世音

○伏見の桃山御殿の欄間の木彫の獅子 扇形の透しぼり。甚五郎の作。

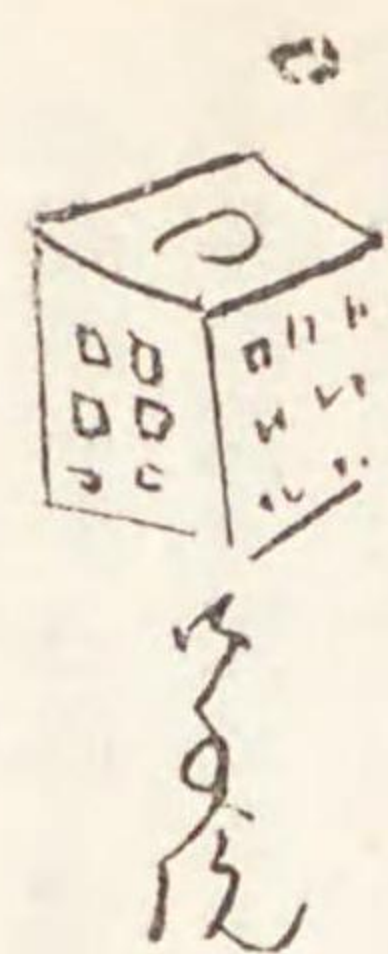
獅子の子落し。牡丹

○凹凸窠(額)

○梅關 (額)

○小有洞(額)

- 銀閣寺。
蕪村襖。
普明國師九條法衣
籌顏筆瀟湘八景
- 東山水上行 了龍林州



- 義政公法體肖像
- 惠心僧都作義政公持佛
- 東求堂文明十二年創建
明治四十年に四百二十八年
- 相阿彌筆金屏風 蘆
弄晴亭。泉殿。香座敷
- 樓閣 潮音閣 下層(心空殿)
四百二十八年
- 運慶作觀音(階上)

○眞如堂

塔。本堂。山門ヨリ石甃ヲ望むに斜めに上る。左右楓樹のみ。石甃は不規則なる御影を亂れがたに、かためて姿致多し
○夕陽は吉田山の上より來る

三十一日(日)

黒谷 文珠塔(運慶作) 三重塔 二百六十三

○扇の如き松二本

○木魚(の)音

○淀見席。庸軒茶席

×若王子

山の隈を上る。旗亭あり。松。楓樹。

×永觀堂

楓樹池を遶りて多し。



屋根の感

×南禪寺。本堂再建中。松

×大極殿
×櫻の馬場
×武徳會
疏水。

四月一日〔月〕

○相國寺 平地

○同志社

今手川通

○御所

○寺町通

○京極——見世物

○四條五條

○建仁寺

陰晴未定。時雨の如し。叡山の頂に雪を見る。

旅に寒し春を時雨れの京にして

○五條に扇を買ふ。景色繪端書を買ふ。

○鍵屋に西洋菓子を買ふ。

○觀世落雁。月餅

四月二日〔火〕

○夷川通り古道具屋

永き日や動き已みたる整時板

○堀川

天晴始めて春の心地なり

○加茂にわたす橋の多さよ春の風

○北野天神

雀巢くふ石の華表や春の風

○金閣寺

高臺寺描金花筏水手桶

金閣四方の風鈴

○大徳寺

○上加茂 社後（水滸浚）

四月三日〔水〕

○新古美術展覽會

○光琳 百鹿百鶴

盛上げ菊扇面

○能阿彌筆 蘆雁圖

○乾山作 瀟湘八景八角水指

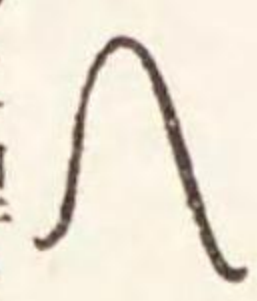
○五二會

○歌の中山清閑寺 郭公亭

○博物館

饗養紋火鉢

二十八部衆立像 蓮華王院

○豊彦の屏風。波。模様ニアラズ。寫生ニアラズ。理想ナリ。濃キ色ガ  形ニ落チ來ル

○光琳の杜若の金屏。杜若の紫花累々たり。綠葉伸々たり。金色のうち埋まる

○興福寺。本堂ハ焼失。礎の傍ニ松ヲ生ズ。山門は依然として九尺ニアマル櫓の丸柱ヲ列ヌ。

通天橋の橋ハ屋根アリテ廻廊の一部なり。

○高臺寺

廻廊ヲ登ル。堂に秀吉ノ木像大政所の木像アリ。山松赤く幹ヲ交フ

○稻荷 俗地ナリ

○三十三間堂。桃山血天井。

四月四日〔木〕

○東本願寺

臺所

○枳穀邸 涉成園

○嗽枕居

○雙梅居

○印月池

○傍花閣

○丹楓溪

○滴翠軒

○臨池亭

○廻棹廊

○紫藤岸

○五松塙

○縮遠亭

○臥龍堂

○侵雪橋

○東寺

○八足門 延曆十五年桓武天皇御創建

○塔 本尊四佛八大菩薩

創建天長三年弘法大師

再建寛永十八年

○句佛ニ逢フ。今夜東上すと云ふ

歸途カステラを包んでくれる。カステラヲ入れる所なし

○車を雇ふて東寺ニ行く繪馬堂ニ茶見世が出て居る。

○五重塔を春の温かき空に仰ぐ

カステラを懐いて徘徊す

○茶の花の中を島原に行く。

角屋と云ふが尤も古るき家なり

○西本願寺に至る。

本堂の前に大なる樹あり。

○七條の停車場ニ至る。時早し

○大坂着中の島散歩。朝日新聞へ赴く。社主村山氏に逢ふ。小山氏にも逢ふ

○ホテル晚餐會に臨む會するもの十二三名なり

○夜高麗橋際星野方に宿す

四月五日〔金〕

○宿の神さんの話を昨夜鳥居氏よりきく

朝京都の地面が買へるなら教へてくれと云ふ。勘定は御序でよいといふ。古雅なり。桑名の

入といふ。盆に蕪をつけたり。

○大坂は氣象雄大なり

○車中下等藝妓三人を携へたる商人あり

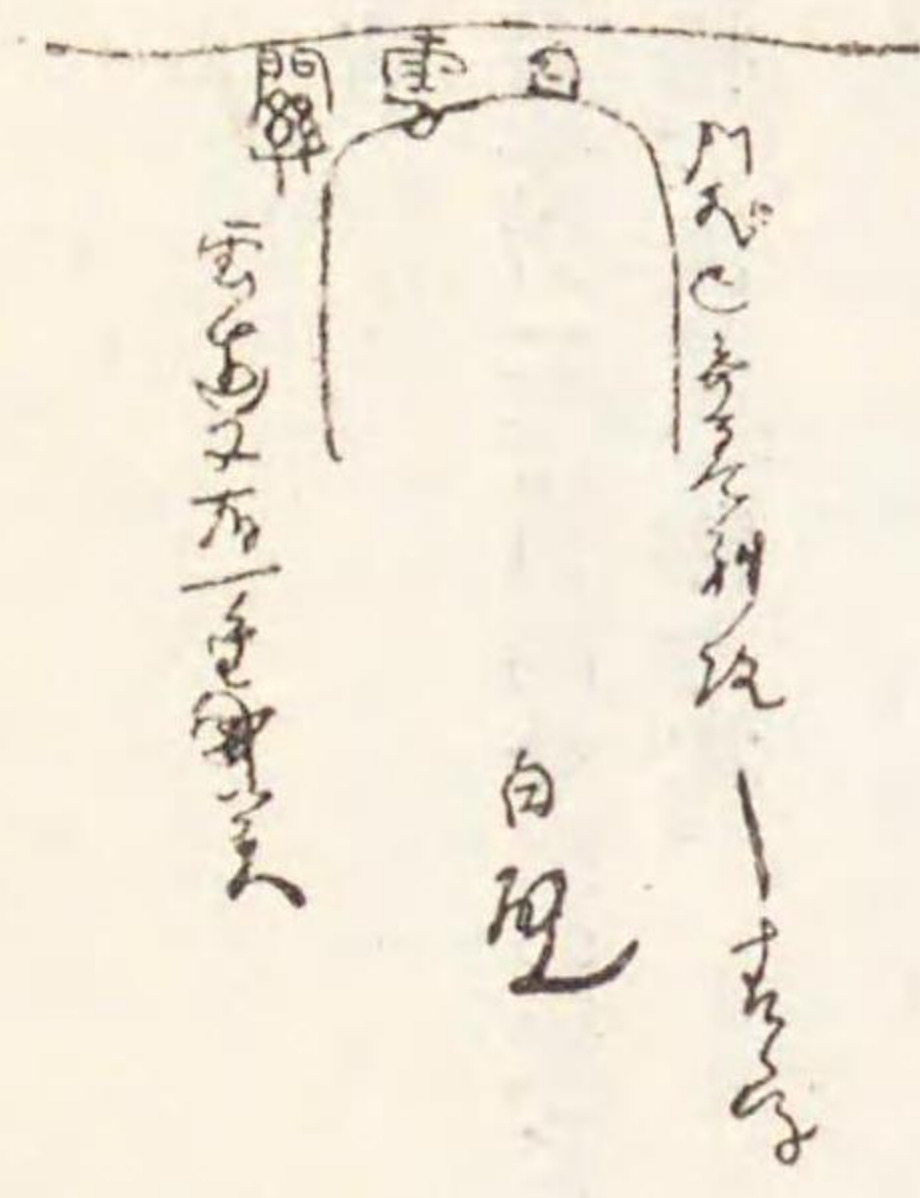
○十時半京都着。直ちに電車にて伏見に至る。桃山に登る眺望のよき所なり

○車にて宇治に向ふ。黄檗山

○赤門。白地の聯。青の字。支那風なり

宗綱濟道重恢廓

聖主賢臣悉仲尊



○齋堂

宇治橋、平等院、興聖寺。

四月六日〔土〕
雨。

七日〔日〕 晴

○三本木土屋員安方にて山陽外史の室を見る。午飯
○嵐山、吐月橋、温泉、釋迦堂。
天龍寺。

八日〔月〕

○嵐山

○保津川。

潭、激流。岩。平ナルモノ Crystalノ如きもの
の、烏帽子岩、書物岩、屏風岩。



の如きもの、不規則に凸凹あるも

○山、松山、石山、雜木山。

○杣、木樵、猿の如し。

○筏、一列毎ニ楫ヲトル。

○筏士 岩の上に數多辨當ヲ食フ

○舟、構造、舟子四人。二人は櫂ヲ右側に結びつける(藤蔓)。一人は軸原ニテ竹ノ竿デ岩ヲ
ツク。一人は櫂デ楫ヲトル

○仁和寺

田樂

○妙心寺

○等持院

九日〔火〕

叡山上リ。高野より登る。轉法輪堂。叡山葦。草木採集。八瀬の女

根本中堂。學校デ晝食ヲ乞ふ案内に應ずるものなし。

○坂本。はしり堂にて中食。石橋の上。石橋は古雅。數三あり。

○大津迄汽船を待つ。時間かゝる。車にて大津迄行く。疎水原の隧道を下る。篝火。欸乃。

○十一屋。平八茶屋。高野村へ行く途中山端にあり。

御前川上、わしや川下で……

十日〔水〕 雨

平八茶屋 (雨を衝いて虚子と車をかる。溪流、山、鯉の羹、鰻、)
都踊

うた〔以下は小きき女の手蹟なり〕

ふとんきてねたるすがたやふるめかしおきてはるめくちおんいんのそのろもんのゆいぐれにすいたお
かたにあいもせですかぬきやくしゆいによびこまれ山寺のいりやいつぐるかねのこへしよぎよむじよ
いはまゝのかはわしはむしよいにのぼりつめ花のいたゞきどれいてみよ花はうつるをものなれどきこそ
おしけれおしけれきこそいろふかみぐさ。

○一力亭。藝者が無暗に来る。舞子が舞ふ。

断片

— 明治四十年頃 —

○蜘蛛ノ圍ニ秋の日はあつて、一本、二本がきら／＼虹ノ様に五色ニひかる

○むらがる雲が。縁が銀の様にひかる其なかゞ薄黒く。むく／＼する。……風が出るね

○川へ這入つて、ずん／＼行く。仕舞に首がなくなつたぎり出て來ない

○一膳飯を食ふ。男が向をむいて居る。

○赤ん坊をだく。首が下る

○錢化して石となる

○已みね。人。……已みね雲……

○夫婦喧嘩

○蛭蟻

○吾ハ詩人ナリ。食逃

○里の灯を力によれば燈籠かな

○麴鼠 亂菊

○菊の瓣 不規則中の規則

○骸骨の躍

○日を重ねて月となし、月を重ねて年となし、年をかさねて墓となす。
墓のなかに……

「吾は骨なり」

「吾も骨なり」

「吾は肉なり」

○新酒を△壺に入れて吾妹子待てば

鳴くや蝉ちんちろり

……

○わが泣く聲は秋の風

山より海より、

山とも海とも

知らぬ果より

秋風が吹いてくる
ごとと鳴つて吹いてくる

山の方へ

海の方へ

山とも海とも

知らぬ果の方に

ごとと鳴つて吹いて行く

蒼黒く、大いなる、

限りなく、靜なる、

海の底に

赤い日が沈んだ。

赤い日の玉が

しゆつと云つて沈^原ちだ。

生れた、生れた

御月様より先に

生れた生れた

御星様より先に

御月様より、御星様より

御「時」さんより御「暗」さんより

とくの先に生れた

本當にさうならようい。

死んだ死んだ

死んでも飯を食ふ

死んだ死んだ

死んでも酒は飲む

飯を食つて、酒を飲んで

話をしながら死んで居る

大方さうだろ、やあい。

惚れて、恨んで、泣いて、原れて

それから死んだ。

死んで見たらば惚れる事も

恨む事も泣く事も

原る事も入らなくなつた

.....

わが呼ぶ聲は——わが呼ぶ聲は

あゝわが呼ぶ聲は——などて

よみに——なにとて

よみに聞きさる

二

片断
The "Cabinet" is either passionate or poetic vision—a spiritual gift, which may soon and easily become a spiritual bondage; wherein a man is locked up, with keys of gold indeed, yet is he a prisoner all the same; his prison built by his love or his art, with a view open beyond of exquisite limited loveliness, soft quiet and light of dew or moon, and a whole fresh world to rest in or look into, but intangible and simply reflective; all present pleasure or power trebled in it, until you try at too much and attempt to

turn spiritual to physical reality—"to seize the inmost form" with "hands of flame" laid upon things of the spirit which will endure no such ardent handling—to translate eternal existence into temporal, essential into accidental, substantial into attributive; when at once the whole frame work, which was meant otherwise to last out your present life, breaks up and leaves you stranded or cast out, feeble and sightless "like a weeping babe." So that whereas at first you were full of light natural pleasure, "dancing merrily" in "the wild" of animal or child life, you are now a child again, but unhappy instead of happy—less than a child, thrown back on the crying first stage of babyhood—having had the larger vision and lost your hold of it by too great pressure of impatience or desire—unfit for the old pleasure and deprived of the new; and the maiden-mother of your spiritual life, your art or your love, is become wan and tearful as you, "pale reclined" in the barren blowing air which cannot again be filled with the fire and the luminous life of vision.

三

×京都へ落ちる。糺の森の夜。烏。時計。雨。正岡子規

×書法。臺山。

- 大明竹。箱根竹。寒山竹
- 矢竹。女竹。唐竹。業平竹
- シボ竹。シハウ竹。蓬萊竹
- 胡麻竹。黒竹。眞竹。雲門竹。ハ竹。稚子笹。
- 鳳凰竹。夜叉竹。スワウ竹
- タイサン竹。スマ竹

四

米澤。

風通大島。地紋織。刺子織。高貴松織。御召刺子。本糸刺子。平糸織。本風通。一樂。

琴(菖蒲形)

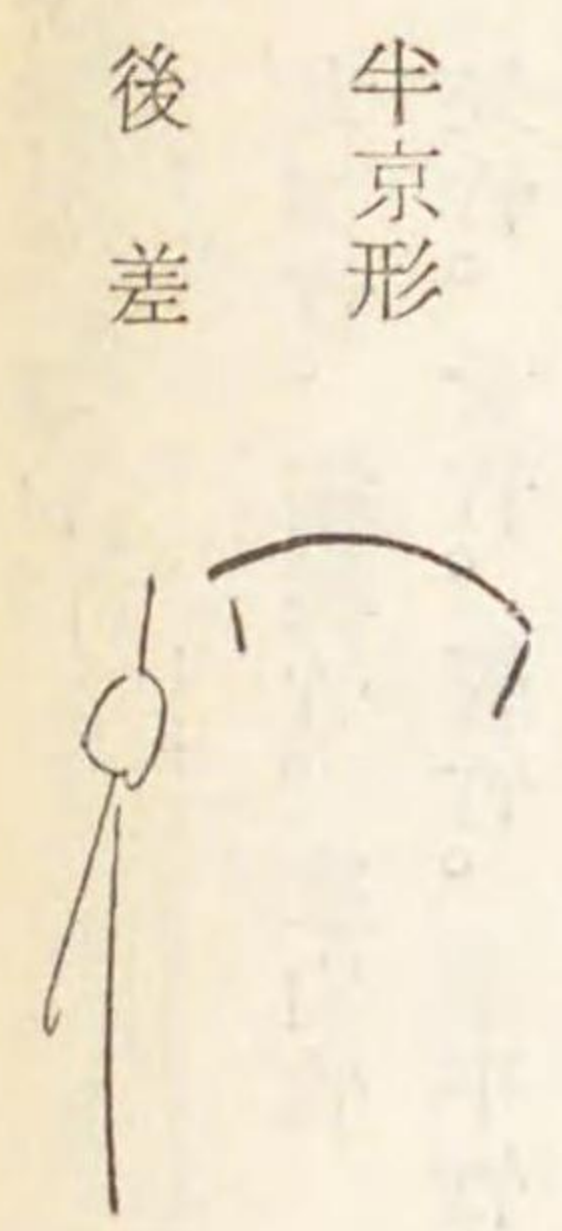
- 胴 南部産 無キズ
- 包 象牙

- 角 象牙無垢枕繰り出し
- 百足足 象牙無垢
- 猫足 全様銀撞木
- 丸口 象牙繰り抜キ
- 口前 金消シ金具象牙縁
- 舌 象牙菊水蒔繪
- 眞座 頭金消シ太座赤銅
- 柱 象牙

○於六梳櫛。於六梳櫛。

外島毛筋立。峯張於六〇〇
(品川形)

朱月形吹寄。於初蒔繪
貳拾金蝶形ルビ一入束髪ピン



半京形
後差

差込



平打

赤銅夜光貝研出し
束髪横差
團扇形簪
玉虫貝董形髷どめ

刷

黒小町小形。白鹿毛小町
牡丹刷。雲井形眉刷毛

緋銅光悦好燈籠

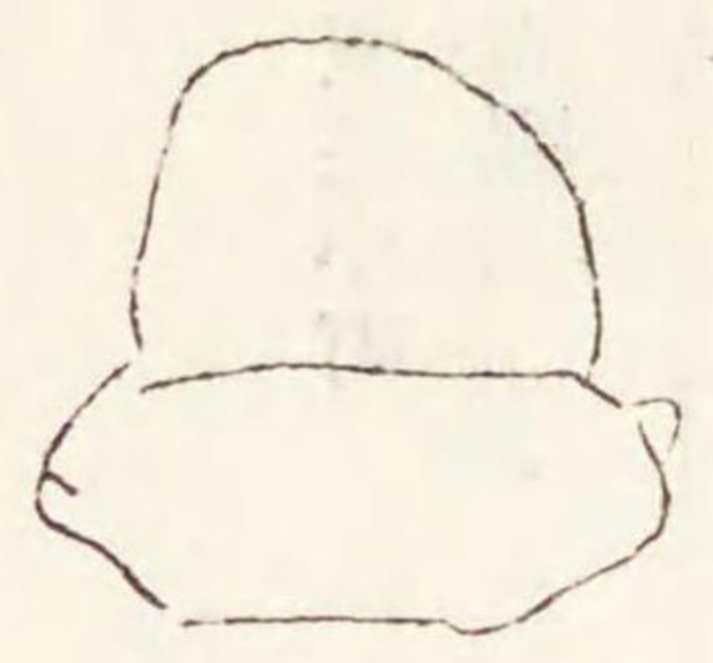


片斷

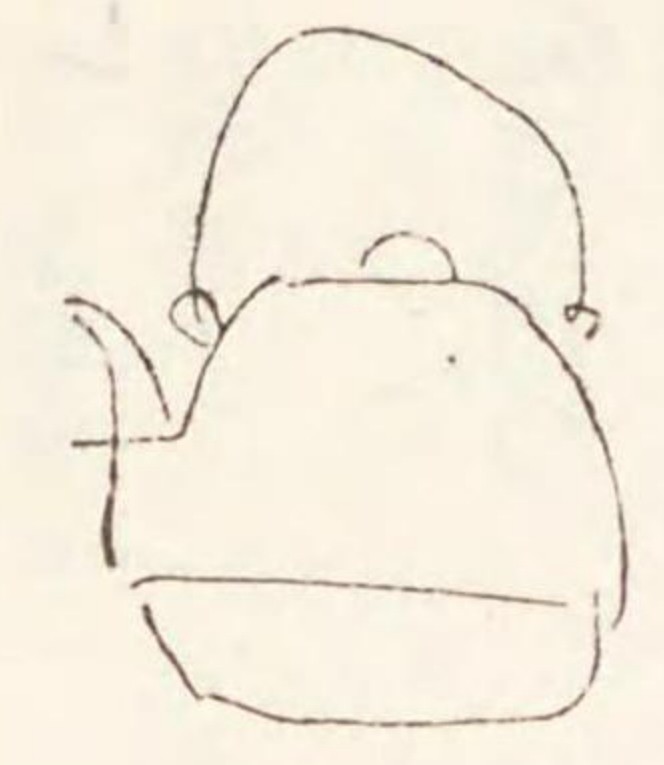
達磨形鐵瓶



手取形鐵瓶



平寶珠形鐵瓶



紅溜尺
一朝鮮形會席膳

七寶

小豆地〇〇模様盛上

瑠璃美人草

洗朱沈黑會席膳

宗利膳

流釉 赤釉

淡路燒敷瓦

蕎麥釉花生



五

○ 春此頃化石せんとの願あり。

エツツの詩 metamorphosis ヲシタ後の想像。

○ 茫々たる平原。川。川を渡る。馬の群。

○ If you will give me all your mind awhile—

All, all, the very bottom of the bowl—

I'll show you that I am made differently,

片斷

That nothing can amend it but these waters,
Where I am rid of life—the events of the world.

.....p. 21.

○遠き世の怒り。劍の音、矢叫び
○率いて死に赴く。(××の死)。死に赴くものは生を免かる。死を免かれんとするものは死を見
て悪を免かる。

○世界を齧む。齧んで世界の髓に至る。

○世界の風。ドコへ持つて行かれるか分らない。うつかりして居ると

○月よりも長い命

○星洗ふ大なる波

○ Jack London の犬の話あり。舊主人と新主人の間ニ立ちて犬が去就ニ迷フ struggle ヲ寫ス

○ There is a sound of clashing swords from time to time during what follows.—p. 123.

○ Life drifts between a Fool and a Blind man to the end, and nobody can know his
end.—p. 123.

○ pure glittering ones,

That should be more than wife or friend or mistress.

Give us the enduring will, the unquenchable hope,
The friendliness of the sword!—p. 106.

Fulvia is dead.—p. 793.

We cannot call her winds and waters sighs and tears; they are greater storms and
tempests than almanacs can report.—p. 793.

Let me be married to three kings in a forenoon.—p. 792.

✱

○ Possibility—truth—pain

Ideal

Fact—pain

○ Pictorial Element in literature

× Motion through things,—things through motion—force—will

in others, essentially same as ours, is an assumption all the more arbitrary, because it has never entered and can never enter our consciousness, except by indirect means (language and action etc.). That the language and action of so called others are undeniable exponents of their being endowed with consciousness like ours, because we and others find ourselves in perfect harmony by making use of those symbolic means by way of communication, is no argument in favour of proving the existence of consciousness in others. (次 = other beings 又分ツテ individuality ト personality ヲ認メル). It is a logic taking effect for cause, topsy-turvy way of proving things. We started from convenience, ∴ everything that is convenient to satisfy our tendency has been assumed. Those assumptions have been sifted by the experience of hundreds of thousands of centuries. As a matter of fact, therefore, those assumptions which we keep now, must be looked upon as vitally important to the preservation of ourselves. The existence of the same consciousness in beings we call men is just one of those assumptions, recognized by us as absolutely necessary, because it has been found most harmonious to the fulfilment of our tendency to live. Then the reasoning should be,—this assumption has been most convenient, therefore, experience has not sifted it,—and should not be—we can communicate our state of consciousness in humanly perfect fashion with each other, therefore others as well as we must be endowed with similar consciousness. (We is not, strictly

speaking, a proper word; it ought to be *I*; *I* in every stage of existence.)

Thus the existence of consciousness in man; the like nature of that consciousness; therefore unity of consciousness in man; therefore the oneness of consciousness in the human world; and the extension of that consciousness through the animal and vegetable world by some argument or others are merely assumptions, caused either directly by convenience or indirectly by some desire of unifying things, which is derived from that convenience.

The oneness of consciousness thus derived from assumption ought not to be confused with the oneness of the subject and object which state I was in, before I had started on the way of differentiation propelled by the tendency to live, in search of convenience. The assumption of the oneness is the result of outrunning the practical interest.

The primary oneness is the state I lived through, before any practical interest moved me.

These two *onenesses* may look alike, but they are totally different things, like the beginning and the end.

○ Differentiation in the course of experience, necessarily implies unification. One without the other is useless. Sight is differentiated from hearing; at the same time those which appeal to sight are unified and grouped together.

○ But differentiation and unification have the above convenience for their object. Thus when once *I* start from *the oneness*, we have entered the practical world; I can never get rid of the practical interest. Putting aside, I must return to that primitive state of the *oneness*.

× As every differentiation implies unification, so every complexity goes side by side with simplicity. And every differentiation and complexity, together with its accompaniment unification and simplicity has nothing but practical interest for its object; because differentiation does not differentiate for its own sake; it is propelled, driven forward by that inexplicable tendency to live.

× Living in other terms is, as I have stated above, only succession of consciousness. If living is a succession of consciousness, then arises differentiated way of living: as a succession of consciousness is subject to analysis, first as regards to its *succession*, secondly as regards to consciousness. The manner of succession and the nature of consciousness determines the quality of life. Hence the choice between different combinations or sets of lives.

× The primary object of living then undergoes a modification. The living *was* the object; but *how to live* is now the question. Mere succession of consciousness is not so much the matter of interest as a certain succession of certain consciousness.

× Psychological distinction of the intellect, feeling, and will come in, so as to give us the scope of life in their differentiated forms and successions and the course of our consciousness is determined by choice which is simply the other word in this case of the primary tendency.

× Those who choose a course of consciousness in which the intellectual play predominates have been distinguished by the name of philosophers.

× Those who set their eyes on a course of consciousness where feelings are paramount have called themselves poets, artists.

× Lastly those whose consciousness flow in a stream of volition single out themselves as men of action—warriors, tyrants, statesmen. (Volition in this sense must not be confused with the primary tendency to live, or its developed form *choice*. This sort of will pervades through the three sets. What distinguishes this sort of people is the will with which they affect others, whether choice is given by nature or not.)

× When I say they have to choose, two things are implied:

1. Lives chosen are satisfactory to them, or harmonious with their natures, i. e. they chime in with the primary tendency to live as well as with its developed principle "how to live."
2. They have *ideals* in life, i. e. they have answered the problem "how to live."

× Those ideals realized are called pleasures and when unfulfilled, we feel our succession of consciousness is unsatisfactory, either in its manner of succession or in the nature of consciousness. We call this state by the name of pain.
Thus pleasure and pain are purely practical, i. e. egoistical, a thing of concentrated self-interest.

× Three activities distinguished by psychologists are, as we all know, merely terms of convenience. In fact, they are never manifested in their pure and independent form. Thus, philosophers, poets and men of action, though they take one of those activities as the essential factor for their flow of consciousness, are never free from the other two, even in the free play of their mental endowment in its powerful and strong phase and in their chosen and special line. Consequence is, then, a philosopher is a poet in so far as he admits a certain exercise of emotion in course of his intellectual and reflective life; likewise a poet is a philosopher in the sense that he more than often have recourse to the cold, hard and well-cut activity, which is said to be indispensable even in the emotional display either in conception or written form. Thirdly, men of action however strongwilled can never get rid of the two of the trinity. Will in its purest form is a composite faculty, containing more or less the other two activities, somewhere in its course extending from its inception to its execution.

× Philosophers being chiefly occupied with the intellectual display in, consciousness have, for their ideals, if they have such, *truth*. They seek truth and when they have sought it out, they feel happy.

Poets and artists whose domain lies in emotion, have mostly to do with the ideal which goes by the name of the beautiful.

On men of action, falls the lot of realizing the ideal of the good.

× Those ideals are not the only ideals; but they are the typical ones, representing the most prominent aim and end of those three sets of people.

× For they are most happy when their ideals are attained, i. e. when the course of their stream of consciousness, flow in the chosen direction without any obstacle, fulfilling the ideal in poet, step by step as it flows on, until the winning point is reached when their happiness is complete, because their ideals are focalized in their consciousness as a whole.

× Thus the end of philosophers, poets and men of action are alike hedonistic.

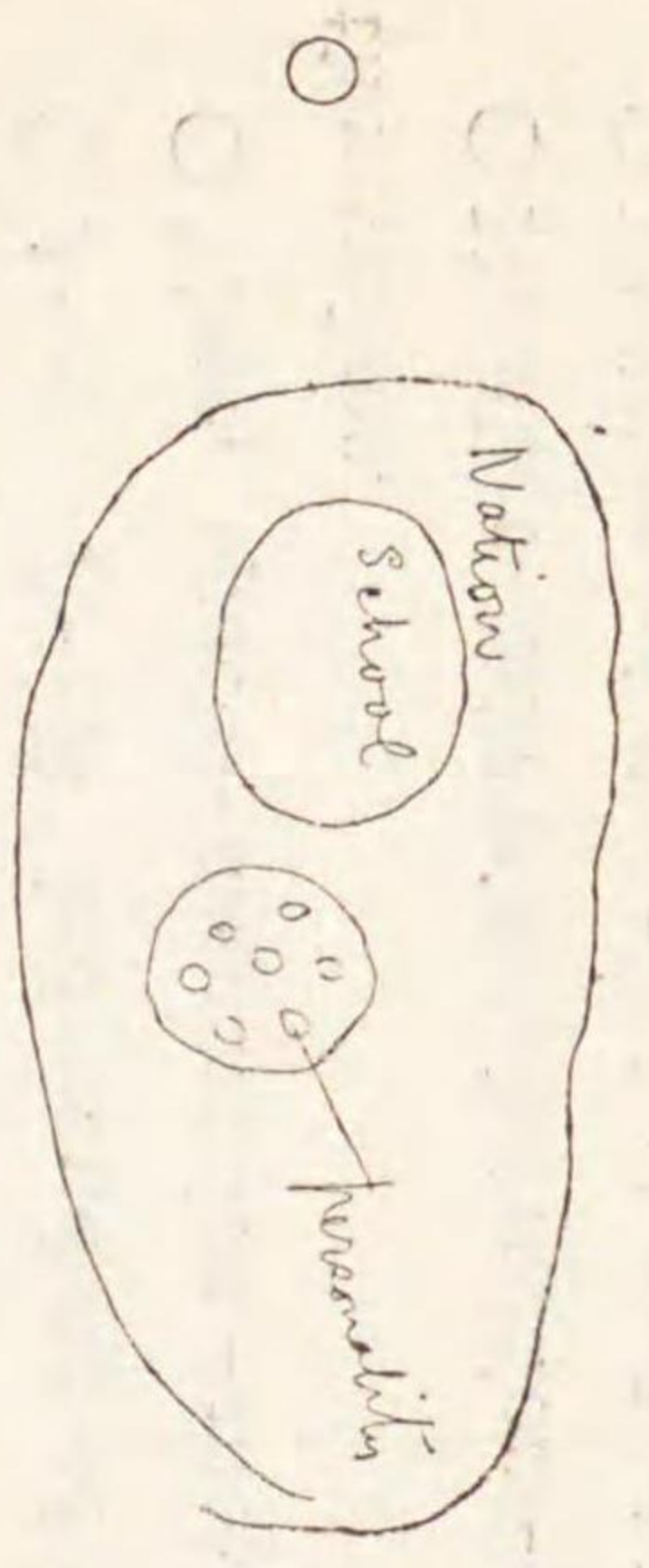
× The conclusion then, we derive from the above argument, is—the primary end of man is to live; the secondary one is to live *well*. Blind will to live has undergone a refined process and has become endowed with a definite purpose by which he has to

choose and map out a certain course of life as specially his own. Life unconditioned, life in its bare existence was enough for him, but life with pleasure has turned out to be what he really requires. Absolute life then becomes endowed with qualitative meaning, the latter of which is often seen to play a more vital part than the former, when evaluated by man. This quality is pleasure, and pleasure is found in ideals, and ideals are again found in choice of life; finally this choice is the modified activity of the primary tendency to live. Therefore all these,—the primary tendency, the choosing activity, the ideals and the ideals realized—have nothing but practical interest. Utility—utility to the preservation of self is the alpha and omega of what we think, feel and do of every state of consciousness which rolls itself within us like a grand and endless panorama. (Altruistic consideration is intentionally left out in order to avoid confusion.)

X As three activities of the intellect, emotion and will, are merely abstract ideas and not real facts, it stands to reason not to suppose that there are pure philosophers, pure poets and pure men of action. Philosophers are poets and men of action in some sense and to a certain extent; so are poets seekers of truth and practical men of the world; likewise men of action may occupy the other two professions at the same time they are men of action.

X Hence poetry in spite of its being composed by poets has nevertheless for its contents not merely the purely beautiful, but also truth and good.

Picture in Literature (in famous passages)



○羊毛筆ノ必要。All possible phases of which the length of the brush is capable へ出 ン ンガ出來ル。尤モ多種多樣ナル線ト其 combination ヲ作ル ンガ出來ル。

十

- 物、我 (dual)
- 時間、空間、數
- 因果律

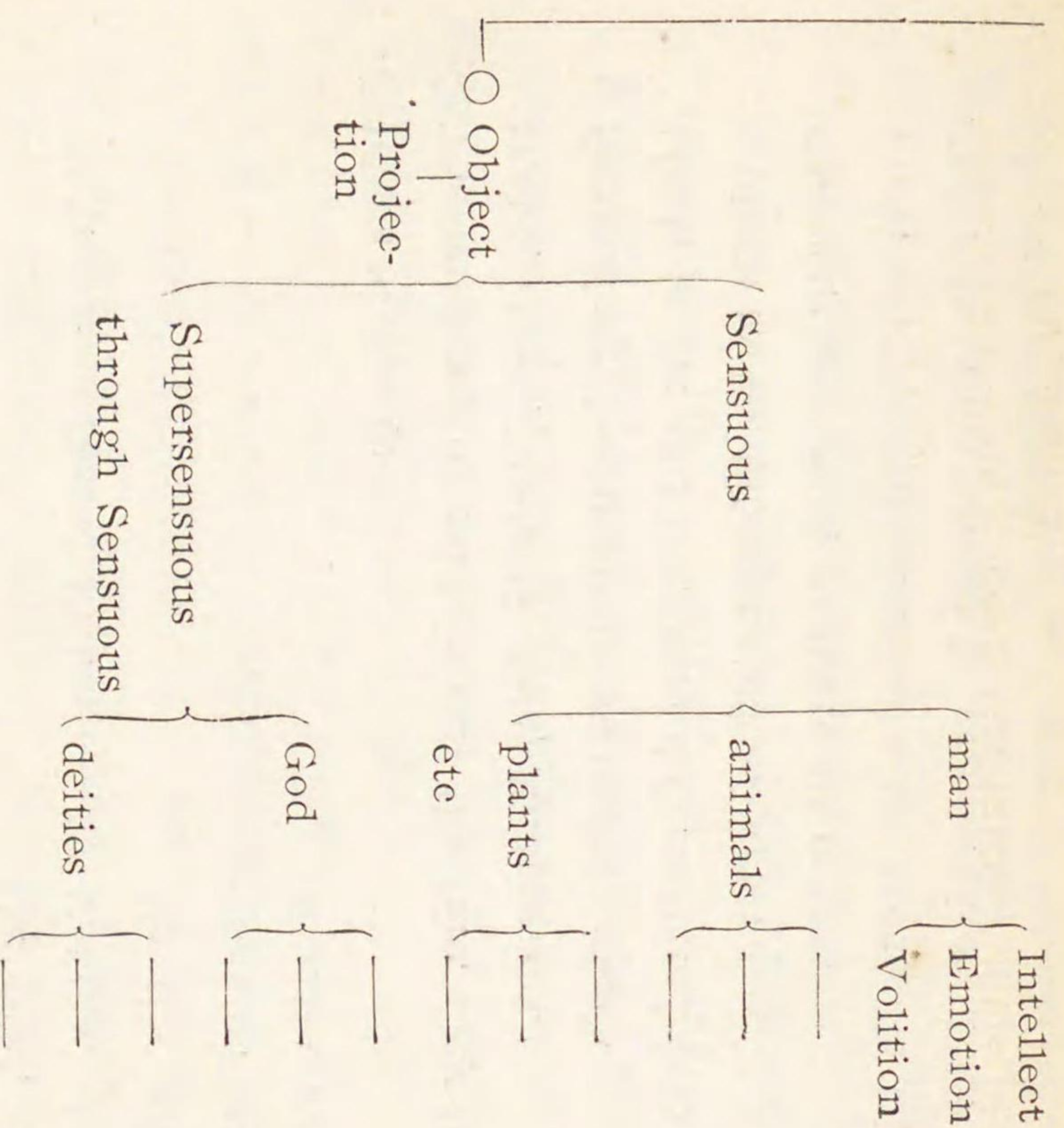
眞實 { 〇物我 (oneness)—succession of consciousness
〇 Life

- 〇 Why the difference?
- 〇 Antipathy to the stoppage of the succession—the primary tendency to live—a fact—"a blind will to live"
- 〇 因 tendency へ developed?

〇 Differentiation

- 〇 Succession of consciousness—two factors—choice—how to live—Ideals.
- 〇 Succession—time—two clear consciousness—intensity—memory—time—因果律
- 〇 A→B A←B independent of time—space (painting へ sculpture, architecture)
- 〇 Time, space—assumption—most convenient assumption—abstract—no existence by themselves.
- 〇 Number—likewise abstraction—Time へ Space へ 算術
- 〇 Division of the subject and object

〇 Subject { Intellect { Emotion* Volition } ideals (scientists, philosophers, poets, men of action)



*Emotion (+ Intellect + Volition) へ Ideal:—

現 代—— I Intellect through the Sensuous—The Sentiment for the true

俳句、文那詩——II The Sensuous as the Sententious—The Sentiment for the beautiful, grotesque

Scott, 馬琴——III Morals through the Sensuous—The Sentiment for the good, sympathy, etc. love Indifferent

Old Testament Conrad, Kipling——IV Volition through the Sensuous—The Sentiment for the sublime, awful—force—power etc.—courage, heroism (agents:—God, natural power, animals, mechanism,—steam engine)

○ Ideals へ change

○ The tendency of modern art—the true, ugly truth Hedda Gabler, Othello, Zola, Maupassant.

○ Succession of consciousness—choice—ideals
Ideals in art and literature differentiated into 4.
4 ideals to be differentiated *ad infinitum*
Choosing one ideal, neglects all others.

Dark, gloomy unpleasantness are excusable when one small ideal is reached?
○ Different ideals cannot be compared on different planes.
Mistakes of critics.

○ Still, 比較ノ出來ヌ程其作ノ ideal ガ prominent ナラザル可カラズ換言スレバ他ノ ideals ヲ破ル様ナ「ガ目ニツクベカラズ。現代ハ奈何

○ 四ノ ideals ノウチ Sensuous ヲ目的トスルハ一ニ過ギズ他ハ Sensuous ヲカリテアルモノヲアラハス。故ニ單ニ表面ノ description ヲトスベカラズ。Dessin ノミヲ終局ノ目的トスベカラズ。Dessin ハ means ナル場合多シ。文學者モ畫家モ彫刻家モ此弊ニ陥ルトキハ單ナル藝人トナル。Orchardson 仁王——技巧以外ナリ。Art and Lit. ハ此點ニ於テ同ジ然シ

○ 繪、彫刻ト文學。Succession of consciousness。two factors
Succession—literature. (重ニ)—time. Succession へ ideal へ movement. —其 movement ノ determined manner. —カク move セザル可カラザル如ク書ク。迷ハズ亂レズ遲疑セズ拘泥セズ。讀者之ニ從ツテ矢張り迷ハズ、亂レズ……故ニ此 succession ハ作家ノミナラズ讀者ニモ尤モ ideal ナリ。換言スレバ尤モ pleasant ナリ。故ニ此 succession ハ寸毫ノ disturbance ヲ受ケズ從ツテ他ノ series of consciousness ヲ入レズ。從ツテ contents ト一致ス。物我ノ境ヲ免カル。Oneness ノ還元的傾向ヲ有ス。Time ニ govern セラルノニモ關セズ、time ノ自覺ナシ(繪畫ノ筆、書家ノ書法、彫刻家ノ刀ニモ多少應用シ得)然レモ繪、彫刻ハ重ニ space ノ延長ノミニテナル。比較的 time ノ必要ナシ。乃チ two factors ノ内ノ consciousness itself ノ内容ノミニテナル而シテ此 contents ガ space ノ relation 即チ arrangement ニ於テ寸毫ノ束縛ナク自由ニ出來テ居ルト觀ルモノハ矢張り此内容以外ノ cons. ヲ容ル、「ガ出來ズシ「テ」物我ノ一致ヲ得ル。スルト space ニ束縛セラレタル繪ニモカ、ハラズ space ヲ超越シテ恍惚トナル。(Lit. ニ就テモ

多少ハ同ジ)

カクノ如ク藝術ノ極致ハ Sensuousナルアルモノト一致シテ其モノニナルノデアツテ其 Sensuousノ奥ニアルモノガアレバ Sensuousヲ通シテ此アルモノト一致スル故ニ此アル物ガ高尚デアレバ自分ハ此間高尚ニナルノデアアル。是ハ consciousnessノ differentiateセザル以前ノ onenessト同ジ stateデアツテ highly differentiationノ後ニ至ツテ還元スルノダカラシテ大ニ趣ガ違フ。Dim cons. デ物我ノ境ガ判然セヌノデハナイ。Clear cons. デ物我ヲ免カレテ悲壯ニモ雄大ニモ高遠ニモ慈仁ニモ色々ニナリ得ルノデアアルカラシテ是程功德ノアルモノハナイ。無我

○ Philosophers, scientistハ吾人ノ cons. ヲ clearニスル爲メニ wholeヲ分解スル。此分解シタ者ヲ Sensuousノウチニ綜合シテ up to dateニ clearナル cons. ヲ representスルノガ藝術デアアル。シテ見ルト philosopherヤ scientistガイクラ骨ヲ折ツテモ此結果ヲ人ニ inspireスル者ハ藝術デナクテハナラヌ。此 highly differentiated knowledgeヲ Sensuousナルモノ、ウチニ收メテ活動セシムル者ハ藝術家デアアル。活動セシムルノガ出來ナケレバ inspireスルノハ出來ン。眞ノ realityハ藝術家ノ手ニヨツテ仕上ゲラル、ノデアアル。

○吾人ハ Liveスベキ tendencyニヨツテ subjectト objectヲワカチ。Succession of consciousnessニ choiceヲ生ジ、idealヲ生ジ、分岐シテ philosopherトナリ men of actionトナリ又藝術家トナル。而シテ其藝術家ガ又色々ナ idealヲ作ツテ色々ナ手段デ自己ノ欲スル succession of cons. ヲ求メル。要スルニ皆 Liveスベキ tendencyヨリ出デ how to liveノ問題ヲ考ヘテノデアアルカラシテ皆 practical interestヲ有スル家業デアアル其ウチデモ藝術家ハ以上ノ効果ガアルカ

ラシテ尤モ世道人心ニ關係ノ深イモノデアアル。世間デ之等ヲ閑人ノ如ク云フノハ大變ナ誤解デアアル。藝術家モ閑人ト考ヘテハナラヌ出立地ヲ考ヘナクテハイカヌ。

○技巧ノミヲ考ヘルト此弊ニ陥ル(人格デアアル) 人格ヲ expressスル爲メノ技巧デアアル tasteヲアラハス爲メノ expressionデアアル。然シ difficult to separate色ト形ノ如シ。無技巧ノ内容ハキカズ。今ノ人ガ文章ヲ構ハヌト云フアレハ大ナル間違デアアル(繪カキノ方デハ夫レ許リ構ツテ居ル様ダ)。例

○ Uneasy lies the head that wears a crown.

Kings frequently lamented the miserable consequence of being born to great things, and wish they had been placed in the middle of the two extremes, between the mean and the great.

○故ニ内容ハ技巧ニヨツテ intensityセラレ visualizeセラレ且ツ明瞭ニナル。而シテ明瞭ナル意識ハ吾人ノ生活ニ必要デアアル實用的ナモノデアアル(一種ノ意味デ云フ)カラシテ之ヲ neglectスルノハ自カラワガ持ツテ生レタ tendencyニ遠カル様ナモノデアアル。之ヲ無用ト云フノハ愚ノ極デアアル。

○夫デ技巧ハ必要デアアルガ其必要ナルハ contentsヲ發揮スル爲メデアアルノデ(技巧其モノガ必要ノ度ヨリモ、今ノ文學者ノ一部又ハ畫家ノ云フ如クナラズ)アルカラ吾人ハ第一ニ技巧ノ内容タルベキ ideals 即チアル者ニ向ツテノ sentimentヲ養成セネバナラヌ。此アル物ハ智力仁力勇力人ニヨリ時、場合ニヨツテ異なるナルノハ無論デアアルガ要スルニ藝術ノ爲メノ Idealト云ハンヨリモ

片斷

life 其モノニ於ケル ideal ニシテカネテ藝術ノ ideal ト云フノガ適當ナル。life 其物ノ ideal ナ
アレバ人間トシテノ ideal ナル。Sentiment ナル。即チ人格ナル。此人格ガアツテ始メテ
之ヲ立派ナ技巧デ express シタ時ニ人ヲ物我一致ノ極ニ誘ツテ還元の眞理ヲ悟ラシムルト共ニ複
雜ナル今日ノ develop シタ ideal ノ領分ニ入り込マシメテ之ヲ感化セシムルノナル。

○ But when they had opened the doors they found Cleopatra stark dead, laid upon a
bed of gold, attired, and arrayed in her royal robes, and one of her two women which
was called Iras dead at her feet: and her other woman called Charmian half dead and
trembling, trimming the diadem which Cleopatra wore upon her head.

○ Two men fleeing from the world.

1) for freedom

2) for truth

○ 香一炷。

○ 老人、少女
謠曲、鼓。

○ 鬪、紅紐 萱の原。

馬車、追人、御者。

○ 緋櫻、渡シ。

○ 女(上) 男(下)
入畫、出畫

○ 介錯

○ 入畫、出畫

○ マシヨリカ皿

○ 緑竹

○ 叡山

○ 暗中銘を給はる琵琶の春寒

○ 松蟲

○ Finale

八

○ 物の essence ヲ represent スルト云フハ此人がある consciousness (俗ニ物ト名ヅクル) ノ一
部分即チ feeling ヲカクト云フコトナル。而シテ此 feeling ハ此物ニ對スル cons. ノ主要ナ部分
ナル即チ reality ノ大ナル物ナル文藝ハ之ヲ represent スル

○ Whole ナ consciousness ヲ寫スノ効果ハ——古人ノカイタ物ガ simple デ whole ヲ grasp
スルモノヲ喜コブノデモワカル。

○ Whole ナ consciousness ハ experience デキマル。故ニ此還元的ニ悟入シタ人ハ何ヲ見テモ何
ヲ聞イテモ不思議ニ思ハヌ。Causal relation ニ反シタ consciousness デモ平氣ナル。如何ト
ナレバ causal relation ハ cons. ヲ綜合シテマトメタ abstraction ナ consciousness 其物ノ方ガ本
ナル real ナル。此 real ナル者ニ causal relation ヲ破ルモノガアレバソレガ real ナノデ
causality ガ false ナノナル。少シモ不思議ガルニハ當ラヌ。俗人ハ causality ハ independent
ニ exist シテ居ルト思フテ其 conception ト自己ノ cons. ト一致セヌト却ツテ自己ノ cons. ノ方ヲ

疑フ。之ハ本末ヲ誤ツタ議論デアル。Causal law ハ矢張り便宜ノ爲メニ作ツタ abstraction デアル。之ヲ assume シテ矢鱈ニ應用スルノモ矢張り一時ノ便宜ニ過ギヌ。自己ノ cons. ガ real デアル以上ハ何モ疑フ必要ハナイ。

四月二十八日

かやの原。野うるし。馬の足形(金米糖)。櫻草。擬寶珠。
原の遠景。白帆。遠くの森の若葉ニ微茫たる光線。士女の點々。

荒川堤の櫻

鶯草。白堊。嫁菜。おんぼこ。

姫百合に筒の古びやすんど切

いかり草。露草(セレリノ類)

小町菊。おいらん草。ホト、ギス草。夏雪。ギボシ。紫苑。檜扇。蘆苑。嫁菜。

× Problematic Interest.

× Eternal Interest.

雅號

肝膽相照らす。

血で洗ふ。

死は眞である。

宗近 二十八

甲野 二十七

動かぬ山

動く雲

古今を貫

○夏の眞夜中の東京市

×電車のレール

×縁日の植木屋の歸り。無提灯
 ×夜通しの、御でん、かん酒、
 ×電柱にしばりつけた廣告の巡り燈籠。
 ×往來に黒い帽子が落ちてゐる。——車へ乗つて居眠をしてあるく。帽子が落ちて知らずにゐる。
 ×電燈の點々

借家探し

○西片町を出る理由
 ○富士前町ノ家
 ○大久保(五六間)
 ○千駄ヶ谷(成金趣味)
 ○カラ橋ノ家
 ○原町。二十圓 臺所ノツキ合せ。十五圓デ暮シテ居ル人モアル。十圓 塚本靖ノ前。飛ビ上ル
 ○曙町。香村小録ノ二階。池田菊苗の舊宅。池田菊苗の隣。倉を建てゝゐる家。將軍 中將ノ家。松ノアル家。裏カラスツカリ見える家。昨日の晩空いた家。ハドレダ。
 ○小石川。閉門ノ家ヲ視イタラ書生ガ本を讀ンデゐた。——千駄ヶ谷へ越した家ヲ聞いたら叱られた。

新しい家に爺が草を取つてゐたから聞いたらもう。ふさがつてゐた。

○動坂の別荘 當分カサナイ
 ○上富坂町 八ガ四、六ガ一、三ガ一、二ガ一デ四十圓ト云フ
 ○金鷄書院が八十五圓だと云フ
 ○磯村が九十圓だと云フ

○大久保 戸川秋骨。雨。
 千田貞幹のうち
 ○動坂。小糸。松源ノ家
 ○千駄ヶ谷。八圓のうちありと踏切番人云ふ。
 徳大寺ノ屋敷。
 ○伊勢屋ノ親方ニキク。八幡神社

九

片断
 × The Edinburgh Review. January 1906
 1 Novels with a Philosophy

- 2 Visionary Art of W^m Blake
- 3 Nathaniel Hawthorne, Man and Author
- 4 Fanny Burney, her Diary and her Days
- × The Fortnightly Review. June 1899
- The New Mysticism by Ernest Rhys
- × The Atlantic Monthly. September 1906
- 1 The Novels of Thomas Hardy
- 2 Three American Poets of To-day
- × The Nineteenth Century. September 1906
- George Gissing by Austin Harrison
- × The Edinburgh Review. July 1906
- Alfred de Musset
- × The Independent Review. 1906 十月又ハ十一月
- The Demand for Pain by Miss Constance Clyde
- × The Quarterly Review. 1906 十月又ハ十一月
- Henrik Ibsen by Arthur Symons
- × The Fortnightly Review. 1906 十月又ハ十一月
- Are we better than our Fathers? by Street (Early Victorian ト 現代人 ト ノ 比較)

- × The Edinburgh Review. 1906 十月
- Literary Criticism, Aesthetic and Psychological 批評ノ諸派
- × The Edinburgh Review. 1906 七月
- Alfred de Musset
- × The Edinburgh Review. 1907 一月?
- Insular Fiction (英小説ノ悪口)
- × The Quarterly Review. 1907 一月?
- Prothero The Growth of the Historical Novel (from the days of Queen Elizabeth)
- × The Edinburgh Review. 1907 July
- The British Novel as an Institution

十 (『坑夫』素材)

○前橋

夜九、大宮へ夜二時、神樂殿 三時間寐々。

片断 ○松並木掛茶屋、草鞋バキの筒袖ガ呼ブ。働カヌカト云フ。腰ヲ掛ケル。儲口アリ。足尾ノ銅山。始メカラ工夫ニナレル。——日光ノ山奥デ人ニ顔ヲ合ス必要ナシト思ヒ行ク。其男ト前橋カラ瀛

車へ乗ル。宇都宮(暮方)。ソコデ通り掛ノモノト小供(十三四)二人ト共ニ出發(日光へ)。雨ノ日。夜日光へ着ク。ダイヤガハヲ溯ル。草鞋店へ這入る。其男主人ト話ス。此カラ峠ヘカ、ルノハ難義^原ダカラトテ寐ル。夜着モナシ。殆^原ソ野宿。翌日足尾着。草木モアルガ段々赤クナル(馬返シ前カラ左へ折レル)

○午後一時飯場へ着ク。(足尾橋ノ左ガ「シキ」ニナル。段々。右ノ方ガ役人ノ住居。「シキ」カラ出ル「レイル」ニ就^原テ行クト工夫の長屋が澤山アル。三、六疊。長屋カラ右ヲ見テ左ニ銀山平ヲ見テ上ル。石崖ノ上ニ大キナ長家。顔色のイヤナ男ガ顔ヲ出シテ居ル。

○ポンピキノ林ガ飯場頭ト問答ス。飯場掛ガ云フ。工夫ハ六づカシイ。歸レト云フ。兎ニ角歸レナイ何デモ使ツテ呉レト云フ。ト使フニ忍ビヌト云フ。足尾デ働ク氣ダカラ是非使ツテクレト云フ。二階へ案内。ユルリガアル婆サンガ居ル。火ガカン／＼アル。休ミノ工夫ガ澤山居ル。皆異様ノ顔ヲシテ居ル

御前ドコカラ來タ

僕ハ東京

僕ナンテ云フカラ書生ツ坊ダラウ。

女郎買の結果。此頃書生の風儀ガワルイ。ソナナ奴ニ辛抱ハデキヌ。歸レ。

中ニ二十七八ノ美目正シキ男。人品普通ナラズ。ナゼ來タカ。決シテ儲カル所ニアラズ。食詰者ノヨル所ナリ。歸ツテ新聞配達ヲシロ。元ハ自分も學校へ行ツタ。遊廓ノ結果。書生ハ皆やメル。君モ歸レ。

他ノ工夫云フ。——「此社會ニハ夫々掟アリ。呑込^原ンデ置カナクツチや困ル」

「親分トハドシナ者カ」

「仕様がねえ奴ダ——。兄弟分モ居ル。ダカラ。金ナンザタマラネえ。歸ルガイ、

皆口々ニ歸レト云フ

所へ婆サンガ來テ飯ヲ食ヘト云フ。箸ヲ米へ掛ケ様トスルト飯ガスベル。飯ニツヤガナイ。南京米。壁土ヲカム様デ。一箸デ驚ロイタ。工夫ガ笑フ。銀米ハ御祭日。我慢シテ一杯。

夕暮近ク工夫ガ段々歸ル「カンテラ」ヲ提ゲテ泥ダラケ。又色々ナ事ヲ聞ク。嘲リ。其日ハ夫デ寐ル。晩ハツカレテ足ハ棒ノ様デアル。情ナイト思ヒナガラ寐ル。スルト身體ガ針ヲ刺ス様ニチク「チク」スル。眼ガサメル。カラダヘ手ヲヤルトザラ／＼スル。皮膚病カト思フ。光デ見ルゾロ／＼シテ居ル。カラダガカユク痛クナル。ツブスト青臭イ。

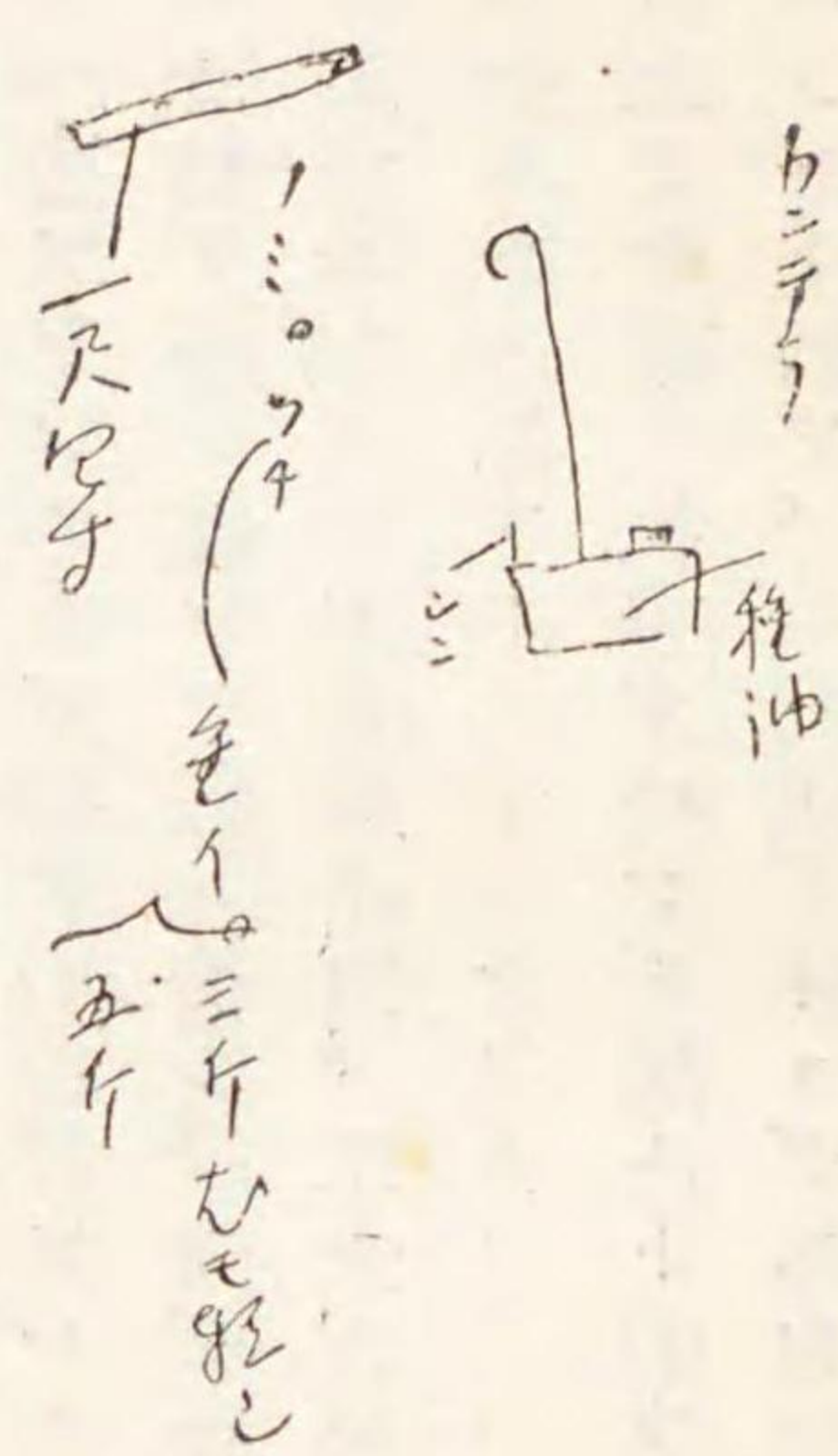
向ヲ見ルト柱ヘ布ヲツツテ人ガ寐テ居ル。ソレカラ起キタガ。下ハ騒イデ居ル。ノデイヤニナル。仕方ナシニ着物ヲ着テ起ツテ柱ニ倚ル。夫デモ足ヘ這上ル

夜ガ明ケタ。雨ガ降ル。四方共赤イ山。工夫ガ出テ行ク。笠。腰へ藁ヲツケテ三々五々行ク。自身モアンナニナルカト思フトイヤニナツタ。

下カラ工夫ガ上ツテ來ル親方ガ呼ンデ居ルト云フ。親方ノウチヘ行ク。是非居タイト云フカラ。穴ヲ見テカラニシロト云フ。「此儘デイ、デスカ」「イケナイ。着物ヲ持ツテ行ツテヤル」

飯場ニ歸ツテ居ルト親方ノ小供ガ着物ヲ持ツテ來タ。ジメジメシタ土ノツイタ着物ヲカシテ呉

レル。



案内ニツレラレテ行ク。長屋の窓カラ昨日のダト云フ。

シキへ這入ル。瀛車の隧道ニ電車ガ通フ。高五尺

第一見張所へ行ク。「カンテラ」の光デ。水ガジイ／＼ト落ちル。耳ヲ澄ストカン／＼ト行ク。

「茲ラハ地獄ノ三町目位ダト」工夫ガ云フ。少シ下リテ左へ周ルト巡査の交番へ出ル見張所。工

夫ガ待ツテガヤ／＼シテ居ル。見張所ニハ役人ガ三人居ル。六時ガ來ル。第一坑へ下ル。

這フ所。腰ノ方カラ這入ル所。愛宕の坂ノ様ナモノガイクツモアル。

此度ハ穴倉。アカリヲ用意シロ。先へ下リル。猿ノ様ニ下リル。

階子ハ眞直幅八寸位。階ノ間ハ八寸位。障ルトヌル／＼スル。ヘナ土ガツク。草鞋ノ土へ清水

ガ落ちル。

工夫ノ姿ガ遙カニ見えタノガ仕舞ニハ見エナクナツタ。種油ガジイト水デ消えカゝる。

ハンゴガ十五程ツナガル。ト休ム處ガアル。ソコニ工夫ガ待ツテ居ル。ソコヲ這フ様ニ先へ這

入ルト又穴ニナル

「下リラレルカ」

「下リマス」

「デハ」

ト又先へ行ク。斯ノ如キ者三四ニシテニ番坑ニツク。ソコハ廣イ。材木ニ腰ヲカケタ工夫ガ五

六人居た。是ハシチウデアツタ

「新米カ」

「又新規ダ」

腰ヲ掛ケテ見ルト「アテシコ」ノ便宜ナ事ガ見エル。(アテシコ 中デ腰ヲツク時ノ用意)

「何處ノ達磨……」

「アスコへハ新シイ玉ガ來タ

「アレヲ買ツタカ

「御前ハドコカラ來タ

「何シニ來タ。金ヲ儲ケル氣カ」

「ヨシンバ殘シテモ足尾ノ金ハ足尾へ戻ル」

「ナゼ」

「足尾ニハ神様ガ居ル」

「何デス」

「足尾の神様ハ達磨ダ」

「ダカラ歸レ」

夫カラ見廻リガ來ル。皆作業ヲスル。

「シチュノ説明」

二番坑ヲ下ル。必死ノ苦シミデ八番坑へ下ル。

ホリコガ銅ヲ箕ニ積ンデスノコヘナゲ込ム。

八番坑ハ水ガ腰キリアル。「ナレ、バ此所へクル」ト云フ。

上ル時ノ方ガ困ル。

下ルキハ身ガ前へ出ル。上ル時ハ身ガ後へ落ちル様ニナル。

七番へ出タラ呼吸ガ變ニナツテ。ホノホノ様ナイキガ出ル。「休メ」ト云フ

「自分ハナゼコ、デ働カナケレバナラヌカ」ト思フ「モシ人間ラシクシテ居レバコソ。必然ノ

結果デアル」。涙グム。

「ドウシタ。苦シイノカ」

「苦シイ」

「到底アシタハ作業モ出來マイ」

「毎日此所迄下ルノデスカ」

否 二番、三番、――

デハ大丈夫デス マギラス。足ノ勞レデス

ドコカラ來タ

東京カラ前橋迄、昨夜モ南京蟲

夫ハ氣の毒ダ。モツト休。己ハ遊ビニ行ツテくる

夫から一人で稍二十分許居ル。萬感^原唱集。

ヤガテ來テ

「ドウダ。氣持ハ直ツタカ」

「ソウカ。夫デヤノロク上ツテヤラウ」

矢張り工夫ノアカリガワカラナクナル。暗クテイヤニナル。一層手ヲ放シテ落ちテ死ンデ仕舞

フカト思フ。始メテ浮世ノ苦痛ヲ感ジタ。又思ヒ直シテ上ル。(日光ガ出タ。ドウセ死ヌナラ。

日光ガアル。コンナ蓄生^原ノ様ナ人間ノ所デト思ヒ直シテ猛進シタ

六番坑へ出ル。工夫ガ待ツテ居タ。アマリ遅イカラ死ンダカト思ツテモデ／＼シ「テ」居タ

「ドウシタ

「メマイガシテ^原櫛子の途中デ休ンデ居タ

「おれは驚ろいた。さがしに行くだれか誘つて一人では氣味が悪イカラ」

自分ハ決心ガアルカラ

「スグ上リマセウ」と云フ。工夫はケマンな顔をする。

「デハ上ラウ」

自分ハ夢中デアル。怖イ事モ何モナカツタ。無暗ニ上ル。

三番坑へ上ル。廣イ所デ休ム

工夫曰ク「アシタカラ此所デヤラセラレルダラウ」成程一番奇麗だ仕事ハシイ、ダラウト思ツタガドウセ廣カラウガ狭カラウガ構ハナイ。コンナ工夫ノ様ナ奴ニト

「スグ上がりマセウ」

「馬鹿ニ元氣グナ」ト妙な顔をする

無言ノ儘手ヲカケル

「イケネえ〜」

今度ハ無暗ニ早い。此度ハ少し廣イ所へ出たが工夫が見えぬ

工夫ガ怒タト見える。坑のなかをまごついて居たら。坑夫の仕事をして居る所へ出た。五十許ノホリ子が居た。聞かうと思つたら妙な顔をして居る。蒼ぶくれ。きく勇氣がなくなつた。こつちの坑夫のそばへ行つて腰を卸す（銅をつめた藁俵の上）

「何をしやるんだ」

びつくりして立ち上がる。坑夫が振り向いて來た。少し怖くなつた。

「手前は新規だな」

「ひでえ奴だ。よし〜己が送つてやるから待つてゐろ」

腰をかけて待つて居たらカン〜云はして烟草をのむから待てと云つて、自分の前でアグラを

かく。見ると尋常の顔である。ナツカンイ氣がする。人間の様である

「御前はどこだ。何しに來た。からだつきはすらりとして居る。どうして來た」
彼考へて云ふ。

「己達の云ふ事だが龜の甲より年の功だ——若いうちは皆失敗するもんだ。青年は情の時代だ。情に走る。だから察する。然し敢て咎めない。己は盛岡のもので中學へ這入つた。夫から二十三の時花柳の巷へ入る。容易ならん犯罪を犯してゐる。社會に容れられない。夫が爲め學問も成功も抛つた。自覺した時は遅かつた。其時考へた。甘んじて制裁の手に捕へられやうか。然し逃げ度から逃た。此足尾へ來たのは六年前だ。もう一年で消える。社會の制裁は消えるが罪惡は消えぬ。こゝへ來て目撃するに就て人情や何かをよく考へる。然し世の中は猶苦し「い」から辛抱してゐるうちついなれて仕舞つた。なれて見ると娑婆へ出る氣はない。自分の兄は福岡日報の主筆だ。——どんなものがどんな目的を持つて來ても目的がなくなつてなれて仕舞ふものだ。夫が君の爲に悲しむ所だ。だから東京へ出る。自分は社會の爲に悲しむのだ。こゝは墓所だ。葬る所だ。坑夫になれば埋つたのと同然だ。故に君を殺すに忍びないから親にあやまつても、獨立してもやれ、旅費がなければ出してやる。己は中村組ニ居る。金さんと云へば分ル。シキの外に送り出してやるから、あとで一返來い」

片斷

此男に説かれて落涙。自分がかく墮落しても人を救ふと云ふのがある。かう云ふ人があるのに何が故に自分が死ぬ事になつたのか
此に於て翻然志をひるがへす。親は氣強い事を云ふが死んだら裏面では嘸悲しむだらう。

そこで自分は飯場へ歸つた。先の案内者が長屋の前に立つてゐる。
「どうしたい。よく上れたな」

夫から飯場でキロリの傍で雑談の中で考へた。——坑夫自身がわるいのではない。わるいならばあんなやさし「い」心はあるまい。屹度社會の境遇の爲に犠牲になつたのだらう。非常に氣の毒だ。旅費杯を借りる譯に行くものか。自覺してかせいでゐるのは實につらいだらう。其金を使つて歸るのは面目ない。斷はらう」

三時の交代を待つ。其内親方から呼びにくる。親方云ふ

「出来るかい」

「出来ます」——此はさきの決心から來た。

然らば醫師の健康診断が入る。四時迄に。札をもらつてくる。

シキノ手前の長屋の二町程前ニ青い塗の病院がある。行つた。受付へ出す。受付の二十三四位な奴が余の顔を見る。

「御前かい」

「此所へ廻れ」

診察室へ入る。始めて椅子へ腰をかける。薬品の臭がする。

「これは薬だ。死に關係してゐる。自分は健康がわるくなつてゐる。屹度此病院デイやナ臭の

する薬を飲むだらう。此薬で癒ればいゝがどうも癒りさうもない。どうしても死ぬ。して見れば死にゝ來たのだ。情ない。然し今更……。とう／＼足尾の土になるのか。」

戸があく。靴の音がして前へ廻つて來た。

「御前が荒井か」

「ドツカラ來た。職業はなにか親のスネを嚙つてごろ／＼して——」

「ゴロツキカ」

「まあそんなものです」

「着物を脱げ」

呼吸を見る。鼻を抑へて。

今度は鼻からいきをさせる。

自分の手を鼻の下へあてゝ。

嘲弄的「駄目だ」

「駄目でせうか」

落膽もない。驚も悲もなかつた。「一體何です」「今かいてやる」

「きかんし炎かたる」

もう駄目だ肺病の下地だ。其時の心は平氣であつた。色々の事は自覺してゐるが平氣である飯場で親方へ出すと

「夫だから東京へ歸れ。旅費はやるから

「自分は決して歸らない。何でもいゝから使つてくれ
「夫は無理な事だ」

自分は悲しくなつて涙が出た。

「小使でも掃除夫でもいゝ」

「では考へてやるから待て」

飯場へ歸る。みんな雑談に耽る。胡坐をかいて考へてゐる。坑の中の坑夫の事を考へる。五時
頃雨を冒して金さんの所へ行く。小林組へ行く

「近^原さん誰か来たよ」
逢ふ。

朝の事に就て考を云ふ。「無斷で金をもらふ事はいや。どうしても足尾へとまる氣だ」

穴のあく程見た近さんは

「ではおれの云ふ事をきかないのか」

自分は醫師から……

死は目前だから、歸る事はしない

近さんは涙を流して「では仕方がない。自分は何も云はない。何でも働くがいゝ。休みの時は
時々遊びに來い。」

其足で笹又組の親方を尋ねたら

「丁度いゝ所がないが、氣の毒だから帳つけ」に備ふ。

帳つけは向で食つて湯に這入つて月に四圓也（飯場の帳つけ）

「それでいゝから」夫から飯場へ坐つた。夫から坑夫が大に丁寧になる。益獸的の感を起す。

獸類の中で死ぬかと思ふ。

毎日帳つけをして醫者へ通ふ。ポンピキが毎日小供などを連れて來る。

其内病氣が直る。飯場の飯が食へる様になる。直る確信につれて東京へ歸り度なる。（七月）

四圓の金が多少あまつたのを小供杯にやつた。が歸らうとなると小供に金をやり度なくなつた。

夫から金をためて歸つた。

○長屋八十人許圍爐裏二。二階。

蒲團二枚（三錢宛一枚）

飯代十四錢五厘（朝御汁一杯）

豆等一杯（二錢五厘）

日當三十五錢（ホリコ）

坑夫（請負）五六十錢

ヤマイチ（坑夫候補生）

シチウ（大工）

五分ハ親方ガトル。

長屋持ノ小供ハ十二三カラ「ヤマイチ」ニナル慾バカリデアル。

○妻を抵當に入れる。獸慾ノミ。

○病氣の時ハ半分ノ日當

○ジヤンボ。ハヤシ立テル。御經ヲ歌ヒナガラ供ニ立ツ。

○一日ニ一人位死ヌ。五六人ノ事モアル

○馳ケ出しは五六日 這入るものも五六人

○惣勢一萬人

○歸る時衆人ハ猜疑ト侮リの眼を以て送つた。草鞋錢をくれる。小供は物をやるとなつく。慾でなつく也。愛情にあらず。

○歸る時近さんの云ふ決して手紙を送るな。決して手紙を出さない。

斷片

——明治四十年、四十一年頃——

○結構

×人間の activity の普通の活動を陳腐なりとして、異常の活動を寫さんとするときには此異常の活動を possible にする situation が入用である。此 situation を作るのが結構の一ノ目的である。だから此目的の爲めの結構は自然を缺いても無理でも仕方がない。思ひ通りの situation ニナレバヨイ。(Merchant of Venice の Antonio が一度に多數の船を失ふが如きを云ふ)

×結構其ものが目的の場合がある。人間はまとめる事が好である。生存競争^原上の必要にせまられて、まとめつゝ進んで來た習慣は何事をも(生存競争に必要ななき事迄も)まとめたくなくなる。

自然は存外まとまらぬものである。だらしないものである。之をまとめたがるのが人情である。従つて此人情を満足させる時には不自然になる事がある。それでもまとめる方を好む場合がある。結構を目的にする場合にも(此故に)自然を標準にする事は出來ん。よく纏つたと云ふ事を標準にする。

片斷
×此場合に於ては孔明、正成の軍略を賞する如く結構をほめる。孔明や正成の軍略は自然では無い。自然を離るゝ尤も甚しき人工的のものである。あるにも拘はらず如何にもうまいと云つてほめる。結構も此態度から其 skill や ingenuity をほめる。自然と隔たれば隔たる程ほめる場合が

ある。

×従つてまとめる爲めには作中の人物の自由行動を束縛する事がある。多人數會合の相談の際に多人數を自由に働かしては決してまとまらない。まとめる爲めには壓制が必要な場合がある。無理でもまとめる場合がある。小説も其通りである。

×まとめる爲めには人事上一人の権力に自己の自由を委任する事が必要な時がある。従つて個人主義の世界には纏まりがつかない事が多い。個人主義に渴仰するとまとまらなくても仕方がないとあきらめる。まとまらないでも自由行動がいと云ふ氣になる。従つて、まとまらないもの事を見聽しても左程氣にかゝらない。

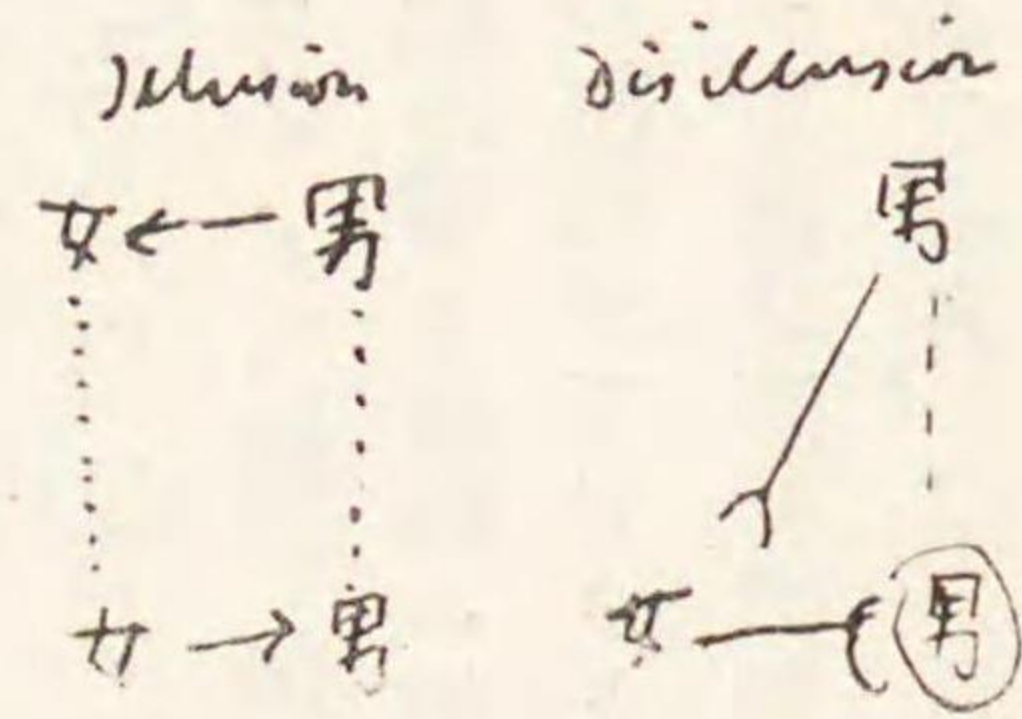
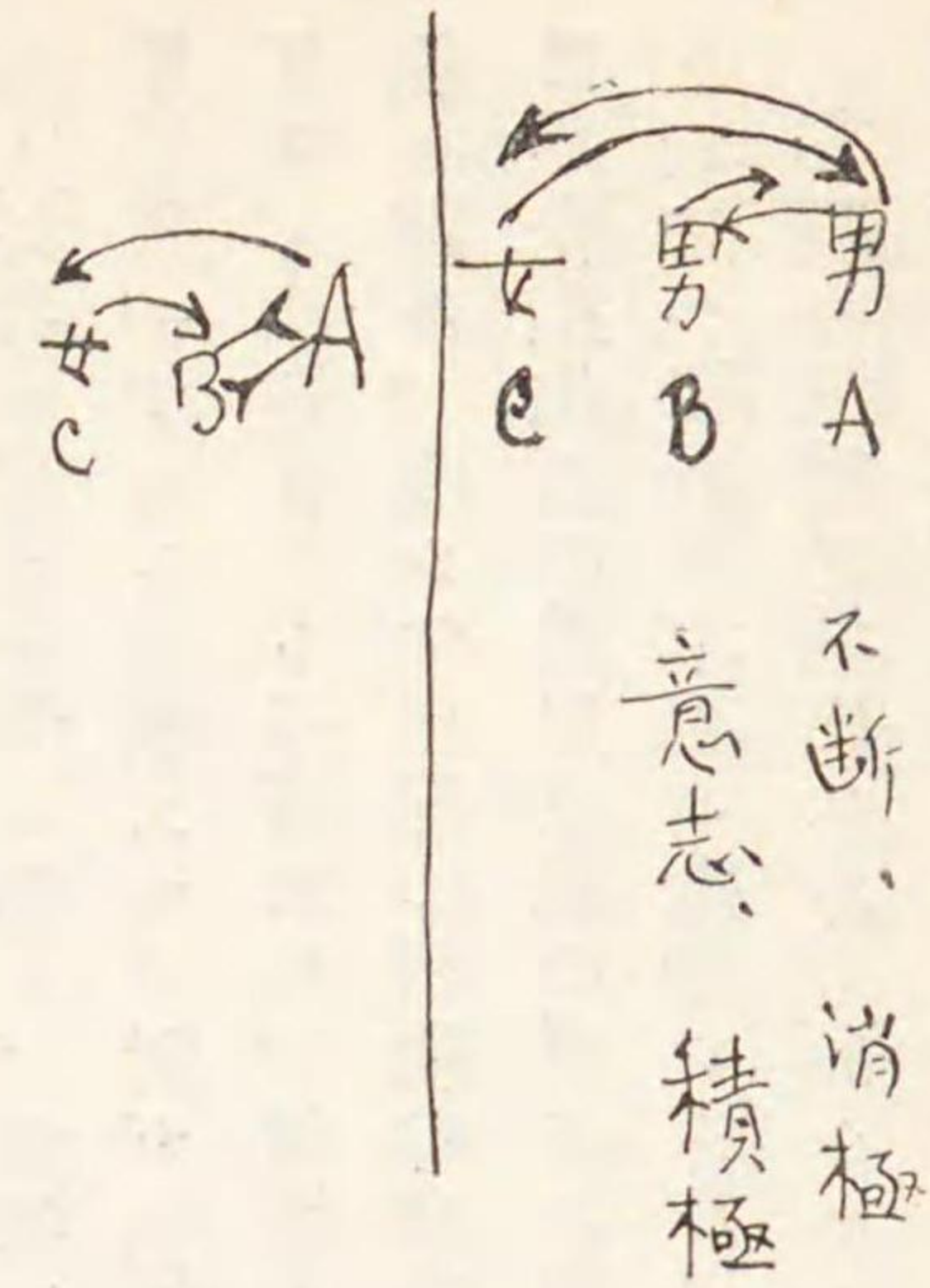
×此傾向が自然と小説にもあらはれる。乃ち讀者が小説に對して「まとまる」事を要求しなくなる。作家も無理にもまとめる事が必要でないと思ふ様になる。従つて結構はまとまらないでも作中の人物が其性格に應じて自由自然に働らく様にする。

×花其ものは小説の内容である。活花の方法は結構である。Arrangementが面白いのは結構其ものが面白いのである。此結構の爲めに花が引き立つのは結構を方便にした場合である。此花と他の花を配するのは結構の一である。その爲めに甲の花が乙の花に關係して互に美を發揮するとせば結構は方便である。甲は甲で面白く、乙は乙で面白ければ結構其物が面白いのである。甲はつまらないが乙を添へて始めて面白くなるのは結構……。甲も面白い、乙も面白いが並べると互に害するのは結構がまづい

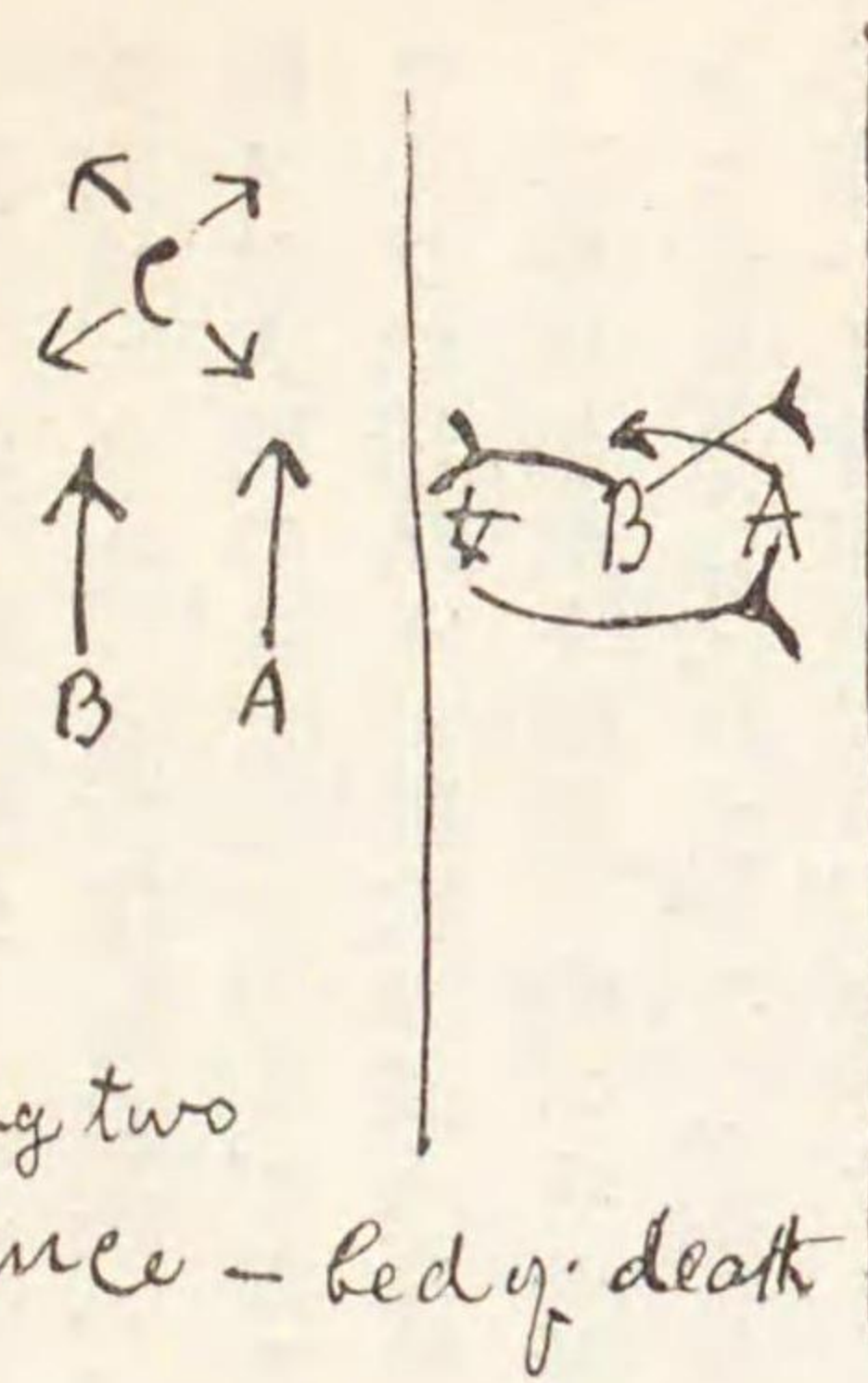
單獨の價値、Relationノ價値。照應、contrast 云々

Proportion。變化。unity。繁簡の對

のい助



片斷



nursing two

silence - bed of death

blood

station 1st

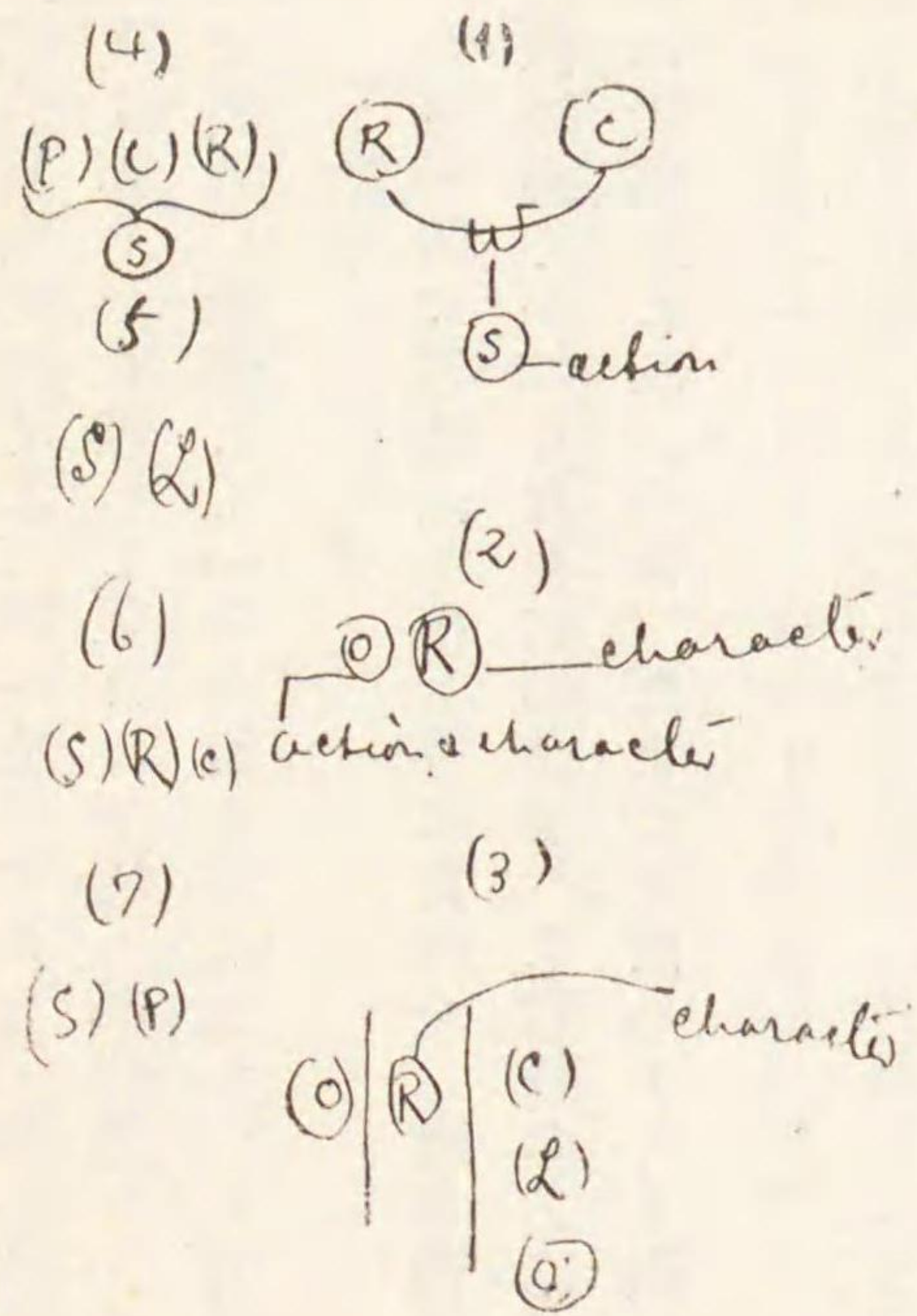
hypocritical woman

○ Great literature は tragic ダト云フ。或人其意味を説明して final ダカラト云フ。是は eternal ナ落着ト云フ義カモ知ラヌ (Hale ノ Dramatists of To-day ヲ見エ)。余思フニ tragedy ハ人ヲ眞面目ニスル。(是は誰モ異議ハアルマイ) 然シソレガ何故 great ニナルカ。眞面目ニナツタ時始メテ人間の moral being ガ活動スルカラデアアル。人ニカラカツタリ、人ヲイヂメタリシテ不埒ヲヤツテ恬然タル動物モ其人ガ惨死ヲ遂ゲルキニ始メテ悚然トシテ本來ノ我ニ歸ルカラデアアル。喜劇ガ忽然ト悲劇ニ變ズルハ此時デアアル。Life ノ positive side ヲ無暗ニ stretch シテ行クト急ニ negative side ニ歸ル。其時彼等は始メテ Life ニハ negative side ガアルカト氣ガツク。Life ハ唯一ノ目的デアアル。而シテ positive ノ方面ニ進ンデ種々ナル quality ヲ introduce スルノ結果ハ人々皆 absurdity ニ陥ル。彼等は Life ハ何ニ耽ツテモ、如何ナルコトヲシテモ absolutely ニ secure デアルト自覺スル。所ガ positive ノ方面ニ無暗ニ進行スルト彼等の第一目的タル life ノ bare existence ト矛盾スル。彼等ハ此矛盾ト當面ニ相見エタキ始メテ生活ノ第二意義ヨリ第一意義ニ歸ル。而シテ自己ノ行動の從來ハ輕佻デアツタト云フコト切實ニ自覺スル。如何トナレバ彼等ハ今迄生活ノ第二意義の爲メニ第一意義ヲ忘レテ居タカラデアアル。因果ト云ヒ天罰ト云ヒ應報ト云フハ皆此根本義ニ逢着シタキノ語デアアル。

喜劇ハ道德ヲ抽出スル。而シテ道德ハ life ノ根本義ヲ維持スル上ニ於テ absolutely ニ必要デアアル。故ニ喜劇ノ多クハ life ノ第二義ニ墮ツル者デアツテ、life ノ第一義ニ觸レル者ハ必ず道德問題ヲ含ンデ居ル。而シテ道德問題の尤モ深キモノ、表現ハ tragic デアル。tragedy ニ於テ始メテ此道德問題の重要ナルコトガ明瞭ニ分ツテケル。是ダカラ古來カラ悲劇ハ喜劇ヨリモ重要視セラ

ル、ノデアアル。(コンナ説ヲ述ベタ人ガアルカナイカ知ラヌ。然し是ハ眞理デアアル。何人モ打チ壞スコノ出來ヌ眞理デアアル)

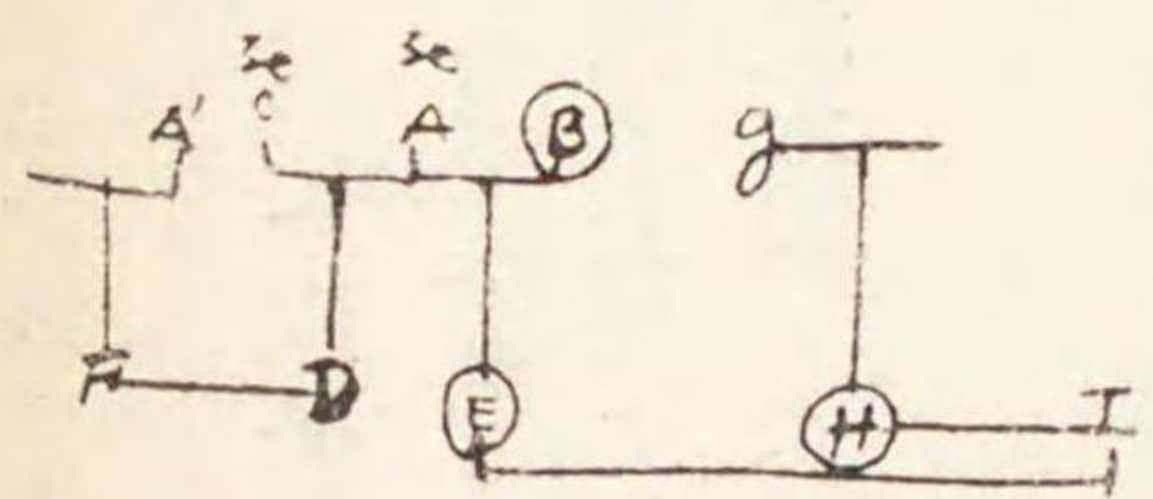
人間ガ尤モ痛切ニ人生ノ根本義ヲ覺ルノハ。今迄喜劇ダト心得テ面白半分ニ道德ヲ重ンゼズ無暗ニ進行シテ來タ事件ガ卒然トシテ tragic end ニ終ルキデアアル。其時人間は始メテ喜劇ヨリモ大切ナモノガアルト云フコト氣ガツク。道德ノ大切ナコト氣ガツク。面白半分ニ騒ギ立テタノハ根本義ト遠ザカツテ居タコト氣ガツク。此根本義ノ念ヲハツト思ヒ出ス爲メニハ悲劇デナクテハ出來ヌ。



○暴風のとき漁船が岸へ這入りソコネタ。遙かの沖に大きな波を控へテ見えたり隠れたりする。村のものは老若男女をつくして磯へ立つてゐる。腰へ綱をつけて海へ飛び込んで舟を引いてくるのである。夜は篝をたき盡して翌日の午後三四時迄かゝつたさうだ。此間老若とも一言も交へなかつたさうである。老若とも一椀の飯も食はなかつたさうである。(高須賀淳平が小田原から歸つての話)

○四十年ノ五月場所に常陸山が梅ヶ谷に負けた。勝負後双方の部屋の様子が新聞にあつた。梅ヶ谷の部屋は歡聲湧くが如くなるに引き易へて常陸の方は並んでゐる力士がみんな無言であつたさうだ。其中に小常陸と云ふのが、だまつてぼろ／＼と涙をこぼしたさうだ。

- 一 叡山。死、D、F、
- 二 保津川 童、女
- 三 E、I
- 四 F、G、H、
- 五 D、[ⓑ]
- 六 F、I、
- 七 D、E、
- 八 [ⓑ] D、F、



- 九 D、I、
- 十 I、
- 十一 G、^[5]
- 十二 F、[ⓑ]
- 十三 E Death
- 十四

○ Dialogue (character in) *The Academy* June 8, 1907.

Action + situation ノ爲メノ會話ト character ヲアラハス爲ノ會話トハ違フ。

○ Character ヲ dialogue ントアラハシ得ル人ハ——

Ibsen, Meredith, Pett Ridge, W. W. Jacobs.

○ アランセヌ人ハ

Pinero, Hardy, etc. Shaw

○ James ノ dialogue ヲ用ヒズシテ character ヲアラハシ得ル人ナリ

○ Oscar Wilde キ character ヲアラハスコガ出來ル。

片斷
The Woman of no Importance when Mrs. Allonby tells Lady Hunstanton that she is going to look at the stars.

“ You will find a great many, dear, a great many ! ”
That is a perfect specimen in dialogue.

○修飾ナクシテ Effect アル句。

(1) 句自身ガ或ル sense ニ於テ bedeutungsvoll ナル時、即チ内容ガ one way or other ニ rich ナル時。

修飾ノ必要ナクシテ修飾以上ノ効能アリ

(2) Law of transference ニ depend ス。前後ノ關係カラシテ眞率ナル一句半句モ必然ノ勢大變ナ效果ヲ生ズ。此場合ニ於テハ此句ヲ切り離セバ一文ノ價ナシ。

(此 Law ヲ研究スルハ文學ノ dynamics ノ一部分ナリ)

之ヲ extend スレバ一句ノ場合ノミナラズ one scene, one action 皆前後ノ關係ヨリ非常ノ importance ヲナス。然シ切り放セズ平凡トナル。

○以上ノ意味ナクシテ effective ナラントスルキ普通ノ修辭ガ必要トナル。

○此故ニ Art ハ三種トナル (1) ornamentalisation (2) materialisation (3) juxtaposition
○三ノ關係ヲ極ムレバ一トナル。只主眼ガ違フ。第一義トスル所ガ違フ。

○第一ヲ formula ニ deduce スレバ formula 又ハ formula トナル

○第二ヲ formula ニ deduce スレバ formula 又ハ formula トナル

○第三ヲ formula ニ deduce スレバ formula 又ハ formula トナスヲ妨ゲズ

○故ニ artless ナル literature ヲ主張スル人ハ第一ノ意味ニ art ヲ狭メタル人ノ言ナリ

○第三 Juxtaposition ノ art

- a causal juxtaposition
- b associative juxtaposition
- c proportional juxtaposition
- d culminating juxtaposition
- e circumscribing juxtaposition
- f harmonious juxtaposition
- g contrasting juxtaposition
- h juxtaposition satisfying will (?)
etc.

○反動。(1) 支那詩。(2) 十九世紀ノ nature。(3) Naturalism (4) 自分ニナイ物

○ Arrangement ヨリ起ル interest. *La Faustin, Rudin*

○ 分化作用 *La Faustin Rudin*

○ Brunetière 曰ク

× Romanticism—observation, ego, lyricism, realisation of beauty, choice of subject, "soulstate."

× Naturalism — representation of life, no choice, scientific, objectivity.

○ 漱石曰ク

× 吾ト物 此二個ノ separate existence ヲ假定ス。

○ スルト文藝ハ (1) representation of 物

(2) representation, of 吾

トナル。然シ(1)モ(2)モ represent セラレルモノト represent スルモノトガナケレバナラヌ。従ツテ(1)ハ吾對物トナリ(2)ハ物對吾トナル。引キクルメテ云ヘバ吾對物トナル。文藝ノ流派ハ此對ノ一字ヲ研究スレバ足ルコトナル。詳言スレバ representation ノ subject ガ represent セラルノ object (吾ト物トヲ含ム)ニ向フ態度ヲ決スルコトガ出來ル。此態度ハ absolutely ニ一ナレバ文藝ニ流派ヲ生ズルコトアリ得ベカラズ。而シテ此態度ハドノ位ニワカレ得ルカヲ斷ジ得レバ文藝ノ流派ハ最初ヨリ豫想出來ル。之ヲキメルノハ矢張陳腐ナ方法ニヨル。人間ノ Faculty ノ大別カラシテ此大別サレタ Faculty ノ predominate シタ態度デアル

(1) intellectual attitude

(2) emotional attitude

(3) volitional attitude

(3)ノ attitude ハ representation ニ關係少ナシ。故ニ問題ニナラズ
殘ルモノハ(1)ト(2)ナリ

(1)ノ attitude ハ represent スレバ自他ノ truth ヲ represent シ若クハ發揮スル従ツテ scientific ナ attitude ナ文藝トナル

(2)ノ attitude ハ represent シ若クハ發揮スレバ poetical ナ attitude ヨリ成ル文藝トナル。

従ツテ

(1)ハ教ヘル。Lifeノ真相ハコンナモノデアルト云フコトヲ教ヘル

従ツテ美醜善惡ノ區別ハナイ。只有ノ儘ヲカケバヨイ

従ツテ Naturalism ニナル。choice ヲ許サヌ。choice ヲスレバ不公平ニナル Lifeノ真相ヲ教ヘラレナクナル。

(2)ハ教ヘル。美ヲ味ヘト教ヘル。善ニ與セヨト教ヘル。壯ヲ行ヘト教ヘル。作家ノ emotion (善惡美醜)ヲ寫スコトガ主トナル。作家ガ物ヲ見テ其物カラ受ケタ emotion ヲ寫ス。物其物ヲ represent スルヨリモ物カラ生ズル sentiment ヲ寫ス。従ツテ subjective デアル。Life 其物ノ representation ヲ主トスルヨリモ Life カラ得タ emotion 即チ作家ニヨツテ emotionalise サレタ世界ヲ寫ス。故ニ partial デアル。之ヲ romantic ト云フ
(此二者ハカウ截然トハ區別出來ヌ只大體ノ傾向ヲ云フ)

×ダカラシテ Naturalism ハ只物ヲ冷靜ニ寫シテ其冷靜ニ寫サレタ事物カラシテ讀者ガ勝手ナ emotion ヲ得ル。 Romanticism ハ author ノ人格ニヨリテ emotion ヲ附加シテ讀者ニ author 一流ノ emotion ヲ強ヒル。

×此點カラシテ Naturalism ハ性慾デモ肉慾デモ人生ノ眞ノ一部デアアルカラシテ其眞ヲ represent スルト云フ了見デカク。ダカラ眞ノ爲メニカクノデ眞「デアアル」カラシテ其眞デアアルガ爲メニ成程ト云フ emotion ヲ讀者ニ起サセレバヨイ。肉慾其物ニ興味ヲ以テ之ヲ挑撥シタリ又ハ排斥スル様ナ emotion ヲ示シテカクベキ筈ノモノデハナイ。褒貶以外ニ超然トシテカクベキモノデアアル。自ラ批評的ノ態度デカクベキ筈ノモノデハナイ。サウデナイト矛盾ニナル。肉慾杯ハ別ニ排斥スル必要モナケレバ獎勵スルニモ足ランモノデアアルカラシテ今日事新ラシク之ニ emotion ヲ以テ讀者ニ強ヒルノハ陳腐デアアルト共ニ餘計ナ御世話デアアル。

(田山花袋氏ノ蒲團ハ此點ニ於テ自然派ノ態度ニカナツテ居ル)

アレヲ見テ成程コンナ人ガ居ルカナト事實ヲ教ハル丈デアノ主人公ノ眞似ヲシテ布蒲^原ヲカイデ見様ト云フ心持ニナル人ハ一人モナイ

×自然派ハ只 Life ハコンナ者デアアルト云フ丈デ Life ハカウシナケレバナランカウシタノガイ、ト云フ批評ハ含ンデ居ラン。 Information ヲ供給スル丈デアアル。從ツテ美醜善惡ハ擇バナイ。醫者や化學者ガ(クソ)ヲ取り扱フ了見デアルノミデアアル。夫ハ只眞ヲ寫スト云フ emotion ニ支配サレルカラデアアル。然シ糞ヲ奇麗ダト emotionalise スレバスグ過ヲ犯ス^原ニナル。

○自然派ハ Life ハコンナモノダト教ヘル。コンナモノトハドンナ者デアアルカト人ニキカレタ片又ハ自分デ聞イタ片作物全體ヲ繰返サ「ナ」クテハ返事ガ出來ヌノハ不便デアアル。從ツテ自然ノ傾向トシテ彼等も一句ニ reduce スル「ノ」出來ル様ナ Life ヲ represent スル。

サウスルト作物ノ下ニ意味ガ出來テクル。是ガ寫生文ト自然派トノ差ニナル。兩方共 Objective デアル。 faithful description of actual life デアル。ケレ^レ寫生文ハ讀ンデ一個ノ proposition ヲ得ナイ「^レガ多イ。 Life ヲ represent シタニモ拘ハラズ Life ノ眞相ヲ一句ニ握ツタ様ナ心持ガシナイ。

“True to life” 此點ニ於テ兩者間ニ何ノ差異ガアルモノデハナイ。

一句ニ人生ヲ示サウトスルカラシテ Life ヲ represent スル様ナ construction ヲ作ラヌ^原バナラス。ドコニアル Life デモ其儘ニ句ニナルト云フ譯ニハ行カヌ。從ツテ自然派ノ作物ハ Life ノ true representation デナクテハナラヌニモ關セズ斧鑿ノ痕ヲ免カレヌ。之ハ意味ヲ深クスル爲メテ趣向スルカラデアアル。寫生文ハ人生ノ一句ニマトマラヌ代リニ眞ノ representation デアル genuine デアル

器械的デアアルト云へバ双方器械的デナケレバナラヌ筈デアアル。只讀ンダ人ガ此器械的ナ敘述カラ眞デアアルト云フ emotion ヲ得ル丈デアアル。ソコガ science ト違フ丈デアアル。作家ハ讀者ニ emotion ヲ與ヘルノデハナイ。 description ヲ與ヘルノデアアル。 Nature 其儘ヲ器械的ニ與ヘルノデアアル。 emotion ハ讀者ノ方デ勝手ニ製造スルノデアアル。然モ其 emotion ハ眞ニ對スル emotion デナクテハナラス。

虚子ハヨク(オチンコ)トカ(尻)トカ云フ。丁度自然派ガ性慾トカ何トカ云フノト同ジ態度デア
ル。毫モ差支ナイ。何モ之ヲ獎勵スル意味デハナイ

アル意味ノアル作物ヲ作ラウトシテ散漫ニナツテマトマラヌノガアル。マトマツテモ意味ガ一
句ノ言語デ現ハセヌノガアル。之ヲ神祕派ト云フ

○小説デハ characterisation ヲ必要トスル。アル人ハ之ガ essence ト迄思フ。之ニ成功スレバド
ンナコニナル。——life-like ダト云フ活動シテ居ルト云フ。——猶之ヲ研究スルト consistent ト
云フコニナル矛盾ガナイト云フコニナル言ハミ纏マリ易イ character ト云フコニナル。A, B, C,
ノ symbol デ代表ノ出來ル character ト云フコニナル。丁度一篇ニ意味ガアツテ此意味ガ一句ニ
ツミメ得ルコヲ喜ブ如ク。character ニモ特長ガアツテ此特長ガ貫ヌク爲メ最後ニ一句ニツミメ
得ル様ナ character ヲカキ終セタ者ガ成功シタト云ハレテ居ル。

然シ此意味デ成功シタ者ハ個人ノ whole character ヲ描イタ者デハナイ(少ナクトモ萬ノウチ
九千九百九十九迄ハ)。個人ノ whole character ノウチアル traits (作家ニ都合ノヨイ)ヲ抽出シ
テ、此抽出シタ者バカリヲ貫ヌイテ自分ニ都合ノイ、character ヲ create スル。ノダカラ nature
ノ law ニ従ツテ create シタモノデナクシテ小説ノ世界ニ便宜ナ爲メニ nature ノ law ヲ violate
シテ create シタ者デア
ル

普通ノ場合ニ於テ特^原 traits ガ個人ノ生涯ヲ貫ヌイテ居ルト云フコハ事實デア
ル。然シ此

traits 丈デ人物ハ出來テ居ランコトモ事實デア
ル。ノミカ多クノ場合ニ於テハ此 traits ニ反對矛盾
スル様ナ Phases ヲ澤山具ヘテ居ルノガ事實デア
ル故ニ Valet has no hero ト云フ語ガアル。人
事ニハ極メテ冷淡デ貫イテ居ルガ身體ニ關スル
ト極メテ神經質ナモノガアル。family ニハ無愛
想デ朋友ニハ町重ナ人ガアル。アル物ニ對シテ
ハ吝嗇デア
ルガ、アル物ニハ非常ニ liberal デ
アル。コンナ例ハ澤山アルカラシテ矛盾シタ方
ガ自然ノ character デ、セヌ方ガ小説ノ作ツタ
character デアル。

ソコデ小説家デモ此點ニ着眼シタモノハ矛盾ノ
性行ヲカキ出シタ。アル場合ニハ善、アル場合
ニハ善デナイ人ト云フ様ナモノヲカ
イタ。サウシテ讀者モ之ヲ承知スル様ニナツ
タ。——然シ之
ハ只ニ一本調子ヲ去ルコト一歩ト云フ程度ニ
過ギン。——即チ明カニ矛盾セル性行ヲ並ベ
テコトサラニ人ノ注意ヲ聚メテ判然トシタ
contrast デ讀者ニオヤト云ハセル。

然シ是ハ character delineation ノ observation
カラ云ツテモ execution カラ云ツテモ未ダ幼
稚ナ者デア
ル。自然ノ character ハ單ニ一ノ contrast
デ全部ヲ描出サル、程ニ單調ナモノデハ
ナイ

ソコデ尤モ accurate ナ observer 若クハ
executor ガ尤モ truthfully 〃 character ヲ
(whole side 勿論)カ、ウトスルト云フ迄モナク
今迄ヨリモ遙カニ different phases ガ出
テ來ルニ違ナイ。サウシテ phases ガ
different デアルガ故ニ五々ノ phases ノ間
ニ consistency ガナイ様ニ見ユル。一ノ
矛盾位デハ「ナク」several inconsistencies
ガ出テ來ル様ニナル。従ツテヤリロガ
subtle デアレバアル程 whole side ガ寫サ
レ、バ寫サレル程マトマリノツカヌ
character ニナリ易イ。

一言ニシテ蔽フコノ出來ナイ character ニナル。記憶原ニ不便ナ character ニナル。A, B, Cノ symbolヲ現ハシ難キ character ニナル。

大變下手ニ描イタ様ニ思ハレル。而シテ其實ハ尤モ true ナ character ニナル。尤モ發達シタ delineation ニナル。

例ヘバ從來ノ character ハヨク風邪ヲ引ク人ガアルト。風邪ヲ引イタ時丈ヲヨツテ書ク。ダカラ風邪ヲヒク人ト一言ニマトメラレル。其次ハ風邪ヲヒイタ時ト直ツタ時ヲ contrast ニカク。前ヨリハ複雑デ前ヨリハ true デアル。然シ whole side ハ無論盡スコハ出來ぬ。風邪ヲヒイタ時ト、丈夫ナ時ト、中間トヲカイテ始メテ完イモノガ出來ル然シ。サウカクトマトマリガナクナル。散漫ナ者ニナル要領ヲ得ナクナル。然シ true ニナル。

Character ハ風邪ヨリモ遙カニ複雑デアル。而シテ物ニ遇ヒコニ逢ツテ reveal セラレル phases ハ決シテ consist デハナイ。例ヘバ A ナル character ノ第一ノ action ヲ A' トスルト A' カラシテ A², A³, A⁴, ガ推セル様ナモノデハナイ。否推セヌ場合ノ方ガ多イ。此推セル場合丈ヲカケバ whole side ハ出テ來ナイ。repetition ニナル repetition ヲカイテ whole character デアルカノ如クニ思ヒ又思ハセテ居タノガ今迄ノ小説デアル又今後ノ小説デアル。repetition デハナイガ A, A'', A''' ト causal relation ガアツテシカモ此 causal relation ガ相互ノ内容ニ密接ナ類似ヲ示スルハ大抵ノ場合ニ evolution ニナル、然シ evolution ノ場合デ「ハ」A、ガ本位デアツテ他「ノ」A'', A''' ン A' ニ depend シテ起ル者デアルカラシテ whole character ノウチノ A' ナル traits ノ causal relation ニテ reveal スル different phases ニ過ギン。從ツテ whole side デハナイ。モン

whole side ヲカノウトスルト different phases ガ支離滅裂ニナル(所謂)又ハ朦朧ニナル又ハ神祕ニナル。

寫生文ハ (character デハナイガ) 事件ノ whole side ヲ寫サウトスル從ツテトリトメガツカナイ、同ジ事デアル。

Hamlet ノ character ハ面白イ氣狂ダカ正氣ダカ意志ガ強イノダカ弱イノダカ分ラナイ

▽ (1) (2) (3)

α β
A—struggle—sacrifice

between

(1)

α β

B—struggle—natural satisfaction
between

} A v. B

(1) (2) (3)

片断

△人—Culture—Nature—Culture

△人ハ forgive, 行爲ハ借ス所ナシ

△(a+b+c+d……)ヲAナルpersonニactス。Aナルpersonガ此actノseriesノ爲ニ一轉化ヲ來ス時、actセル人ハ始メテ我意ノ如クナルヲ得。一轉化ヲ來サミル時actセル人ノAニ對スル責任ハ益重クナル。此責任ヲ逃ル、爲メ(換言スレバAノ一轉化ヲbring aboutセンガ爲メ)Bハ(a+b+c……)ヲドコ迄モツミケテ行ク。ツミケテ行クガ爲メBノAニ對スル責任ハ益重クナル。自己ノ責任ヲ重クシツ、進行シテ最後ニ無責任ノ境ニ至ラントス。Bガカクシテ無責任ニ萬事ヲ結了シ得ルカ又ハ大責任ノ爲メニ困憊ノ死地ニ陥ルカハAノ性格ニdependス。此seriesト此解決ノ如何ト此evolutionハ大小説ヲ構成ス

▽(Supernatural+natural)joint effect—a sort of mysticism. The Master Builder {p. 39, When we dead awaken p. 99, Borkman p. 49. 例此外色々

△二對ヲカク一對ニハ以上ノmystic influenceノアルモノ一對ハ丸デナイモノ。サウシテ兩方ノcontrastヲ出ス。イツレガtruthナルカ又ハイツレガtruthニ近キカ。Poetryカproseカ。Actual worldヲgovernスルキノハpoets,カpractical menカ。

▽The Master Builder (Solness)ノold generationノnew generationニ取ツテ代ランコヲ恐ル。カ、ル人ハ常ニアルベシ。カ、ル人ヲカキコナシ得ル作家ハ青年ナルヲ得ズ

○Charactersノrelationニstartノrelationトevolutionノrelationトヲ區別ス。故ニA, Bナルcharactersノrelationハ α' (startノrel.) + β (evolved rel.)ノ二トナル。故ニrelationノcomplexityトハ

- (1) α ノ數ノ多キコヲ意味シ
 - (2) β ノsuccessive phasesノ數ノ多キコヲ意味シ
 - (3) Aナルsingle characterニ即シテ(1)ト(2)ガ出來ル場合
 - (4) AニモBニモ即セス漫然ト(1)ト(2)ガfulfilセラル、場合
- ソノ(3)ノcaseニハcomplexityガアルト同時ニunityガアル。常ニアル方向ニ向ツテinterestガaccelerateスル。(4)ノ場合ニハcomplexityヲ生ズレバ生ズル程unityヲ失フ。

○Complexityハシバラク論ゼズトシテHauptmannノWeaversハ(4)ノcaseニアテハマル故ニunityノ觀念少ナクシテ物足ラヌ心地ス。IbsenノBorkmanモ亦多少(4)ノcaseニアテハマル。(4)ニアテハマル丈ソレ丈物足ラヌ心地ス。The Master Builderハ(今讀ミカケテ居ル所迄p. 99)デハ(3)ニアテハマル故ニinterestガaccelerateシテunityヲkeepシテ居ル。然モ同時ニ α ノ多キ爲メニcomplexityノ感ヲ失ナハナイ。Ibsenハ α ヲ用キル手際ガウマイ。Master Builderニ就テ云ヘバ出ル人モ出ル人モ皆最初カラstartノrelationヲ(Master Builderニ對シテ)有シテ居ル。然モ其relationガ中々深い意味ノアル好奇心ヲ起ス、運命ヲ支配シサウナ從ツテ人ノ注意ヲ引クrelationデアル。サウシテ皆夫々チガツテ居ル。

重ナル α } Solness 對 Miss Wagnal^{sic}
 Solness 對 Mrs Solness
 Solness 對 Miss F

Solness 對 Brovik

斯様ニ start ノ relation ヲ single ナ Solness ニ結ビツケテサウシテ其 relation ニ變化ヲツケル此 start ノ relation ノ variety ト meaning ガウマク出來レバ drama デモ小説デモ過半ハ成立シタ者デアアル。アトハ只自然ニ follow スレバヨイ。此 creation ガ眞ノ creation デアル。

此 start ノ relation ヲ二様ニ分ツ。一ハ過去ノ general state 及ビ condition カラ follow スル漫然タル relation。一ハ particular event 又 occasion ガ chief cause ニナツテ出テ來タ relation。此二者ノウチ general ノ方ヲ用キルト interest ハ少ナクナル。Particular ノ方ヲ用キルト interest ガ大キクナル keen ニナル。此 particular ナル cause ノ説明ガ知リタイカラデアアル。知リタイノガモトニナルノダカラ general デモ説明ガ求メタイ Look Back シテ何カアルナ。今ニ分ルグラウト云フ氣ヲ起ス様ニ書キ出セバ其功力ハ particular ニ近クナル。Ibsen ハ此點ニ於テ artist デアル。

△A ガ B ヲ壓服シテ地位ヲ得。地位ヲ得タル後 B ノ子ガ又已ヲ壓服シテワガ地位ヲ奪ハンコヲ恐ル。是封建時代ノ復讐ノ condition ナリ。之ヲ二十世紀ニ翻譯セバ如何

△A ノ B、C、D、E、F……ニ對スル行爲働作ハ normal ナリ獨リ N ニ對スルハ abnormal トナル。其理由及ビ結果如何。

△A ノ他ニ對スル行爲ハ normal ナリ獨アル A ナル subject ニ關シテ abnormal ナリ其理由及ビ結果如何

△B、C、D、F……(ノ數多ノ人)ノ他ニ對スル行爲ハ normal ナリ獨リ A ナル格段ナ人ニ對スル行爲ハ abnormal ナリ、其理由及ビ結果如何。

以上三種類ハ氣狂トモ氣狂デナイトモ云ヒ得ベシ而シテ小説ニ仕組ンデ尤モ興味アルモノナリ B、C、D、F……ノ abnormal ナ行爲ヨリ A ノ abnormal ナ行爲ヲ生ジタル時ノ結果如何。

△巨萬ノ財ヲ擁シテ心配シテ居ル人

△絶世ノ美人ヲ娶ツテ心配シテ居ル人

△ Love ノ specification—sensuous, sensual, artistic, philosophical, material, interested……

△ Bored サレタル夫婦

△ Love, hatred, indifference ノ mixture. Single person ニ對スル

△ A ナル男ト B ナル女ノ past relation

× Degradation ヲ寫ス。

(1) 昔ハ degradation ナカリシト云フ supposition

Suffering, pain etc. ガ比較的少ナカリシ。人々アル level 以上ニ生活難ヲ越えたる事。

(2) observation 微弱ナリシ爲メ昔ハ之ヲ discriminate スル能ハザルカノ supposition

(3) beauty, sublime, good ニ飽キテ、食傷ノ結果、新シキ者ヲ discover セントシタレバ澤

山キタイナ者ガアツター

(4) 今ノ世ハ昔ヨリ degradation ガ殖エタト云フ。殖エタ結果 conspicuous ナリ。誰ノ目ニモツク

(5) 之ニ伴ツテ degradation ヲ耻ト思ハズ。平氣ニカクニ至ル。天下コゾツテ有夫姦ヲスレバ此 truth ハ open secret ニテスコシモ耻ニナラズ。一夫一婦ノ制ハ告朔ノ餼羊トナル。モーパサン

Volition { Intellectual (Internal)
 { resolution (final motive)
 { decision (selective)
 { Impulsive

conf. p. 211. Wundt

Regressive development { Impulsive
 { Automatic
 { Reflex

○意識界ニマラハルノ Idea ノ feeling ノ遲延 p. 237.
○ active apperception why oppression

passive apperception p. 238.

○新聞小説ノ普通ノ小説ト異ナル所 Wundt 137 ヲ参考

Sensation simple feeling

Ideas { Intensive composite feeling
 { spacial
 { temporal Emotion

Association

Assimilation

Complication

Successive association

Memory

Recognition
Cognition

Simple apperceptive functions relating and comparing
 { relation itself comparison itself
 { quality

intensity
clearness

Complex apperceptive functions }
 Synthesis—aggregate idea
 Imagination— }
 perceptive
 combining
 Analysis—Understanding—Judgment }
 inductive
 deductive
 Successive Psychoses \ change \ rate. James Vol. I. 243—Resting places, transitive parts.
 低徊趣味トノ關係

Ideal \ 意味 ? means end
 Means and end—斬ル。 刀。 殺

Naturalism \ Romanticism \ 回觀 Caroline Free will
 Truth \ injury 馬琴 Determinism
 Truth \ neglect \ 殊例 *Tales of Two Cities*. unexpected inheritance, happy marriage, etc.
 Truth \ Sentiment \ coalescence \ 場合 tragedy.
 Conclusion James Vol. I. p. 260.

Impression \ objective truth }
 space
 light }
 atmosphere } \ neglect \ 殊
 profile \ false 如何トナレバ眼ガ一ツシカナイ

Self \ objective \ ニカク意味
 可愛イ
 もし objective \ ニ云ナラ }
 氣ノ毒ナ }
 面白イ } 皆眼中ニナイ

Personal \ measurement \ ヲ狂ハス
 James 328 邊 consciousness of self.

○甲、去る所より手紙にて乙ニ送金ヲ頼ム。甲場所ヲ移シ、今度ハ電報ニテ送金ヲ頼ム。手紙ヨリ電報ガ先ヘツク。電報ニハ宿所ナシ。乙金ヲ送ル能ハズ(爲替ハ留置ナキ故)。即チ局待ニテ送金送ル宿所シラセヨト書イテヤル。然ル所其日ノ午後手紙來リ(自分ハ人ヲ尋ネル爲メ是カラドコソコヘ行ク。金ハドコソコノ何某宛ニテ送ツテクレ)トアル。乙一文ナシ。金策ニ手間下リ、夜

ニナツテ電報ヲ出サントスルニ電報爲替ハ四時迄故間ニ合ハズ。即チ明朝早クセントス。其夜大雪。電信悉ク不通トナル。

○信洲^原へ行く旅費ヲクレト云フ。旅費ヲヤル。スルト信洲^原へ行カズ。今度ハ東京ヲ出ルト云フ。デハ出ロト云フ。出ズ。次ニ學校へ行キタイカラ東修月謝ヲ出シテ呉レト云フ。東修月謝ヲヤル。學校ノ入學試験ナシトテ行カズ。次ニ女ノ決心ガ聞キタイカラ聞イテ呉レト云フ。次ニハ漁夫ニナラウト云フ。——矛盾。矛盾ノ解釋 打算カ發作カ。解釋ヨリ生ズル誤解。

○The Lady from the Sea. 約束ノnothing。 freedomノchoiceナラザルベカラズト。之ヲ translate スレバ dutyハ重^原ズベシ natureノ desireハ満足スベシト云フ意味トナル。

○Rosmersholm. 夫婦アリ。アル女此男ノ emancipationノ爲ニハ此女房デハ駄目ト思フ。自分ガ適當ナ細君ト思フ。夫デアル意思ヲ決行シテ其結果女房ハ入水スル。アトカラ男ト女ハ添ハレズシテ情死スル。

○萬事ヲ勝負ト見ル人。勝負ヲ忘ル、人

○Loveニ抵抗スル人。despiseスル人。stamp outスル人。

○Unconscious hypocrite

○Love of the Dumb and Deaf

Literature of idea

—Ibsen

—Regina (partly)

—Thais

Necessity or uselessness of 'isms'

Politician—Theory of opposite poles

Theory of taking one aback

Theory of giving one unexpected surprise

× Theory of reversed encounter

× Theory of parallelism

× Theory of divergency and convergency

× Theory of acceleration { positive
negative

× Theory of rhetorical explosion

× Theory of psychic nullification

○ Dream

投ゲル物。 moss covered stone. 鰻トリ、鏡、蛙、榎 入水(利那)、Excavation.

鯉、髭、神殿、豚、beggar. 鼓、"After you" の two extreme cases.

おちらばの月

〃 の物

〃 と吹く風に

鼻が動ク

oblonoff

釣鐘ト撞木

○ 某氏葬式ハ立派ナモノデシタラウナア

○ Woman へ art { in creating artificial situations of her own.

in creating unnatural situations of her lover.

× Her motive ; purely egoistic love, no sense of justice. professes herself a devout Christian. says everything is God's will, and half believes it. mixes up her will and God's will.

× Her success.

× Her exposure.

× Her downfall.

○ Newspaper へ back へ whisper

○ Lover へ left へ gloves へ fumble へ

○ She opened her long cloak a little, with white lining and showed her well proportioned figure. (此英語曲分ハナリ)

○ "Dearest, shall we forgive each other everything, everything, everything? Even what you do not know about me, and what I do not know about you."

○ The lover ; first simple ; gradual development towards complexity ; gratification, dissatisfaction, secret hatred—murder?

Thinks in the end love is not freedom. mere freedom is not worth having. his superman philosophy

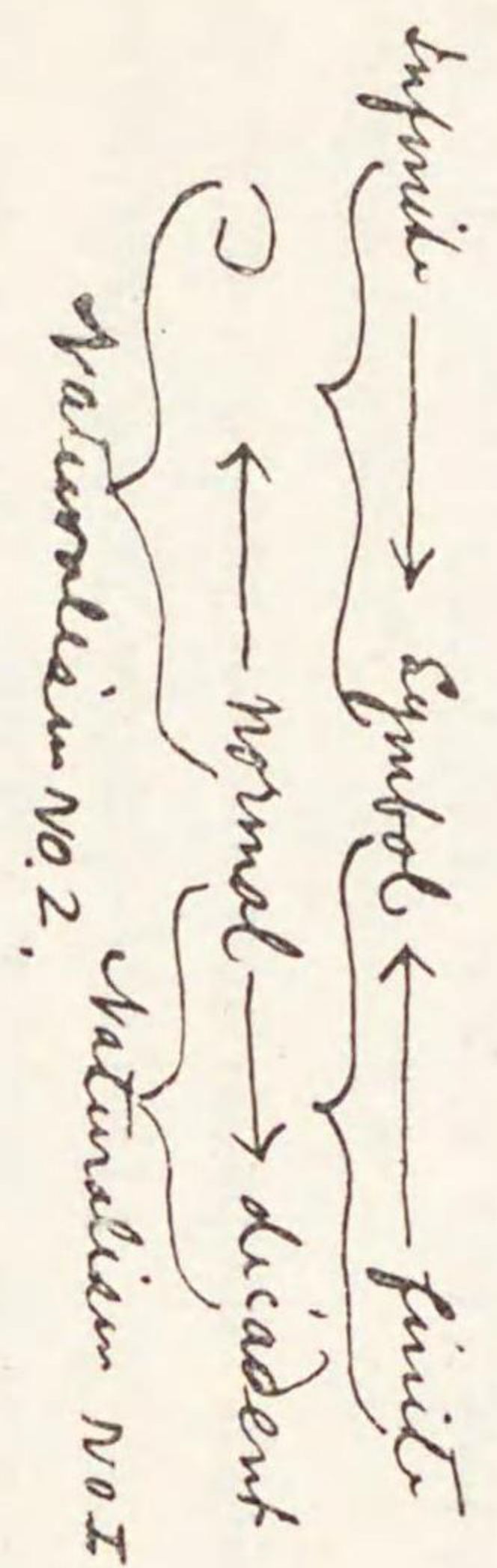
○ The wife, pale sickly, still gentle and lovable

○ The lonely man. The lover suspects the woman's art. Comes to the man, asks his advice who tells him suspicion is the end of love. The man returns to the woman who tells him the same thing.

{ simplicity—wisdom
honesty —degradation

Altruism
Egoism

×夫婦、夫ノ父ノ死、妻 respond セズ } loss of sympathy
妻ノ母ノ死、夫 respond セズ }



×外出。青ニ心ヲ奪ハレテ歸ル。家人突然赤ヲ説ク。

1、青本位ノ世界ニ立ツテ赤本位ノ者ヲ憐ム

2、" " ヨリ " " ニ移ル struggle

3、" " " " 時ノ不安ト regret etc

× Blood is thicker than water?

a = blood
b = water

aノ災難ヲ心痛スル際、b來ツテ其利益ヲ説ク。

1、aニ對スル affection || bヲ憎ム。

2、aニ對スル conscience || bニ從ハズ。

3、我ニ對スル affection || bヲ愛ス。

4、我ニ對スル conscience || bニ從フ。

5、bニ對スル affection || bヲ愛ス

6、bニ對スル conscience || bニ從フ

a 本位ノ解決

我本位ノ解決

b 本位ノ解決

× Peter ノ父アリ Alexis ノ子アリ、解決ハ幾通リアルカ? 答。

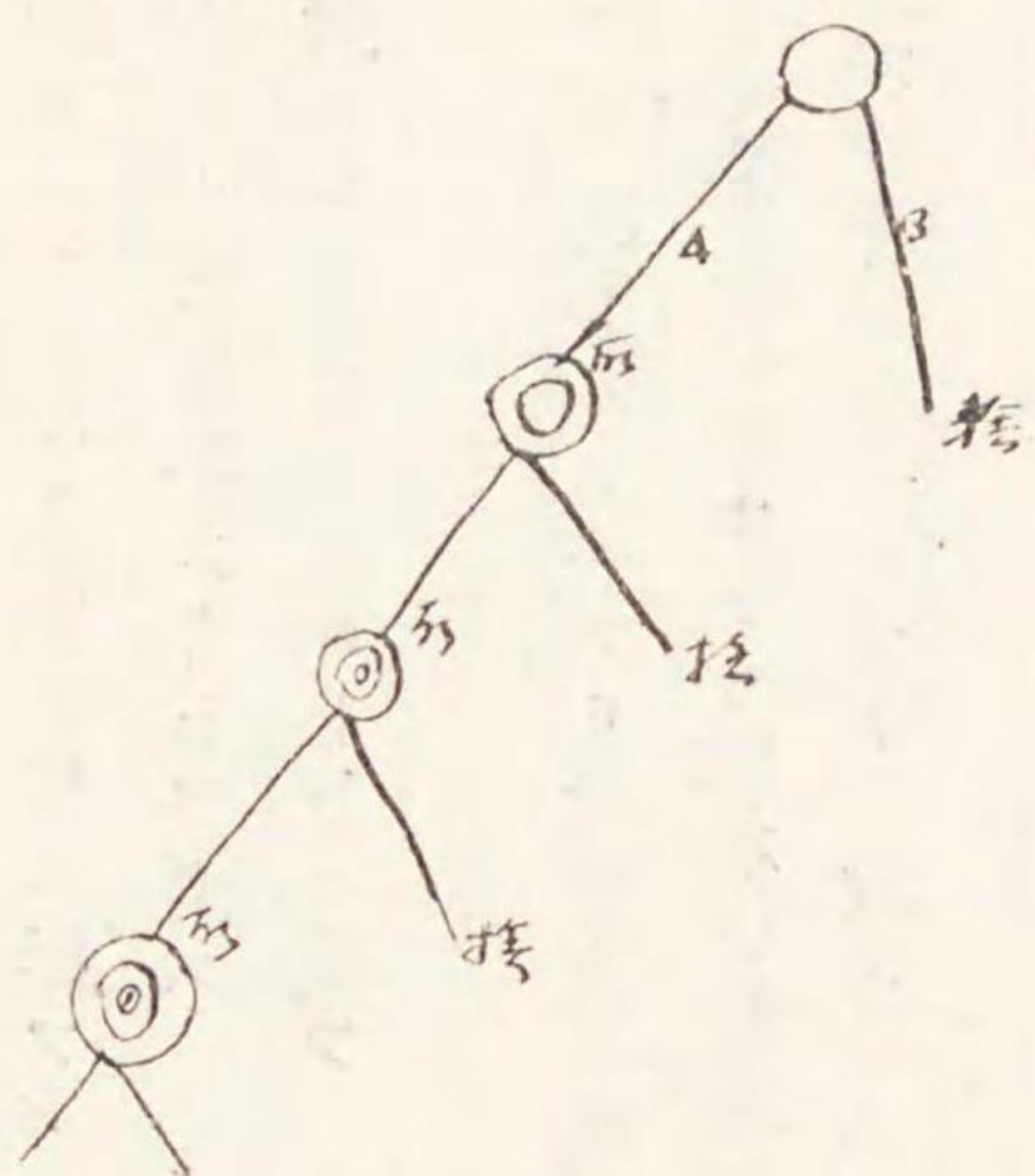
× Peter ハ勝利者タルベキカ? 勝利ノ意義如何。

× Alexis ハ必ず敗者タルベキカ? 敗者トハ何ゾ。

× A 甥ノ財産ヲ管理ス。事業ニ失敗ス。財産ヲ流用ス。之ヲ辨償セントシテ成ラズ。甥成長シテ財産ノ讓渡シヲ請求ス。A 言葉ヲ左右ニシテ荏苒日ヲ送ル。甥Aヲ以テ惡漢トス。冷刻トス。Aノ煩悶。

片斷 ○ Alexis, Peter ノ嚴烈ヲ厭コトテ以太利ニ逃シ Emperor ニ依ル。Peter Peter [sic] spy ヲ放ツテ其居所ヲ突キ留ム。 Interview。 Tolstoi Alexis ニホスニ Peter ノ手書ヲ以テス。曰ク歸ラバ凡

テヲ許スベシ。歸ラザレバ遇スルニ traitor ヲ以テシ兵力ニテ連レ歸ルベシ。Alexis 書ヲ信ゼズ。歸ルコトヲ諾セズ。Tolstoi 曰ク臣君ノ命ヲ果ス迄ハ何處迄モ殿下ヲ離レザルベシ。何時迄モ以テ利ニ留マリ。何處迄モ殿下ヲ dog スベシ。Tolstoi ハ politician ナリ。功績ヲ擧ゲテ自己ノ器量ヲ示ス爲メニハ何事ヲモ敢テス。Alexis ノ愛妾 Afrossinia ヲ離間シテ Alexis ヲ孤立セントハカル。又 Emperor ハ Alexis ヲ protect スル意ナキ風評ヲ流布ス。Alexis ト Afrossinia p. 326.



Creation

formal and internal trying point

活動; (state); copy (real or imaginary).

Its recurring tendency

Action; (change); copy (real or imaginary). — Plot — unity

Creation

Expectation Surprise

(陳腐) (Shocking)

Art for art? or is art subservient to something deeper than art? enjoyment reaching x through enjoyment

徘徊趣味

1. What will come after a. reaching b thro. a. causal links. 推

移趣味 (partial)

because end in itself 2. 一篇ヲ讀ミテ後ニ起ル x. 一篇ハ means. x ハ end.

3. 1. 2 ヲ 徘徊趣味ト Blend スル理由。

○病院

○engagement ○memento

○女ノ先生、her ring engagement female view of the other sex

○御房サント東洋城ト虚子

○高須賀淳平女子大學へ忍び込む術。

- 汽車轢死以前
- 線香島ノ事
- 陸軍大學デ試験 梯子段ハ何段アルカ、御前ハ御前ノ妻ノ姦通シテ居ルノヲ知ツテ居ルカ
- 夢枕ニ立ツテ色ヲ白クシナケレバ不可ト云フカラ、クラブ白粉ヲ使フ
- 己ハ婿ニ行くから入夫をしろ
- 大人ト支那留學生ニ呼ばれた。

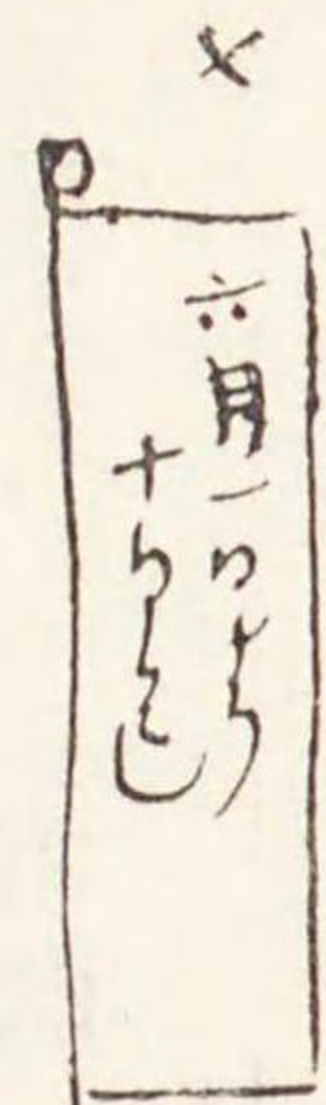
- 羽織ノ目方ヲハカリ競スル。目ヲ眠ツテハカル、ドウシテモ自分ノ方が重イ
- 金満家。器量好ミ。嫁ヲ探ス。芝居へ行ク。肺病。病中毎日手ヅカラ髪ヲワケル。香水。香水ヲ贈ルモノアリ。死ヌ迄枕元ニ置ク
- 七時半起床。五時半晩食。八時半迄就眠。八時半より三時半迄起床。

- The sight of human misery
- 柔術ノカタヲ教ハル

- 馬鹿囃ノ稽古
- 口ノキ、様

- Turbine engine necktie
- Brampton Urn.
- Law of remuneration
- ハツカ鼠ノ神經

片斷



茄子苗。月見草。大。コスモス。
 トマト。松葉牡丹。芋。

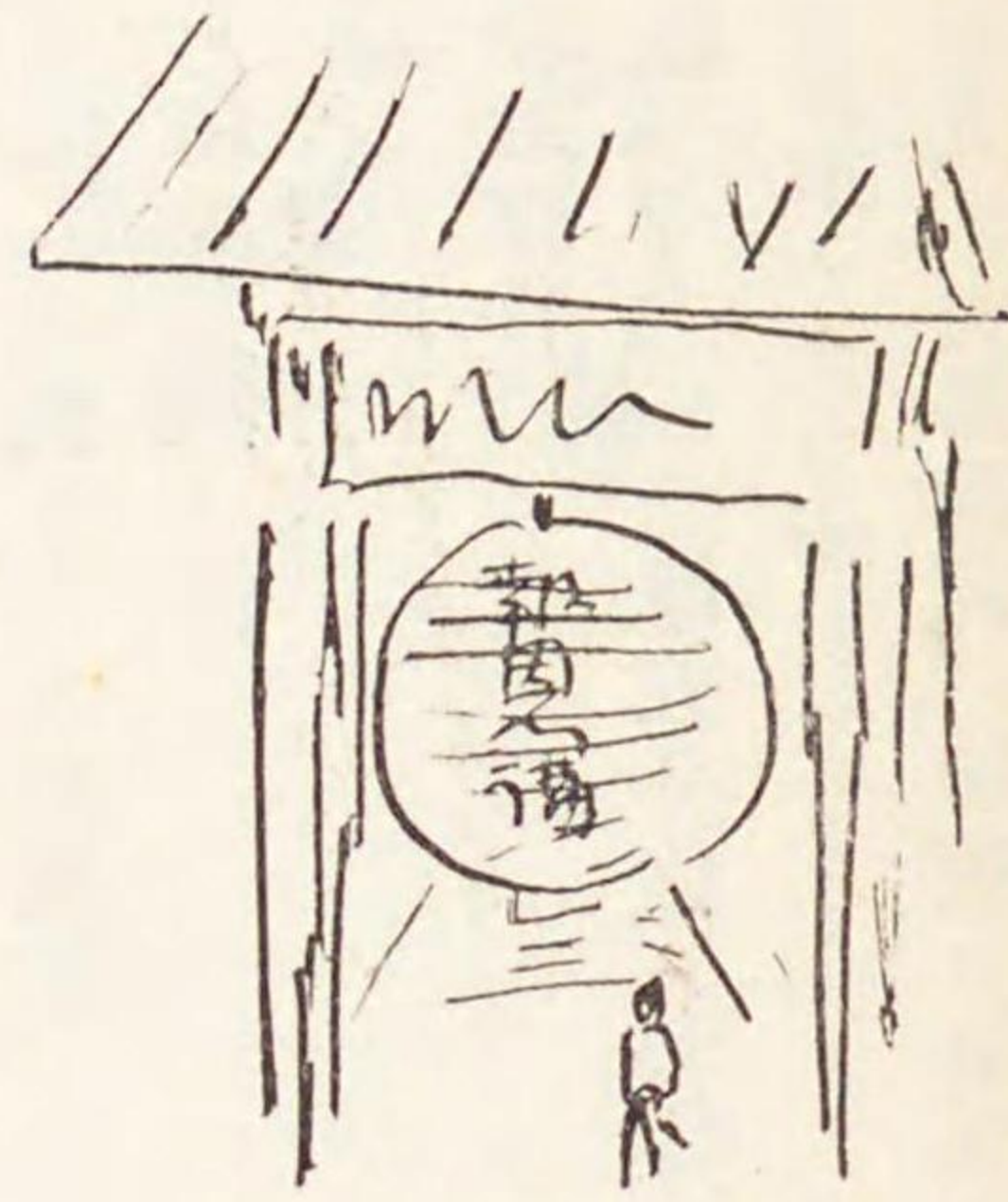
斷片

明治四十一年初夏以降



天狗草履發賣所
中島善太郎廣告

甘酒屋。 苗賣。



畔柳。喉頭結核。森田 川崎のピストル。森。妊娠細君嘔吐。小兒百日咳。夜眠レズ。

後藤。不眠

肺炎

浦谷。二十五圓。下駄ノ鼻緒
佐藤。免職



出齒龜。田子浦入水親子三人脊髓病。本所小女二人同時入水。

中尉。副官を斬ル(戀ノ恨)

建部博士離縁。

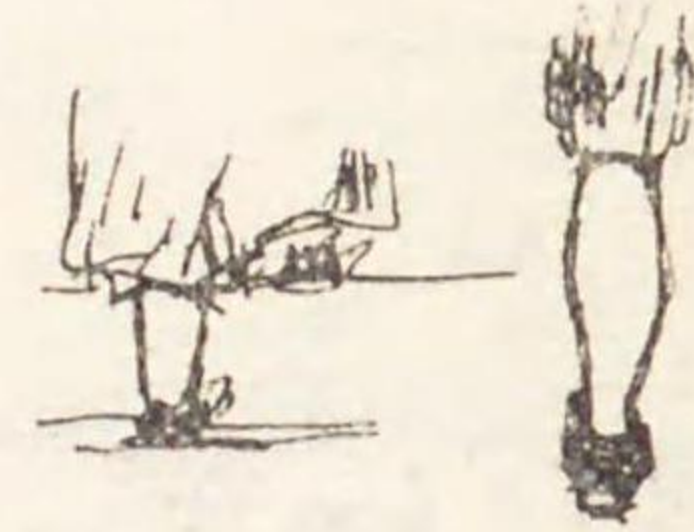
大久保臀肉斬取事件。

長一寸八分幅一寸三分厚五分位ノ雹降ル(六月八日)

妊婦震死。(眞鍮ノカンザシ)

四十二ト三十九ノ夫婦情死。美貌ノ妻強姦セラレ。其事評判トナル。夫ノ嫌疑。妻ノ慰撫。情

死。



六月十日

五日某家ノ下女チンを連れて芝公園辨天ノ所ヲ散歩ス。午後七時頃。暴漢之を襲フ。チン暴漢ノ頭ニカミツク 事ナキヲ得タリ。

禿ヲ自慢スル者ハ老人ニ限ル

片斷

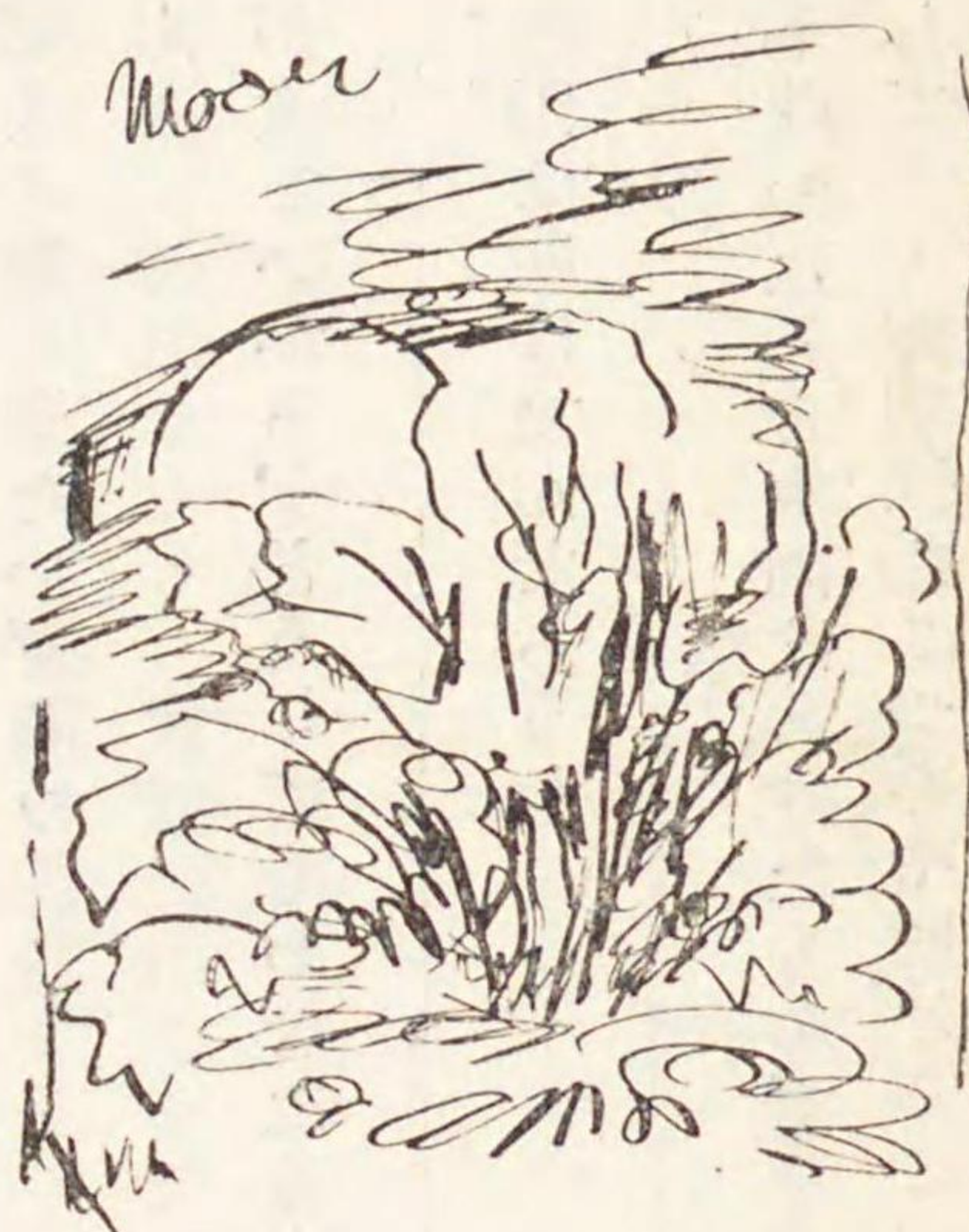
日本外債ヲ佛蘭西ニ募リテ將ニ成ラントス。露國日本ガ自國ニ對シテ第二ノ作戰計畫アルヲ名トシ、極東ニ於テ蒐メ得タル材料ヲ提ゲテ抗議ヲ佛政府ニ申シ込ム。日本ハ已ヲ得ズ日露協約ノ相談ヲ持テ出シテ辛ウジテ外債ヲ募リ了ル

明治十四年一

六月十三日故法學士澁谷慥爾(二十八年没)未亡人三人ノ遺子ト共ニ横須賀ニテ入水ス。長男次男共ニ多病ナル故ナリ。死スルヲ得ズ。
コッホ來ル。横濱烟花ヲ揚グ。小蒸氣ノ出迎。花束進呈。棧道ニ花ヲ撒ク。馬車ニテ停車場着。新橋着。出迎人無數。

國際私法。婚姻ノ場所。國境ニテ甲ノ國人乙ノ國人ヲ狙撃セシ場合。Held seaニ於テ兩國船舶衝突第三國ニ訴フル場合。兩國人賣買(品物)ノ時。英國ニテハ品物アシキ時買手ノ損トナル
Caveat Emptor 大陸ハ反對

六月十六日川上眉山自刃ス。頸動脈切斷



十九日静岡縣ノ田舎 親子三人古池に飛込溺死。妻ト養父ト折合はぬ爲め離縁を逼られたる結果といふ。
二十日腰越デ巖頭より入水シタル尙儂アリ。
○一昨年より今年四月に至る迄嬰兒十五人を貰ひ(育料十五圓乃至二十圓附)悉く之を遺棄せるものあり。

片斷

Fresh university graduates looking for their positions.

- Unruly wife
- Husband
- Advice of a friend
- The husband follows the advice
- Lights upon a new way of treating his wife
- Final development

田子の浦の海月を盗む様なものである。盗まれもせず。盗んだ處で利益にもならない

甲 職工 支那人ノ顔ハ平たいだらう

乙 うん

甲 國が大きいから、どうしてもあゝなるんだ

甲 婆。もう梅雨は明けたんだらうか

乙 婆 まだだらう

甲 昔は神鳴がなると梅雨はあけたもんだが、近頃ぢやどうして〜
乙 ー どうして〜、神鳴位なこつちや明けるこつちやありやしない

諸君、第九條を見給へ小指で米俵を一俵振ふ法と云ふのがある。——學理で行けば譯はない。



六月二十二日

秀英舎ノ職工鑿を揮つて女二人ニ重傷ヲ負ハス。二人ハ母ト子ナリ。職工此子ヲ嫁ニスルノ約アリ。性不良ノ爲メ破談トナリ、愛想づかしの云はれたるを憤りてなり。
向島寺島村第六天境内に女ノ裸體ノ死體アリ。

自然ハ寶石を作ルニ幾年ノ星霜ヲ費ヤシタルカ。カクノ如クニシテ作ラレタル寶石は幾年ノ星霜ノ間カクノ如ク靜カに輝クベキカ

六月二十四日

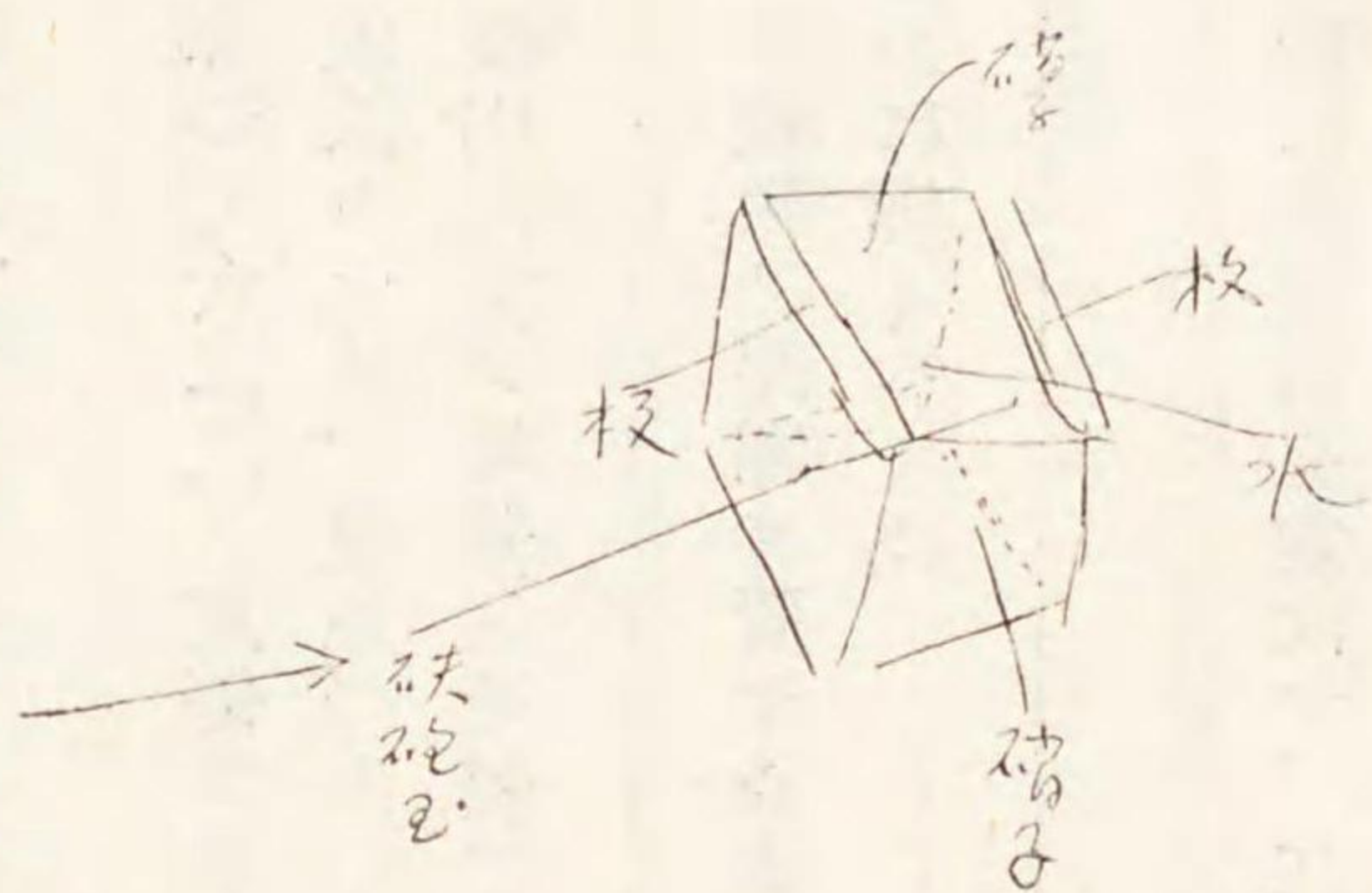
妻と計つて病氣の姉に毒饅頭を食はず。江州のもの
千駄木のもの離別を悲しんで長崎諫早の夫の庭前に忍び入り毒を仰いで死す。

二十六日

浦和中學校長陰莖を切り自殺ス

二十七日

夫肺結核、貧、妻子二人を連れて自殺セントテ諸所を漂泊ス



硝子が破レルドラウカ。破レスドラウカ。遣ツテ見ナケレバ中々分ラナイ。やツテ見タラ。硝子が部屋中へ飛ンデアブナク怪我ヲスル所デアツタ。

苦學ヲシテ卒業シタ人ガ嫁ヲ貰フ時ニ富豪カラ貰ヒタガルドラウカ。又は同程度ノ家カラ貰ヒタガルドラウカ云々

人事問題ノ解釋ハ硝子ヲワル砲丸ヨリ餘程複雑デアル。

然ルニ人は一人事問題ニハ必ず solution ガ一ツシキヤナイト思フテ平氣ナコヲ云ヒ又平氣ナコヲヤル。

人事問題ノ solution ハ何レノ場合ニテモ兩極端ノ二様ヲ含ム。其中間ヲ合シテ三トナル。之ヲ細カニ分類スレバ限リナシ。

Why do we read books?

Flaubert

Daudet

Bubbling of the green field

Is this the face that.....

Form plot ground-plan sectional view

Matter. Form given waiting to be filled in with matter

Matter given stretching itself without any form.

Unity of form and matter

Causal unity

Atmospheric unity

Emotional unity

【三四郎】

- ① ○汽車、1 女ノ話。同ジ停車場デ下リル。同ジ宿屋ノトマリ
- 2 髯ノアル人ニ逢フ、其話シ
- 2、○汽車、第2ノ女ノ話、(歸ル時、母カラノ手紙)

大學構内ノ話

Horror of stupidity

Festival

First visit on C. (thinks C is not so well equipped as litterateur^{sic})

C's experience (as of love etc) bookish therefore second hand; must not know, but feel, feel love directly.

Buying a pistol

C's want of appreciation of his new piece

D's great appreciation of.....

② (Aノ友達)

○ His criticism on (C) as man of biforcated^{sic} nature

○ 國府津宿

○

○ 大學構内ノ話

(peculation)

○ 女子大學へ入ル事

○ 見ヤげ

Festival

Unscrupulous way of reporting

transcribing

etc

A very poor opinion about C as art critic

Theatre

Pawing a pistol

如何ナ事タツテ

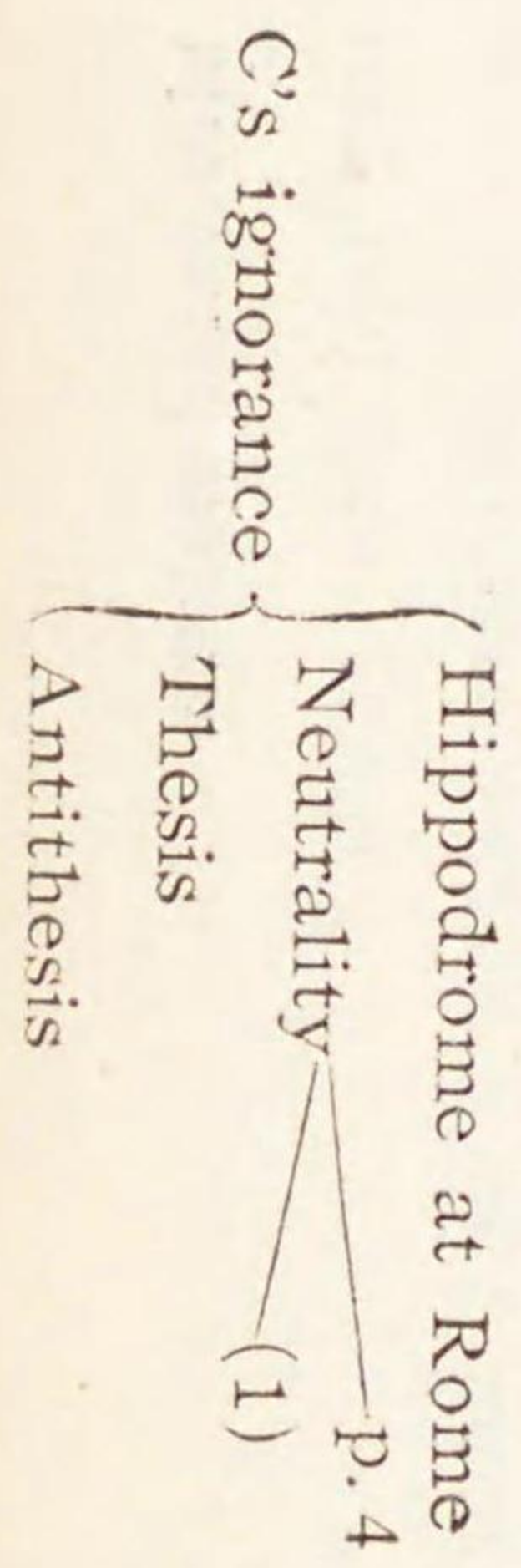
ノツビキナラネー

腹ヲ抱ヘテ笑フ
手ヲ拍ツテ笑フ
恐レナガラ
豈計ランヤ
其義^原ナラバ
コロゲ返ツテ笑フ
割レツ返ル程
神變^原不思議
イヤミツタラシイ
etc

© (Aノ先輩)
Aニ逢フ汽車

位置ノ話

Popularity and machination



Personal appearance and laughter
 Miracle Occult *art* and occult *nature*
 Swedenborg
 Conception of love
 Use of money and its power
 Festival
 (Frock coat)
 Sharp and Macleod
 Plagiarism
 Back-biting
 Through books on painting margins
 on theatre—Greek life
 Fountain head

D
 Speaking
 Letter
 Engagement

片斷

Festival

○ Suddenly put on.....and comes out to verandha to see.....^{sic}

○ See two pictures

○ { versus mother
versus A

○ Tears

○ Athletic sports

○ Teeth

㊦

㊦ D's friend

㊦ D's mother

㊦

Artist Type of the Eastern beauty.

Types of beauties—convex and concave

Flat and deep

White cloud

Exhibition. 展覧

manner

Form and spirit— speech

expression

㊦ D's father

(1) (2) (3)

Evolution is different from stating plain truth. For truth contains both praise and blame at the same time.

藤村評 薄野呂、馬鹿殿様、御平ノ長芋、蕁菜

Law of acceleration

rotation crop

{ Empirical realism and a transcendental idealism (Kant)

{ Transcendental realism, *ipso facto* empirical idealism (Berkeley)

Is space within or without us? v. p. 376

○ Serious (end in itself) trivial (means)

a. to let one know there are ugly things—1 intention—end in itself

b. to let one peperate^{sic} ugly things—2 intention—end through the 1st

- Athletic sports
- White cloud.
- Romantic Irony—meeting—out of print—銅像
x + x' = constant

(2) B

七顛八倒

White cloud—meeting—銅像

Misanthrope

Bathing

Philanthrope

Eel

口ヲ極メテ

Musilage

一言半句モ出ナイ

口供

妥協策ヲ講シル

短兵急

一知半解

mewing

Theatrical performance

Serious and trivial z. (1)

Festival. Pine tree. Pine tree dying how?
 Jewelry after a fire
 War, struggle for existence and literature

α offends β

γ offends β

(α) seeks reconciliation in a friendly way, but without any explanation or apology. And is received by (β) in the politest possible way.

(δ) advises (γ) to take the same step. But γ declines on the pretext that it is no use. And strongly insists on the measure to offend β more and more, and to wait till β collapse.

The reason.....

(3) A

mewing

○ law of acceleration

○ rotation crop

○ Empirical realism and a transcendental idealism

Theatrical performance

○ Serious, and trivial v. (1)

○ White cloud

—meeting—Romantic Irony—out of print—銅像
bathing.

Exhibition

Form and spirit Is spirit discernible through form?

Conscious

{ direct falsehood

{ indirect falsehood

unconscious —

slightly cons. —

○ on errand.

detained by D

4

5

6

Pressure of light proportional to the square of the radius (area)

Gravity proportional to the cube of the radius (mass)

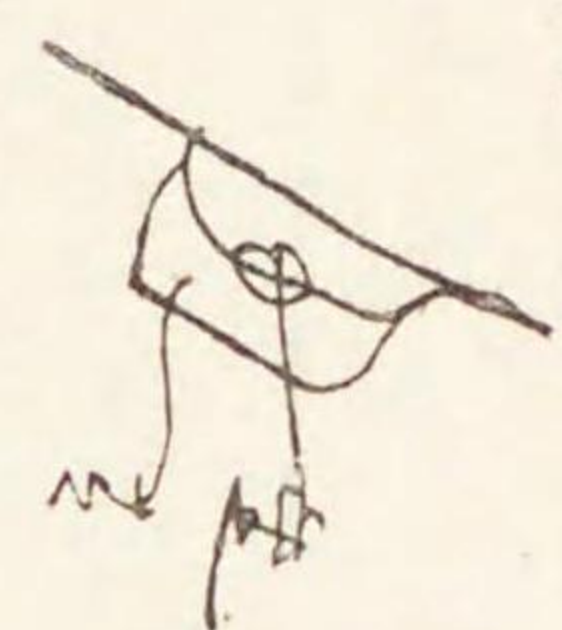
∴ 物小ナレバ小ナル程 light ノ pressure が強クナル、引力が負ケル、カラ light ニ吹キ飛バ
チレル。comet ノ tail, sun ノ opposite direction ニアル譯

水晶ノ粉ヲ酸水素吹管ノ燄デトカシテ^原吹ク其カタマリヲ二ツ合セテ置イテ左右ニヒクト絲ガ
出來ル

片斷

弧光燈ノ光

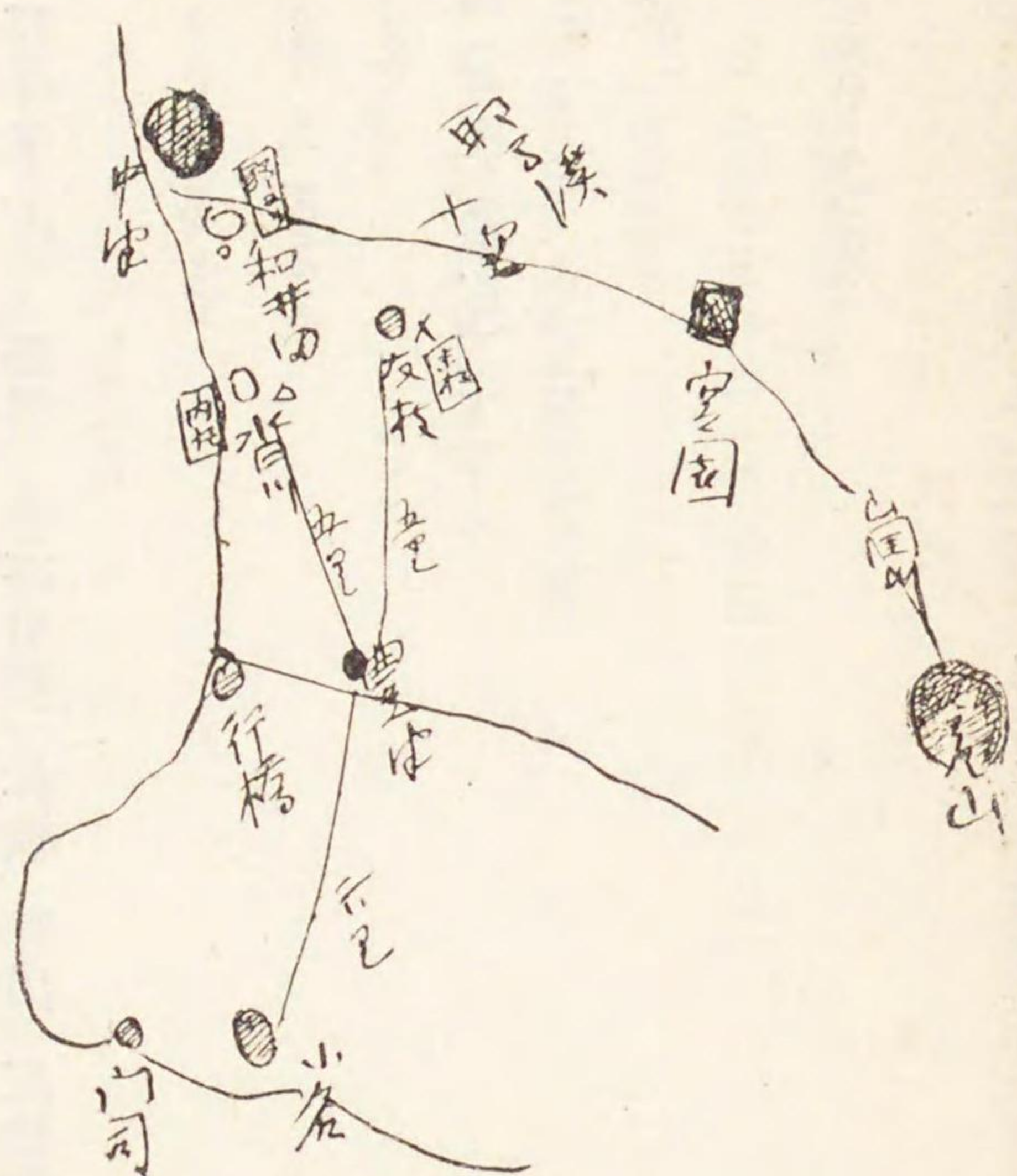
Race course	500 m.
100 m.	.13 second
1000	2 30
Hammer	12 m.
Cricket 杭	
Ball	9 m.
Pole	4 m.
障害物 垣、棚、	
團隊競争 resultant	
Champion flag	



末廣——中津の殿様——朝吹下宿ヲ調べる。酒のむ謝絶。

荒川——華族女學校教師（謝絶）

末松——西村に嫌ハレル。朝吹ニ戻る（謝絶。）



中村不折。
髮結床。此形式デ刈リマスカ。

コックリサンノ話
既婚者、未婚者、子供ノアルナニ就テノ觀想

競馬ヲ損ヲスル

御かみさんはありますか。

濱町 醫學生小供ノ診察。仙臺出張。林檎。呼出。反物屋の嫁。金をかりては前回ノ借ヲ返ス。
焼火箸。

1 Meeting of lovers

2 Bouquet

3 Wood (a scene in)

{ Egoism

{ Altruism

Bilious man—cynic

When gods are reduced to one, many denominations are begot

Artist table-speech

Current of criticism turned by the opinion of the duke

× Age of expansion—

× Age of unbounded joy and hope

× When pessimism comes in

× Petrification, disintegration

× Perfection, degeneration

× New Vista

Two young people

—— flirtation

—— vanity wounded

[[三四五]]

片斷

○ Is spirit discernible through form?

○ Is the spirit and the form identical?
manner, speech, expression—just indices to denote the condition of the spirit?

○ Why is it good form sometimes cause ill feeling and bad form do not. ∴ Virtuous conduct does not always have the good effect upon the man toward whom it is direct; as is expected.

○ Is it prejudice or want of the sense of justice or is it because of too delicate sense of justice?

○ Is his virtue an end in itself?—the vital question
or is it serious—

Conscious	{	direct falsehood
		indirect falsehood
		half cons. falsehood

Uncons. falsehood

Indefinable influence of poetry

The significance of common conventional phrases.

× (Stop and reflect)スル art。 是ハアル官能的ノモノヲ見テ、何ダカ通過スル事ガ出来ズニ、佇立ス。ケレドモ其官能的ノモノハ何時迄經ツテモ官能的ニ appeal スル丈ナリ。ソコデ此 sensuous ナモノヲ reflect シテ奥ヘ入り底ニ meaning ヲ見出ス。或ハ analysis.

× 芝居ハ聲ヲ普通ノ談話以上ニ擧ゲネバナラズ。創作ニ於テモ是ト同様ノ artificiality アリ。夫ハ necessity カ、物數奇ノ厭味カ、Symons ハ D'Quincey^{sic} ニ此辭アリト云フ

× 眞面目ナモノガ考ヘル時ハ 凡テノ pleasure ハ皆 illusion デ凡テノ sin ハ reality ナル如クニ見エル。何故ニ我等ハ双方ヲ illusion ト見做シ若クハ双方ヲ reality ト見得ザルカ。

They are, however, the same thing; only the difference of looking at judgments. But.....

Kant's Categories

Categories a priori

Query

a priori categories enter into judgments

∴ every judgment can and must be referred to those categories, for no judgment is possible outside them.

Isn't this topsy-turvy way of making use of categories?

Whether empty categories are filled in with the contents of judgments or from filled-in judgments, *we* abstract categories is the ground question.

日記

明治四十二年三月二日より八月二十八日まで

三月二日 火

雛を賣る店。櫻の作り花。鯛と榮螺と蛤を籃に盛りて青き笹を敷きたるが魚屋の店にあり。赤く塗つた蒲鉾も澤山並んでゐる。花屋が赤い桃の花を竹の筒に挿してゐた。室咲と思ふ。梅しきりに咲く。

明日小松原隆二英國へ行く。

朝、皆川正禧よりザボンの皮の砂糖漬來る。

凡て春めきたり。雨に香あり。

今日も敦賀より繪端書來る。無盡藏也。

二月より菜の花を瓶裏にさす。是も室咲か

冬去つて漸く生き返る。何處かへ行つて一日遊び暮らしたし

三月三日 水

朝新橋停車場へ行く。小松原隆二洋行。風烈。丸善ニテブルジェの小説とバザンの小説を買ふ。田中君子さんが蟹を呉れる。藁をほどいたら中に赤いの二疋向ひ合せて這入つてゐた。籃の縁

が木で出来てゐた。好い感じであつた。

〔來信〕 田中君子

三月四日 木

慶應義塾講演依頼の返事

〔來信〕 橋口貢歸京 森細君病氣

三月五日 金

「クレイグ先生」以外に永日小品の最後の一篇を書いてくれと素川より申し来る。「變化」の一篇を送る。

濤蔭が書齋で何かしてゐると思つたら、知らぬうちに水彩畫の船と海を額へ入れて行つた。是は模寫であるが、色が面白く出来てゐる。氣持のいゝ畫である。

榎本吉それがしなるもの来る。懸合事也

〔發信〕 鳥居素川

三月六日 土

要吉朋子九段の上での會合の場

煤烟は劇烈なり。然し尤もと思ふ所なし。この男とこの女のパッションは普通の人間の胸のう

ちに呼應する聲を見出しがたし。たゞ此男と此女が丸で普通の人を遠ざかる故に吾々は好奇心を以て讀むなり。しかも其好奇心のうちには一種の氣の毒な感あり。彼等が入らざるパッションを燃やして、本氣で狂氣じみた芝居をしてゐるのを氣の毒に思ふなり。行雲流水、自然本能の發動はこんなものではない。此男と此女は世紀末の人工的パッションの爲に囚はれて、しかも、それに得意なり。それが自然の極端と思へり。だから氣の毒である。神聖の愛は文字を離れ言説を離る。ハイカラにして能く味はひ得んや。

〔發信〕 森卷吉 橋口貢 慶應義塾長澤壽一へ斷狀

〔來信〕 坂元三郎 田中君子 紫芳社(元園町二、四) 中村武羅夫(神樂町二ノ二三六)

島方 モヅメカヅ子

三月七日 日

Die Geschichte von den sieben Geheanten.

〔來信〕 副島松一 野間眞綱

三月八日 月

榎本某又懸合ノ爲ニ來ル。

〔來信〕 皆川正禧(鹿兒島春日町三七濱崎方)

三月十日 水

終日雨。春寒。

春陽堂「文學評論」の奥附千枚を取りに来る。
大阪朝日滿三十年の記念號を出す。紙數百頁。

三月十一日 木

快晴。麗日甚快。禽鳥和鳴。

夜、虚子と土車を誦ふ。東洋城西洋の蠟原即立ヲ吳レル。
ヘラーの「現今獨乙文學」ヲ讀ミ了ル。

三月十二日 金

曇。新來らず、午後清嘯會へ出向く。歸途雨。

「ヤング」なるもの手紙をよこす。「ヤング」とは何者なるや知らず。亞米利加のひま人なるべし。

「花月」の戀は寐られぬと云ふ所を誦ふ。中々出來ず。あれは昔の俗謡なるべし。
アンドレーフの獨譯ジーベン、ゲヘンクテンの一章を豊隆に讀んでもらふ。

三月十三日 土

曇風烈し。物皆濕ふ。春雨の感なし。されども鶯鳴く。

淳平の細君今曉死去。寅彦土佐の國元より端書をよこす。菜の花盛なる由。柳は芽を吹ける由。
博文館小説辭典編纂の爲なりとて雪月花のうち何を好むかをきゝに來る。愚なる事なり。加計正文山羊を飼つて、山羊と相撲をとる。森卷吉來る。開化井を食つて歸る。讀賣新聞新築記念號を出す。余の手紙を載す。

〔來信〕 加計正文(アキ山縣郡加計村) 寺田寅彦(國元) 博文館 高須賀淳平

三月十四日 日

昨夜風を冒して赤坂に東洋城を訪ふ。野上白川、山崎樂堂、東洋城及び余四人にて櫻川、舟辨慶、清經を誦ふ。東洋城は觀世、樂堂は喜多、白川と余はワキ寶生也。従つて滅茶苦茶也。白川五位鷺の如き聲を出す。樂堂の聲はふるへたり。風熄まず、十二時近く、電車を下りて神樂坂を上る。左右の家の戸障子一度に鳴動す。風の爲かと思ふ所に、ある一軒から子供を抱いた男が飛び出して、大きな地震だと叫ぶ。坂上では壽司屋丈が起きてゐた。

今日も曇。きのふ鯉節屋の御上さんが新らしい半襟と新らしい羽織を着てゐた。派出に見えた。歌麿のかいた女はくすんだ色をして居る方が感じが好い。

〔來信〕 東洋印刷株式會社 タイムス社 澁川柳次郎 小宮豊隆

昨夕大久保から戸山を散歩す。土乾かず、護謨の上を歩く様な所あり。森の杉赤黒く見ゆ。今日曇晝頃晴三時頃又曇。散歩途中で鈴木春吉に逢ふ。一所に招魂「社」の梅を見る。英語の先生と博文館の外交記者菊池曉汀なるものを夜料理屋に置いてきぼりにした話をきく。残された兩人は初対面の男で一文も持たないで、あくる日迄飲みつづけた末、とうとう巡査を呼んでこられたといふ。

留守に本多嘯月來る。逢はず。

ツルゲネーフの手紙ヲ讀む。トルストイとフローベルに敬服してゐる。

三月十六日 火

寅彦來る。昨日國元より歸りし由。乗合船のうちにて、「英國では何と云ふか知らないが、此方で云へばダイナマイトだ。あれを^原舐めて見たら一日頭が痛かつた」と話して居たものがある由。スルメ鯉節の御見品。

西村濤蔭來る。朝若杉三郎來る。

三重吉の手紙に「きたない袷天をきて、繩を帯にして千葉へ行つて酒を呑んだら刑事につけられた。當時稻妻小僧が逃亡した最中でした」とある。

〔來信〕 鈴木三重吉

三月十七日 水

朝起きると眞白に雪が積つてゐる。厚さ三寸ばかり、午少し前やむ。賣生新例によつて來らず。朝澁川玄耳綱曳にて來る。二十日出帆世界一週の途に上るといふ。暇乞かた／＼次回小説の相談也。「煤烟」のあとを與謝野鐵幹がかいて、其次を自分が書く筈に取り極む。多分掲載は七月位ならんといふ。

招魂社九段に行つて雪の下町を望む。

「ダヌンチオ」は美しい事をかさねてかく人也。しかも煖室内に入りて上氣したる氣味也。

三月十八日 木

春寒。來客 飯田青涼、野村傳四、青涼短篇二つを持ち來る。傳四茶の間にて鰻飯を食ふ。心理學專攻の菅原教造來る。プロソヂーの心理研究ニツキ質問、答要領ヲ得ズ。傳四と入浴、散歩歸る。夜西村濤蔭、小宮豐隆、高濱虚子、松根東洋城來る。寺田の送別會ニツキ相談アリ。議會を催すとの由。

豐隆アンドレーフ論ヲカク

〔來信〕 龍口了信の學校卒業式招待 野上豊一郎(平信)

三月十九日 金

朝小宮豐隆とアンドレーフの獨譯一章を讀む。獨乙語が少々面白くなる。新今日も來らず、錦町の清嘯會迄出掛けて行く。すると新が大きな聲をして怒鳴つてゐた。やがて生玉子を三つ食ふ。

午飯の代りだといふ。花月を習ふ。こし方より……の所をやつたら、まあそんなものだと言つた。自分では立派に誂つた積りであつた。歸らうとしてゐると虚子が來た。虚子は雨月をならふのださうだ。向ふの辯護士高野さんが私は高濱と同郷のものですといつて挨拶をした。

〔來信〕 小島武雄(轉居)

三月二十日 土

九時玄耳を新橋に送る。久振で朝日の豪傑に會す。土屋大夢が是から塔の澤迄行くから序に横濱迄送るんですといふ。弓削田が夏目さん所から新橋迄は大變ですなといふ。池邊吉太郎が越しました。若松町百二番地といふ。大阪の鳥居素川が來てゐる。いつ來たんですと聞くと二日前だといふ。歸り銀座迄素川と話して來る。明後日午飯を一所に食ふ事を約す。

二葉亭露西亞で結核になる。歸國の承諾を得た所經過宜しからず入院の由を聞く。氣の毒千萬也。

大阪朝日十萬圓で社を新築すと素川よりきく。

妻が寅彦の所へ餞別をもつて行く。シャツ、ツボン下、鰻の罐詰、茶、海苔、等なり

午後より雨、寒き方、鶯啼く。

電話にて春陽堂へ「文學評論」の送付(例により三十部)を促がす。賣切の由答あり。二十五六日頃再版出來のよし

八重子「鳩公の話」といふ小説をよこす。出來よろし。虚子に送附

〔發信〕 虚子、八重子

〔來信〕 峯間鹿水(牛込若宮町二七、教育公論編輯局) 會津八一(越後針村) 短冊所望

野上八重子

三月二十一日 日

二十一日快晴、甚快、十一時頃より曇る。

午後小宮が來てアンドレーフを讀んで呉れる。散歩高田の方。濱武が金を返しにくる。三十圓。濤蔭來る。桑原喜市オーバル數顆を送つて買へといふ。一個一圓五十錢也。五圓で三個をとる。

寺田の奥さん暇乞にくる。忙がしいとてすぐ歸る。紅屋の唐饅頭をくれる。

〔來信〕 野上豊一郎 本多直次郎 森卷吉

三月二十二日 月

快晴風強し。十一時過連雀町に鳥居素川を訪ふ。弓削田が來てゐる。三人で神田川へ鰻を食ひに行く。不折山人來り會す。不折の顔少々蒼膨れの氣味也。四時歸る。五時過着寅彦暇乞にきて待つてゐる。本多嘯月來訪。

〔來信〕 東洋城(水戸より) 島村抱月(演説の依頼) 桑原喜市

三月二十三日 火

曇其うち降り出す。学校の卒業式。筆と恒が上級。筆子は諸課目大方甲也。之に反して恒は乙と丙也。昨日寺田から留守中預つたオルガンを子供がしきりに鳴らす。筆は少々出来る様也。朝眼が醒めると豊田醫學士が来る。顔を洗つてゐるうちに診察を了へて歸る。伸六の華丸に水のたまるのは針で穴をあけて管でとるべしとなり。之は精液の管から洩れる由。但し大事にはなる氣違^原少なき由。外科の渡邊さんを頼む事にする。伸六は満三ヶ月也。大きな華丸を有して、重さを感じざるが如し

御彼岸の御萩を作る。筆子が雨中、車に乗つて中島さんへ御萩をやりに行く。
小宮とアンドレーフを讀む。二人で望月を謠ふ。

〔發信〕 島村抱月（謝絶）

〔來信〕 春陽堂本多直次郎 高濱清（寺田の送別會）

三月二十四日 水

曇。九時頃虚子来る。十一時頃星が岡茶寮に行く。寅彦送別會。雨氣歇んで風甚し。寶生新來る。大原御幸。雲雀山。を謠ふ。

虚子、碧梧桐と千壽、俊寛を謠ふ。夜腹中違和。苦しき爲め屢ば眼を醒す。半夜妻に懷爐を作つてもらふ。その爲め寐る事を得たり。

夜西村濤蔭チユーリップ一束を送り来る。

〔來信〕 米山熊二郎（天然居士寫眞の件） 浦瀬白夜^原 杉田某 田中君子

三月二十五日 木

晴。心地あしき爲め寺田の立出を送らず。妻が代りに行く。神樂坂へ行つて散髪。松の盆栽と君子蘭を買ふ。氣分あし。食慾皆無。

明日神田にて誦會あり。清經のシテを仰付けらる。

〇〇〇〇來訪。四月下旬から宅へ置いてくれといふ。色々譯を話して歸す。東京へ来たのは元の夫の所へ行つて、あなたが悪いと仰やいと云ふ爲也と語る。

三月二十六日 金

晴、午前アンドレーフ習讀。午後より神田の俱樂部へ誦の會に出席。舟辨慶、望月、清經、七騎落、三山、紅葉狩なり。皆々初心。高野さんは御經を上げる様な聲を出す。菅能さんは應接をする様な言葉を使ふ。天下斯の如く幼稚なる誦會なし。其代り誰も通をいふものなく至極上品也。あとで新、碧梧桐、虚子、かやの、の四人蟬丸を謠ふ。碧梧桐うまし。みぞれ降り出す。車を備つてもらつて歸る。五十錢取られる。

夜胃又不安、灰爐^原を抱いて眠る。

〔來信〕 本間久 杉原曠

三月二十七日 土

快晴、十一時に起きる。パンを食つて、たゞぶら／＼す。閑適。髭の白髪を抜く。細君の顔少しく美しく見ゆ。座敷に生けた丁字少しも香を放たず。

田中君子今日敦賀へ歸る由故昨日細君に頼んで半襟を贈る。

〔發信〕 本間久 杉原曠

三月二十八日 日

曇、朝小宮が來テ、アンドレーフを讀む。是から鈴木三重吉の所へ行くといふ。多分廣島の家を賣る相談の爲め呼ぶんだらうといふ。五圓取つて行く。十二時過ぎ田中君子暇乞に來る。半襟の禮をいふ。越山頼治萬朝に取消を出して呉れたといつて禮に來る。つと入りの玉子を呉れる。見掛雅也。月末にて濤蔭困るだらうと思ひ「三四郎」の校正料として又十圓を贈る。手紙のなかへ封じてやる。

〔發信〕 犬丸貞吉

〔來信〕 犬丸貞吉 高田知一郎(西村濤蔭の件)

三月二十九日 月

曇。昨夜えい子咽喉痛み咳嗽頻也。あい子と一所に寐る。夜中にわが腹を蹴る事幾度なるを知らず。降參。十一時頃より降雨。

〔發信〕 野間眞綱 副島松一 春陽堂(文學評論の催促) 土井林吉(かした本の催促)

〔來信〕 橋口貢(轉居)

三月三十日 火

曇。午、本間久來る。日本外^原の通俗譯をやると云ふ。余の俳句を表紙のちらしにするといふ。胃よからず。終日蟄居。夕暮豊隆千葉より歸る。三重吉が酔拂ひになぐられて怪我をして、病院に在るといふ。始めは眼に故障があるとかにて心配したる由。今の處では大した事もなさうなり

〔來信〕 高田知一郎 岩崎太郎 明治大學

三月三十一日 水

薄日。妻伸六を連れて大學病院に行く。昨夜本間久より貰ひたる秋田露の砂糖漬を食ふ。胃痛安眠を害す。

養生。鶏卵、牛乳、パン少々。夜蕎麥を三口程食ふ。

午後新來る。綾鼓を少し習ふ。夜安倍能勢^原來る。草紙洗と三山を謡ふ。

〔發信〕 鈴木三重吉 副島松一

〔來信〕 浦瀬七太郎 副島松一 石田源一

四月一日 木

晴、日少し弱し。伸六の療治は四五歳にならなくては出来ぬ由。伸六はそれ迄大きな華丸をぶら下げてゐなければならぬ。昨日鈴木禎次の御母さん死ぬ脳溢血也。座敷の丁字の花香ふ。

米山熊次郎氏天然居士の引のぼし寫眞を携へて来る。何か題せよといふ。

夜白川、東洋城、濤蔭、豊隆来る。豊隆、東洋城一泊

植木屋が土管を掃除したら、裏の田中彦兵衛君の庭へ水が落ちて来るといつて、彦兵衛君が来る。

〔來信〕 田中君

四月二日 金

快晴、朝浦瀬七太郎来る。越後より熱田へ轉任也。越後の飴を御見舞に貰ふ。

細君が白木屋の見切賣出しに買物に行く。今日は松根が妻と豊隆を食傷新道の初音へ連れて行くのだといふ。白木屋で襦袢の袖を見て来といつてやる。

春陽堂へ文學評論の獻本の催促を豊隆にたのむ。

散歩、東洋城又来る。細君鈴木へ通夜に行く。城一泊。

襦袢の袖は羽二重しかない由。羽二重の袖はいやだ。細君葬式の黒帯を買ふ。九圓。豊隆のアンドレーフ論を読む。

散歩の時鯉節屋の御神さんの後ろ姿を久振に見る。

植木屋が芭蕉をすからり切つたら、軸の中が青くなつてゐた。今日は其青い所丈が一寸許延びてゐた。

〔發信〕 岩崎太郎（露月の宿所）

四月三日 土

雨。朝起きたら昨日萎れて倒れかゝつたチューリップが眞直に立つてゐた。快。妻歸る。眠いといつて寐る。

大谷繞石より來信。文學評論をよんで教訓を得たとある。誤植を表にして送つてくれる。甚だ恐縮。春陽堂獻本を怠る爲に繞石の買ふ前に寄贈する能はず。

岡田耕三小田原の塩辛を送る。明日東京へ歸る由。「煤烟」に厭きたとある。

鈴木禎次曰く。夏目は鯉節屋に惚れる位だから屹度長生をすると。長生をしなくつても惚れたものは惚れたのである。

文學評論二十八部来る。寄贈人の宛名をかく三部残る。

草が芽を出す。いかり草、かすみ草、鋸草、

〔來信〕 久内清孝 大谷正信 岡田耕三

四月四日 日

陰、昨夜小林さんが来て、左の手頸の脉をとる所に出來た瘤の様なものを見てくれる。大して

障りのあるものぢやないといふ。序に胃を見てもらふ。胃も腸も無論わるい。肝臓もわるいらしい。右の肺の下部が薄弱ださうだ。からだのうちで何處も健全な部分はない様だ。

濤蔭來る。二人で文學評論を郵便局へ持つて行く。

寺町へ下駄を買ひに行く。胃が痛いから腰を掛けて、向ふを見ると毘沙門の境内に高い柳が芽含んで風に揺られてゐる。併んで半鐘が立つてゐる。門の傍の櫻がふくりとしてゐる。前の肴屋で小僧大僧が景氣よく怒鳴つてゐる。演藝館で清國留學生謹演といふ慈善芝居があつた。

四月五日 月

晴陰常なし。細君鈴木の葬式に行く。白襟黒紋つき。夜虚子の所へ文學評論を持つて行く。巨口と小濱を相手にして田樂で酒を呑んでゐる。櫻が咲きかけたからだといふ。巨口は藝者になる女と好い仲になつて東京へ來たのださうだ。虚子酒がうまいといつてしきりに呑む。九時過東洋城來る。虚子ますく酒をうまがる。甚だ太平樂也。自分も常に似ず呑んで駄辯を揮ふ。十一時より諺一番を諺つて東洋城を拉して歸る。明月。不寒不暖。夜行可人。御堀の松。遠くの安藤坂の點々たる燈火。

細君鈴木の穆さんより二十五本入のマニラ價十五圓程のものをもらつて歸る。穆さんが朝鮮から持つて來たものださうだ。

〔來信〕 田中君子 青楊會通知 内田貢 岩崎太郎 若杉三郎 田島道治 本間久

四月六日 火

陰、朝、小宮の稽古。午から天然居士の寫眞を持つて、菅の處へ行く。不在。歸りに狩野へ寄る。インフルエンザ也。部屋のかなかの洋書を見る。菅の細君が十日程〔前〕に御産をした話をきく。狩野を出て九段の御能に立ち寄る。國民新聞の席で六郎、新の鉢の木を見る。四方太、白川、安倍能勢あり。八時頃辭して歸る。細君に俊寛を諺つてきかず。諺つてから難有うと云へと請求したら、あなたこそ難有うと仰やいと云つた。

留守に菅がくる。

二日上海出の端書寅彦より來る。麥綠茶黄のよし

〔來信〕 中村翁 田中勝助(久留米聯隊)

四月七日 水

晴、無事。新來る。綾鼓を習ふ。仕舞の所で降參す。新自分の癖二三を指摘す。新墓口を忘る。車代を借りて行く。散歩。君子蘭と石楠木を壹圓貳十錢で買ふ。植木屋に松の培養法を聞く。日に曝して水をやれといふ。自分の考とは正反對也。早速表へ出す。

米山熊次郎氏に天然居士の寫眞を持たしてやる。

空間を研究せる天然居士の

肖像に題す

空に消ゆる鐸の響や春の塔

漱石

と書いた。

風烈し。午後やむ。

〔發信〕 青楊會(缺席通知) 田中君子(ニシンの御禮)
〔來信〕 大塚保治(文學評論の禮)

四月八日 木

快晴麗日。鶯啼く。ウド、筍、八百屋に見ゆ。

朝野村傳四來る。大島紬を來て居る。大島の學生から學資補助の爲に買ったもの、由。栗田燒の皿をくれる。壹圓五十錢かと聞いたら壹圓四十錢だといふ。

戸川秋骨來。明治大學の藤澤が田岡の雜誌黑白を持つて來る。

夜東洋城、白川、豊隆來る。十一時熊野を諺ふ。

〔來信〕 坂本四方太 米山熊次郎留守

四月九日 金

晴。アンドレーフを讀む。小宮歸る。西村濤蔭來る。エイ子とアイ子を連れて江戸川へ御花見に行く。歸りに御腹が痛む。

大阪へ小説を書く約束あり。もう書き始めねばならぬと思ふ。一向始める氣色なし。自分でも分らず。

船田一雄來。向ふに住んでゐる友人の檢事の處へ來たといふ。玄關で歸る。

四月十日 土

晴、朝下痢腹工合よくなる。南風甚し。机の上に砂がたまる。胴着を脱ぐ。食後花月を諺ふ。

強吟の曲の所へ行つて閉口途中でやめる。ほかの所は中々上手になる。

えい子二三日前より幼稚園に行く。今日自分の製作品を見せる。色紙で制札の様なものを白地に張り付けたるものなり。筆子鈴木へとまりに行つて歸らず。御母さんが死んで淋しいから小供を泊めるのださうである。

秋田露の砂糖漬を食つて細君に叱られる

空際の榎薄茶の芽を吹いて風に揺ぐ。暗灰色の空に雨宿るが如し

〔來信〕 中川芳太郎

四月十一日 日

晴、昨夕散歩矢來で支那燒の一輪插と蠟石の肉入(刻入)を壹圓二十錢で買つてくる。堀出し物と號して大得意なり。肉入を胡麻油を着けて西洋楊枝で洗ふ。小宮が昨晚エリセフに誘はれてニコライのイースター祭を見に行く。夜の十二時から始まる由。風烈し。

生田長江來。塩原が訴へるとか騒いで居るといつて高田と兄が來る。何の意味か分らず。沒常識の強慾ものなり。情義問題として呈出せる出金を拒絶す。權利問題なれば一厘も出す氣になら

ぬ故也。自分は自分の権利を保持する爲に産を傾くるも辭せず。威嚇に逢ふては一厘も出すのは御免なればなり。

〔來信〕 ナシ

四月十二日 月

陰、暖、三重吉病院より手紙をよこす。五十圓貸してくれといふ。

スキンバイン死す。虚子使を馳せて批評を托す。返事をやる。午後江戸川の櫻を見る。群集。櫻は一重を近く見ると寧ろきたなきものなり。花片靜かに散る。豊隆昨日紙入を奪ひ去る中に三圓の銀貨あり。一文なしにて歩く。

加計正文文學評論の禮をよこす。自分の本を讀むと自分に逢ひたいと書いてある。正文、加計町の町長となる。年俵百二十圓外に交際費二十圓。

〔來信〕 加計正文

四月十三日 火

晴。白川スキンバインの評を書いて来る。間違其他二三を指摘す。昨夜エイ子から咳をせいで泣く事頻りなり。濕布をして頭を冷やす。今日、朝は氣嫌よし。午後又泣き出す。小林さんに來てもらふ。コロップとかいふジフテリアは奥の方に出来るから、もし聲が洩れたら呼びに來いといつて歸る。劔吞故小宮に泊つてもらふ。

〔來信〕 戸川明三

四月十四日 水

晴、風砂を捲く。遠くの若芽、杉の古葉、黒き幹相交る上を濛々と烟る。暖かし。庭砌の齒朶の若葉目の醒る様な軟緑を吹く。細君植木屋からアネモネ其他二三の西洋草花を買つて來る。

小宮に銀行から金を取つて三重吉に送つてもらふ。

虚子の來翰。田樂を食はず招待也。同席は東洋城、豊隆、白川丈の由。

明日から小宮にハウプトマンのワーンエルターを讀んでもらふ。今日は新に礎をならはうと思ふ。

夕刻虚子庵に行く田樂の馳走。東洋城狐貍をもたらし來る。酒二合あまりを飲む。雨になる。十二時頃傘と足駄を借りて歸る。

〔來信〕 虚子

四月十五日 木

雨。朝甚しく降る。雲照死す。南摩羽峯死す。昨夜は羽織を疊んで懷に入れて角帯を締めて、山高を被つて、番傘を差して、人のゐない町を歩いて歸つた。甚だ妙な晩であつた。

エイ子未だよろしからず。輕き肺炎の如し。

大橋新太郎招待。龜清樓、舟を墨江に艤す催しあり。斷り状を出す。

昨日新不參。寅彦の端書香港より着。六日出なり。昨日鈴木穆來。色々朝鮮の話を書く。物騒な頃謁見の爲め參内した模様は面白かつた。

〔來信〕 大橋新太郎 寺田寅彦 寶生新

四月十六日 金

快晴、稍寒。新又不來。尾上に張良のカタを教へる爲の由。清嘯會へ行く。「礎」を出す。これをやるんですかといつて笑つてゐた。えい子の病氣まだよからず。小供の肺炎の由。柘榴深紅の芽を吹く。山吹とこぼめ櫻を瓶に挿む。

晩に小説を少し考へる。別段まとまらぬうちに寐て仕舞ふ。

Bahnwärter Thiel を小宮に讀んでもらふ。

日糖會社破綻。重役拘引、代議士拘引。天下に拘引になる資格のないものは人間になる資格のない様なものぢやないかしらん。

〔來信〕 野間真綱 野上豊一郎

四月十七日 土

曇晴。春色澹蕩。

虚子「續俳諧師」を書くとき豫告を出して期日がせまつても何も書く事がない。とも角も向島を散歩しやうといふので散歩に出て、それを書いた。明日になつても明後日になつてもまだ書く

事がないので好加減に向島を引き延ばしたのださうである。呑氣な事なり。宜なり續俳諧師の冒頭十數回の振はざるや。夫を蘇峯が、今度のは大變面白い屹度評判になるでせうと云つたさうだ。虚子も能く出來てゐるが、蘇峯も能く出來てゐる。

四月十八日 日

晴。坂本三郎來。朝日の新聞の用。溜池の白馬會を見に行くエラスケスの模寫あり。歸途仲の町に橋口の新居を訪ふ。長崎鹿兒島より買ひ來りたる書畫數幅を見る。

昨日は本郷の通りで西洋人がパン／＼と云つて箱をひいて歩いてゐた。

〔來信〕 皆川正禧 高田知一郎 岡田耕三

四月十九日 月

陰。夜に入つて雨。西村濤蔭文學評論を再讀して誤植表を作つてくれる。總じて百餘。尤も正さなくともよきものあり

〔來信〕 坂本三郎 宇高忠高

四月二十日 火

晴。蒼空片雲なし。北窓の遅櫻軟葉とともに開かんとす。四條派の畫に似たり。信州柏原の人自から一茶の郷人と號して來訪、一茶の遺稿出版の發起人に加入せよと乞ふ。諸君子の後に署名